

「地方創生に関するアンケート調査」 調査結果報告書

平成 27 年 9 月

清瀬市

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査内容	1
(4) 調査方法、調査期間	1
(5) 回収結果	1
(6) 留意点	1
2. 回答者の属性	2
(1) 回答者の性別	2
(2) 回答者の年齢	3
(3) 回答者の居住地区	4
(4) 清瀬市の居住年数	5
(5) 回答者の職業	6
(6) 回答者の通勤・通学地	7
(7) 回答者の家族構成	8
(8) 養育中の子どもの有無	9
(9) 65歳以上の高齢者との同居の有無	11
(10) 回答者の世帯年収	12
3. 調査結果概要	13
(1) 「清瀬市の住みやすさ」について	13
(2) 「清瀬市の愛着」について	43
(3) 「結婚・子育てに対する考え方」について	50

1. 調査概要

(1) 調査の目的

住民の結婚や子育て等に関する意識やニーズを的確に把握することで、まちづくりに関する課題を把握し、本市の将来展望につなげることを目的としています。

(2) 調査対象

清瀬市に居住する、20代から40代までの市民2,000名を無作為抽出し、調査対象としました。

(3) 調査内容

「清瀬市の住みやすさ」、「清瀬市の愛着」、「結婚・子育てに対する考え方」に関する調査を実施しました。(設問数：17)

(4) 調査方法、調査期間

- ① 調査方法：市民意識調査票を郵送により配布、回収
- ② 調査期間：平成27年6月中旬～7月上旬

(5) 回収結果

回収件数：596件（回収率29.8%）

抽出数 (a)	有効回答数 (b)	有効回答率 (b/a)
2,000 件	596 件	29.8%

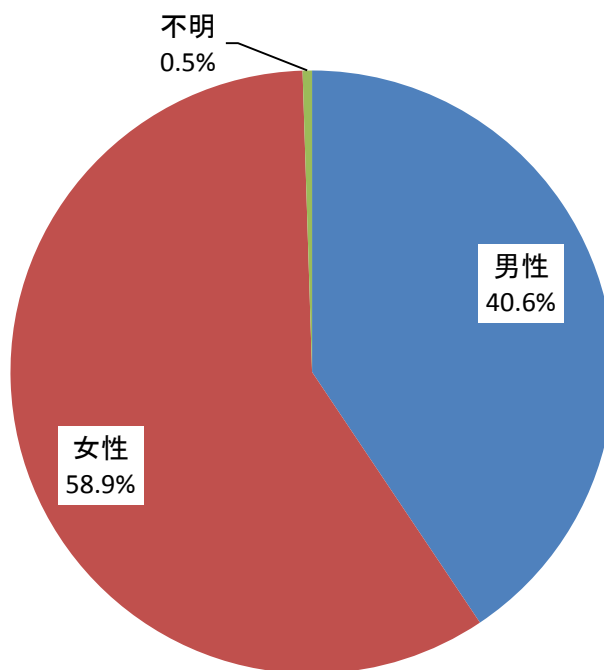
(6) 留意点

- ① 結果は百分率で表示しました。百分率は小数点第2位を四捨五入したため、比率の合計が100%と一致しない場合があります。
- ② 複数回答可の質問の百分率の合計は、100%を超えます。
- ③ 二重回答や判読不能の回答などは、無効としています。
- ④ 各質問のサンプル数は「n＝」で表しています。

2. 回答者の属性

(1) 回答者の性別

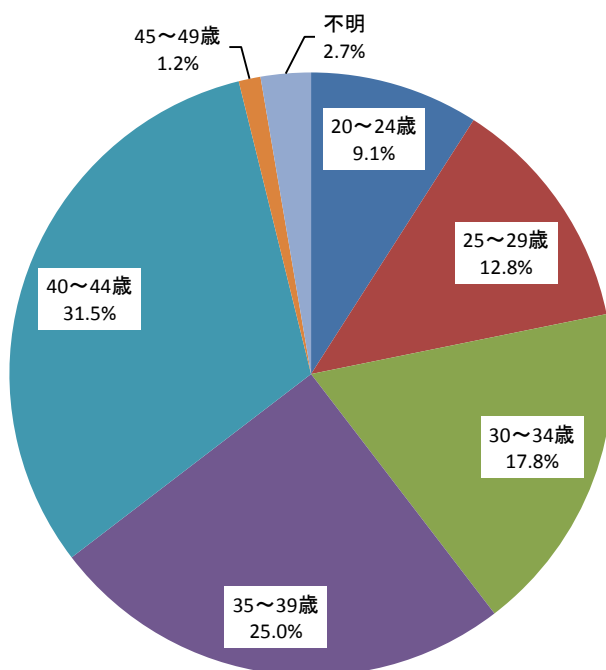
男性が約 4 割、女性が 6 割弱となり、女性がやや多い結果となりました。



	人数	割合
男性	242	40.6%
女性	351	58.9%
不明	3	0.5%
合計	596	100.0%

(2) 回答者の年齢

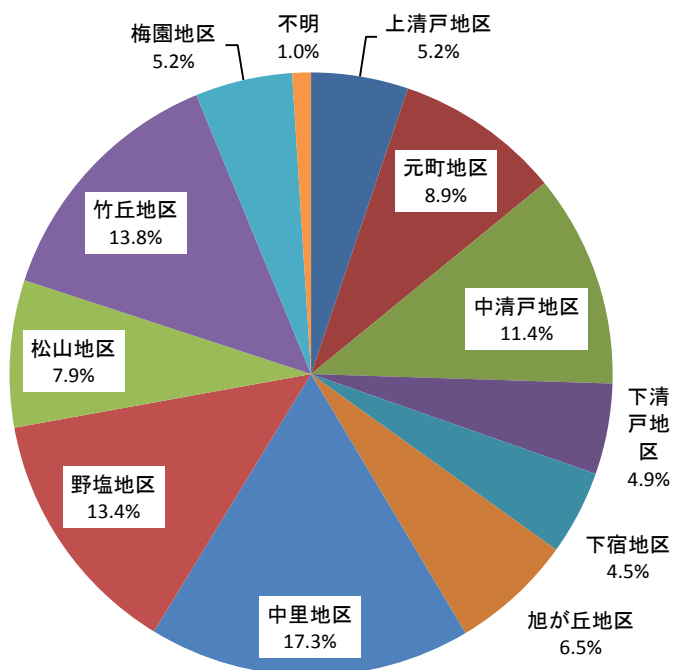
「40～44 歳」が 31.5%で最も多く、次いで「35～39 歳」(25.0%)が多い結果となりました。



	人数	割合
20～24歳	54	9.1%
25～29歳	76	12.8%
30～34歳	106	17.8%
35～39歳	149	25.0%
40～44歳	188	31.5%
45～49歳	7	1.2%
不明	16	2.7%
合計	596	100.0%

(3) 回答者の居住地区

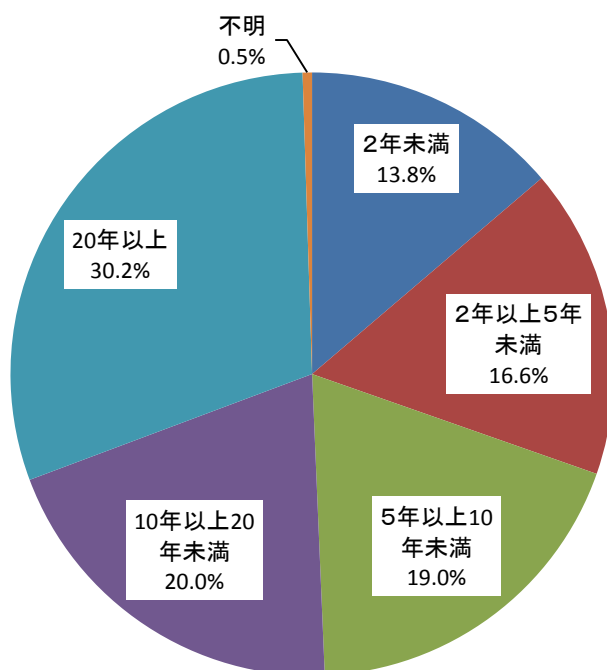
中里地区が 17.3%で最も多くなっていますが、どの地区からもバランスよく回答されています。



	人数	割合
上清戸地区	31	5.2%
元町地区	53	8.9%
中清戸地区	68	11.4%
下清戸地区	29	4.9%
下宿地区	27	4.5%
旭が丘地区	39	6.5%
中里地区	103	17.3%
野塩地区	80	13.4%
松山地区	47	7.9%
竹丘地区	82	13.8%
梅園地区	31	5.2%
不明	6	1.0%
合計	596	100.0%

(4) 清瀬市の居住年数

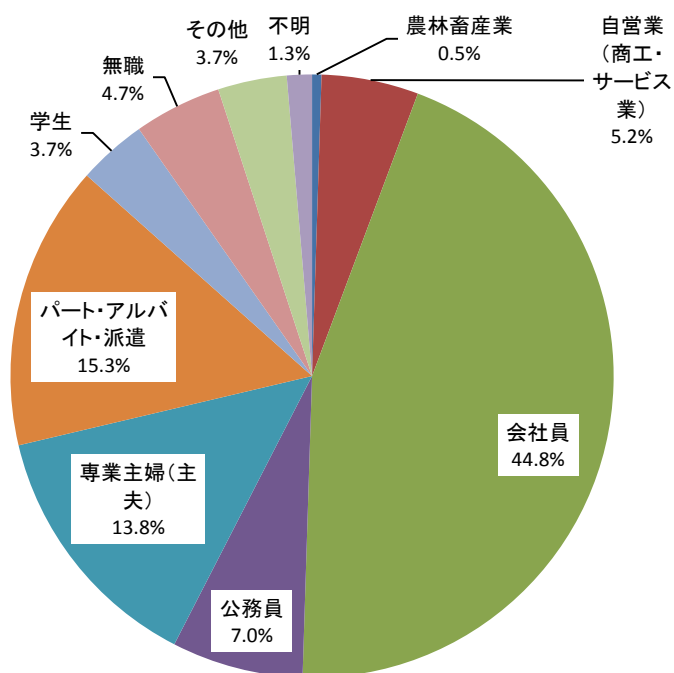
20 年以上居住されている方が約 3 割を占めており、回答者の約半数の方が 10 年以上の居住者となっています。



	人数	割合
2年未満	82	13.8%
2年以上5年未満	99	16.6%
5年以上10年未満	113	19.0%
10年以上20年未満	119	20.0%
20年以上	180	30.2%
不明	3	0.5%
合計	596	100.0%

(5) 回答者の職業

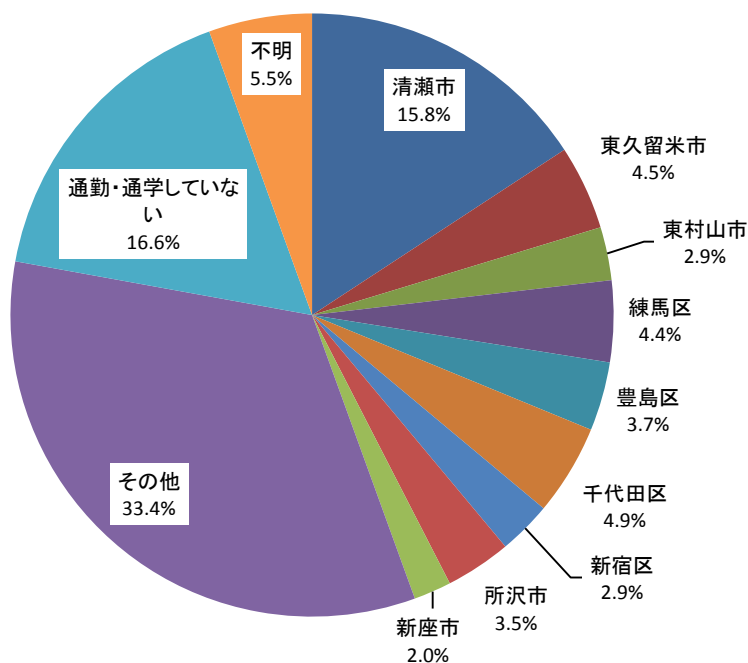
会社員の方が最も多く、回答者の半数弱を占めています。



	人数	割合
農林畜産業	3	0.5%
自営業(商工・サービス業)	31	5.2%
会社員	267	44.8%
公務員	42	7.0%
専業主婦(主夫)	82	13.8%
パート・アルバイト・派遣	91	15.3%
学生	22	3.7%
無職	28	4.7%
その他	22	3.7%
不明	8	1.3%
合計	596	100.0%

(6) 回答者の通勤・通学地

「通勤・通学していない」人や、「その他」の地区を除けば、清瀬市への通勤者が最も多いことがわかります。



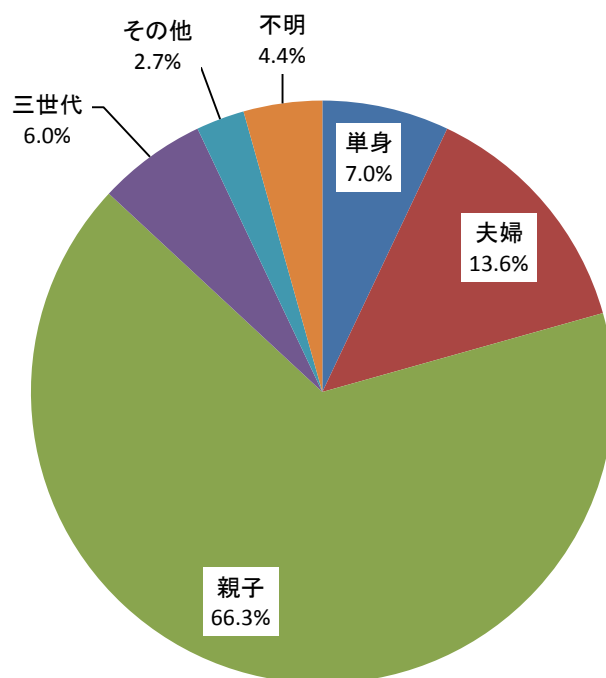
	人数	割合
清瀬市	94	15.8%
東久留米市	27	4.5%
東村山市	17	2.9%
練馬区	26	4.4%
豊島区	22	3.7%
千代田区	29	4.9%
新宿区	17	2.9%
所沢市	21	3.5%
新座市	12	2.0%
その他	199	33.4%
通勤・通学していない	99	16.6%
不明	33	5.5%
合計	596	100.0%

(「その他」の主な地域)

港区 (16 人)、西東京市 (14 人)、渋谷区 (11 人)、文京区 (7 人)、品川区 (6 人)、江東区 (6 人)

(7) 回答者の家族構成

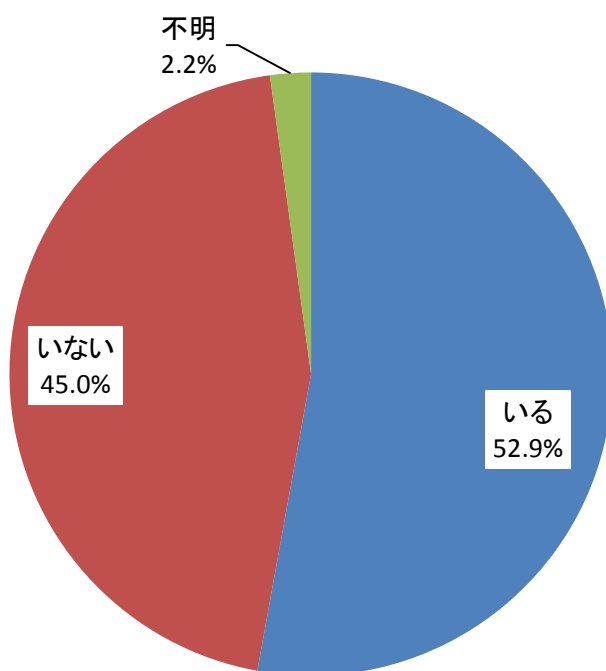
「親子」の世帯が 66.3%で最も多くなりました。



	人数	割合
単身	42	7.0%
夫婦	81	13.6%
親子	395	66.3%
三世代	36	6.0%
その他	16	2.7%
不明	26	4.4%
合計	596	100.0%

(8) 養育中の子どもの有無

養育中の子どもがいる世帯といない世帯はほぼ半数ずつの回答結果となりました。



	人数	割合
いる	315	52.9%
いない	268	45.0%
不明	13	2.2%
合計	596	100.0%

(子どもの数)

【合計】

	人数	割合
1 人	129	41.0%
2 人	148	47.0%
3 人	23	7.3%
4 人	14	4.4%
5 人	1	0.3%
		0.0%
合計	315	100.0%

【就学前】

	人数	割合
1 人	149	73.8%
2 人	50	24.8%
3 人	2	1.0%
4 人	1	0.5%
5 人	0	0.0%
		0.0%
合計	202	100.0%

【小学生】

	人数	割合
1 人	92	67.6%
2 人	40	29.4%
3 人	4	2.9%
4 人	0	0.0%
5 人	0	0.0%
		0.0%
合計	136	100.0%

【中学生】

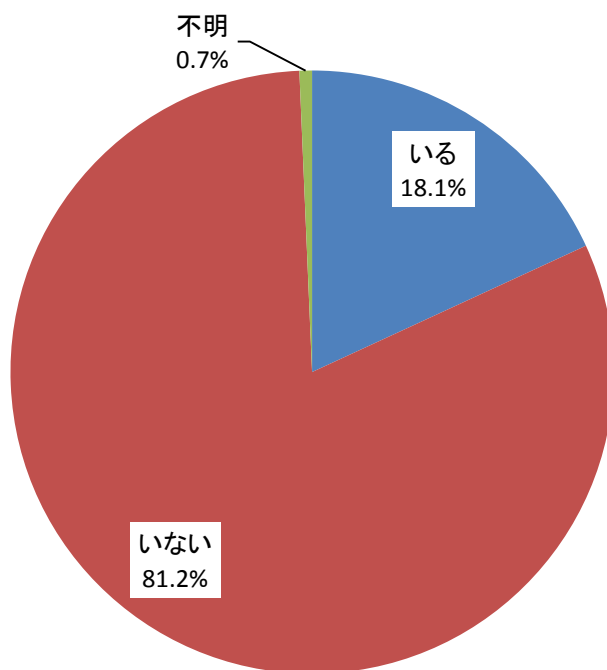
	人数	割合
1 人	46	93.9%
2 人	3	6.1%
3 人	0	0.0%
4 人	0	0.0%
5 人	0	0.0%
		0.0%
合計	49	100.0%

【高校生以上】

	人数	割合
1 人	47	90.4%
2 人	5	9.6%
3 人	0	0.0%
4 人	0	0.0%
5 人	0	0.0%
		0.0%
合計	52	100.0%

(9) 65 歳以上の高齢者との同居の有無

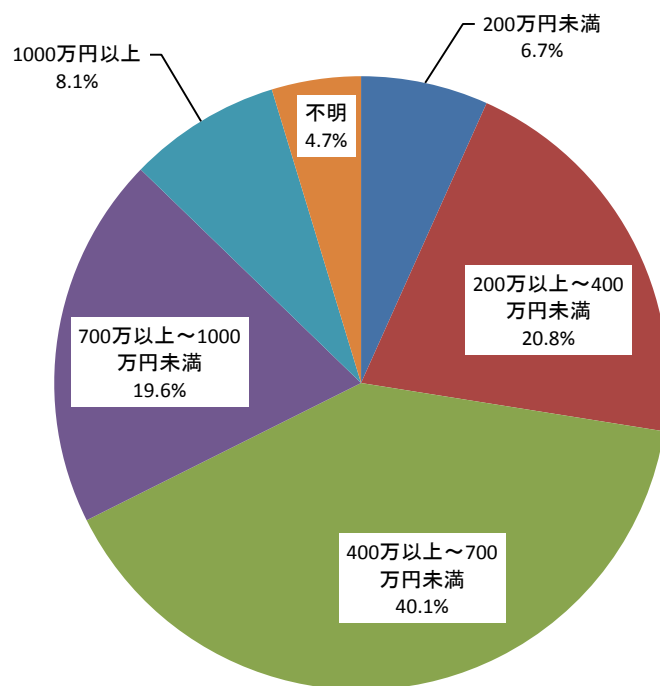
約 8 割の世帯で 65 歳以上の高齢者との同居はありませんが、2 割弱の世帯では 65 歳以上の高齢者と同居しており、回答者の約 5 人に 1 人の家庭で 65 歳以上の高齢者がいることがわかります。



	人数	割合
いる	108	18.1%
いない	484	81.2%
不明	4	0.7%
合計	596	100.0%

(10) 回答者の世帯年収

「400 万以上～700 万円未満」と回答した方が 40.1%で最も多くなりました。次いで、「200 万以上～400 万円未満」の方が 20.8%が続いています。



	人数	割合
200万円未満	40	6.7%
200万以上～400万円未満	124	20.8%
400万以上～700万円未満	239	40.1%
700万以上～1000万円未満	117	19.6%
1000万円以上	48	8.1%
不明	28	4.7%
合計	596	100.0%

3. 調査結果概要

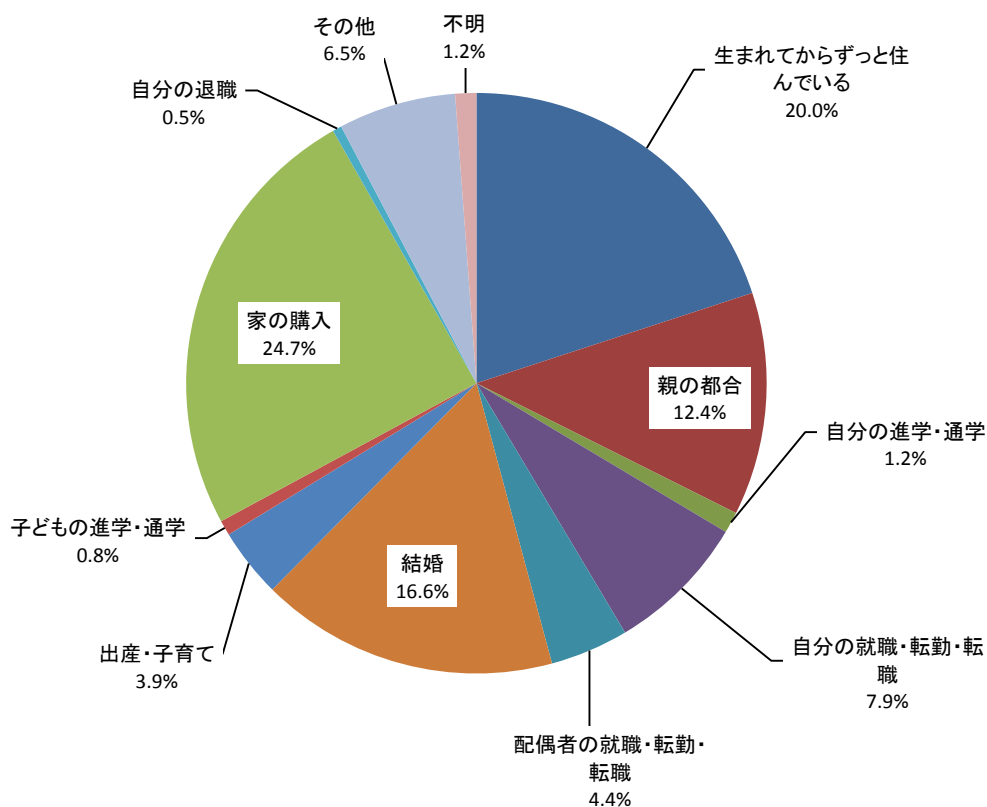
(1)「清瀬市の住みやすさ」について

問1 何をきっかけに清瀬市に住んでいますか？（1つを選択）

①全体集計

「家の購入」と回答した方が24.7%で最も多く、次いで「生まれてからずっと住んでいる」が20.0%で続いています。

上記の他、「結婚」（16.6%）や「自分の就職・転勤・転職」（7.9%）といった人生の節目となるイベントをきっかけに転入してくる人が多くなっています。



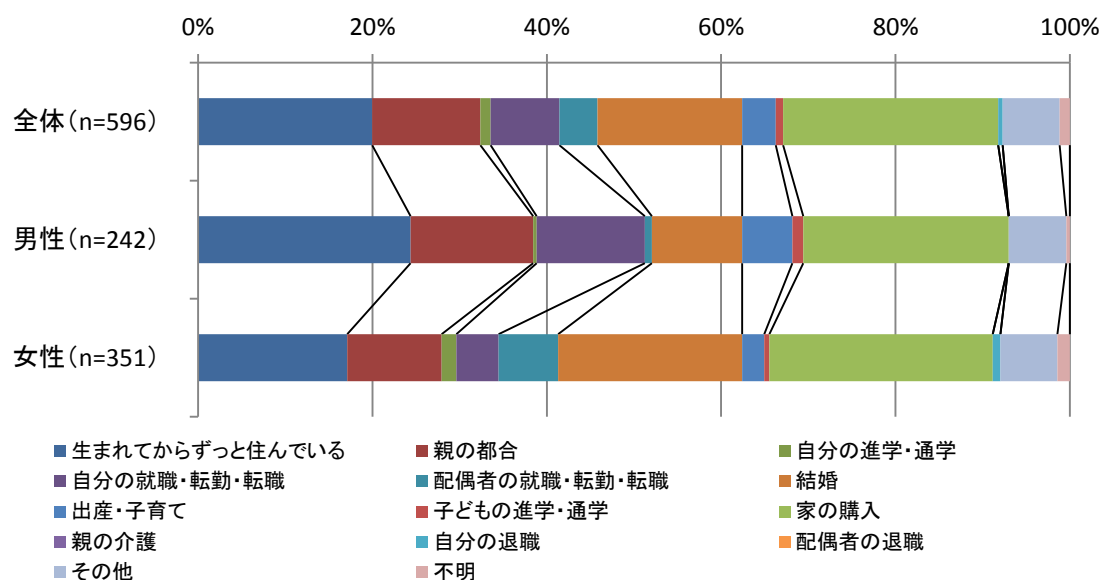
	人数	割合
生まれてからずっと住んでいる	119	20.0%
親の都合	74	12.4%
自分の進学・通学	7	1.2%
自分の就職・転勤・転職	47	7.9%
配偶者の就職・転勤・転職	26	4.4%
結婚	99	16.6%
出産・子育て	23	3.9%

	人数	割合
子どもの進学・通学	5	0.8%
家の購入	147	24.7%
親の介護	0	0.0%
自分の退職	3	0.5%
配偶者の退職	0	0.0%
その他	39	6.5%
不明	7	1.2%
合計	596	100.0%

②属性別集計

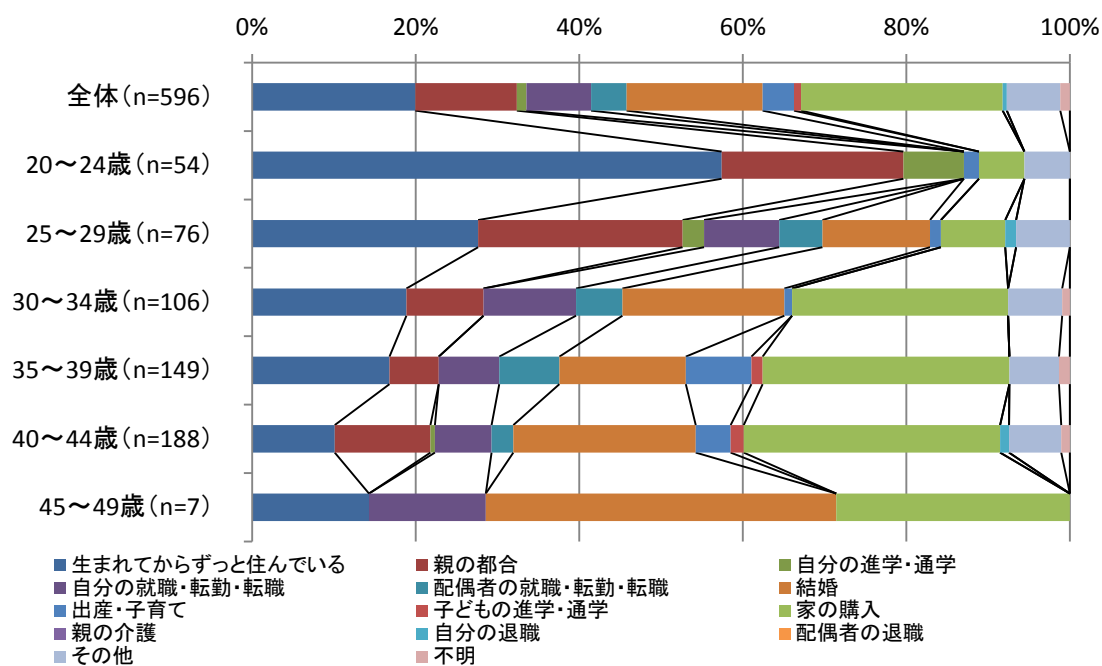
(イ) 性別

性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。



(ロ) 年代別

若い人は生まれてからずっと清瀬市に住んでいる人が多くなっていますが、年代が上がるにつれて、「結婚」や「家の購入」による転入が多くなる傾向にあります。



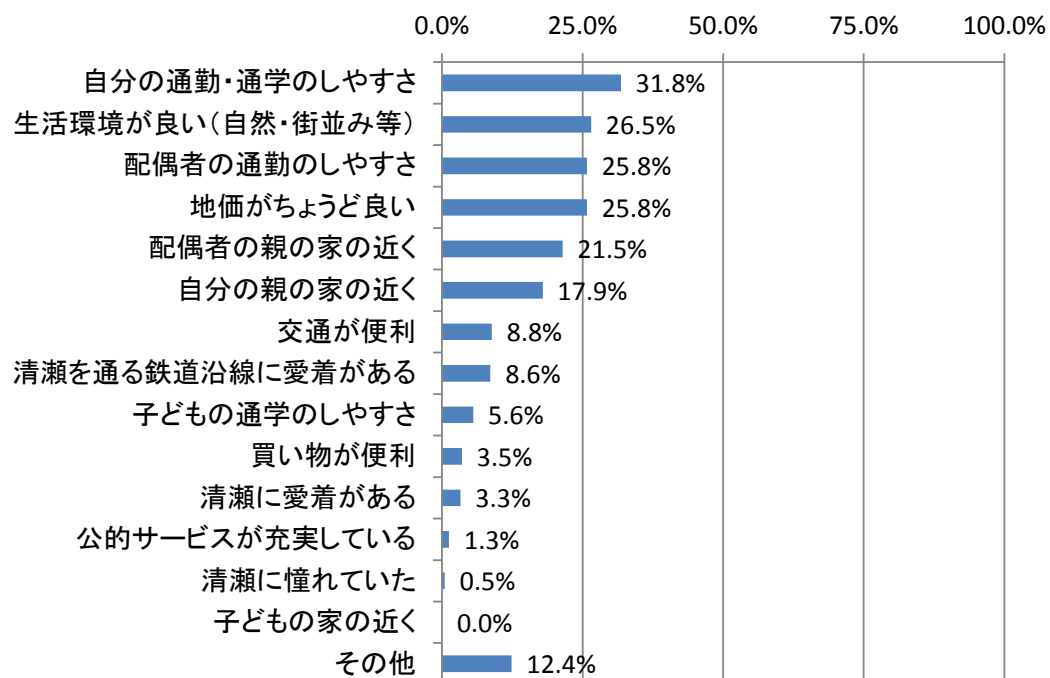
「問1で、「生まれてからずっと住んでいる」または「親の都合」以外を選択した方にお伺いします。」

問2 なぜ清瀬市を選んだのですか？（3つまで選択）

①全体集計

「自分の通勤・通学のしやすさ」と回答した方が31.8%と最も多く、次いで「生活環境が良い（自然・街並み等）」が26.5%と続いています。

次点に「配偶者の通勤のしやすさ」（25.8%）があがっており、自分や家族の通勤のしやすさが清瀬市を居住地として選ぶ特徴となっていることがわかります。

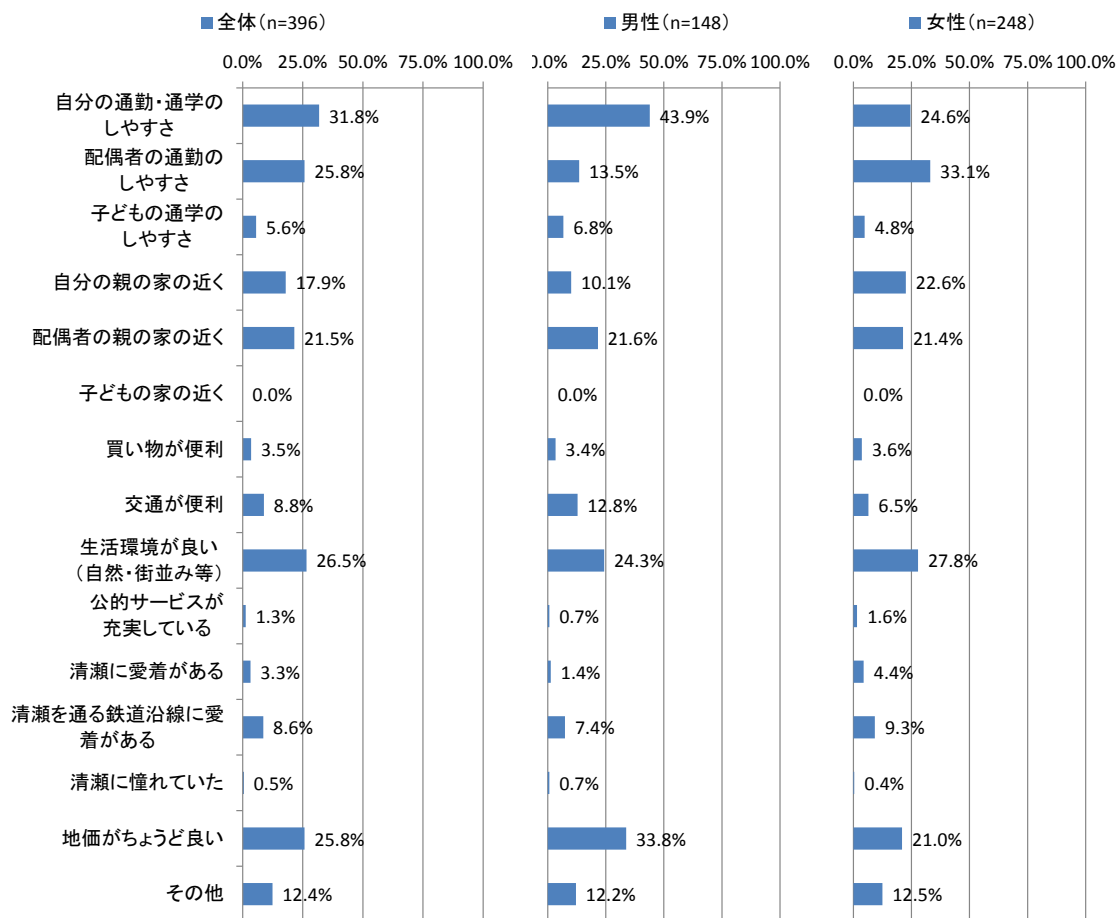


	人数	割合
自分の通勤・通学のしやすさ	126	31.8%
配偶者の通勤のしやすさ	102	25.8%
子どもの通学のしやすさ	22	5.6%
自分の親の家の近く	71	17.9%
配偶者の親の家の近く	85	21.5%
子どもの家の近く	0	0.0%
買い物が便利	14	3.5%
交通が便利	35	8.8%
生活環境が良い（自然・街並み等）	105	26.5%
公的サービスが充実している	5	1.3%
清瀬に愛着がある	13	3.3%
清瀬を通る鉄道沿線に愛着がある	34	8.6%
清瀬に憧れていた	2	0.5%
地価がちょうど良い	102	25.8%
その他	49	12.4%
有効回答数	396	

②属性別集計

（イ）性別

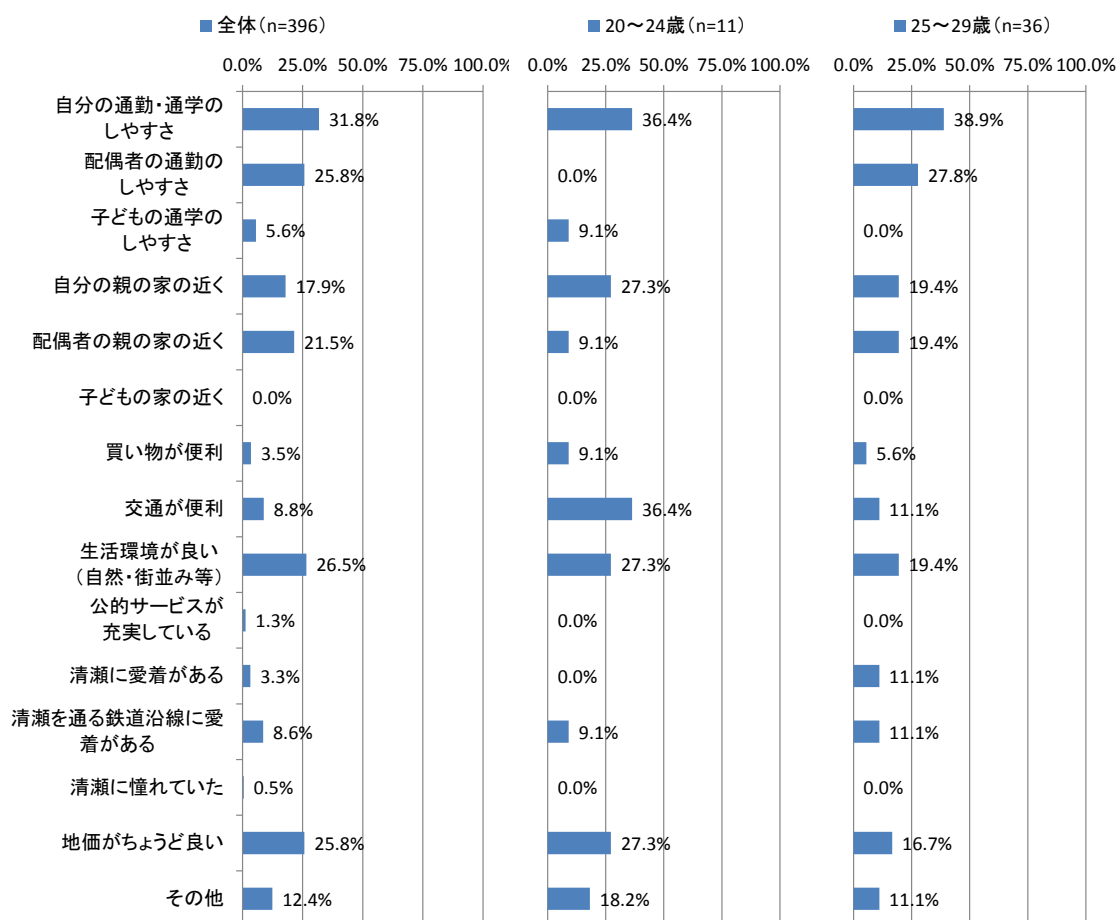
男性では、「配偶者の通勤のしやすさ」と回答した方の割合が全体より 12.2%低い結果となりました。一方、女性の方は全体と比較して回答結果に大きな相違はありませんでした。

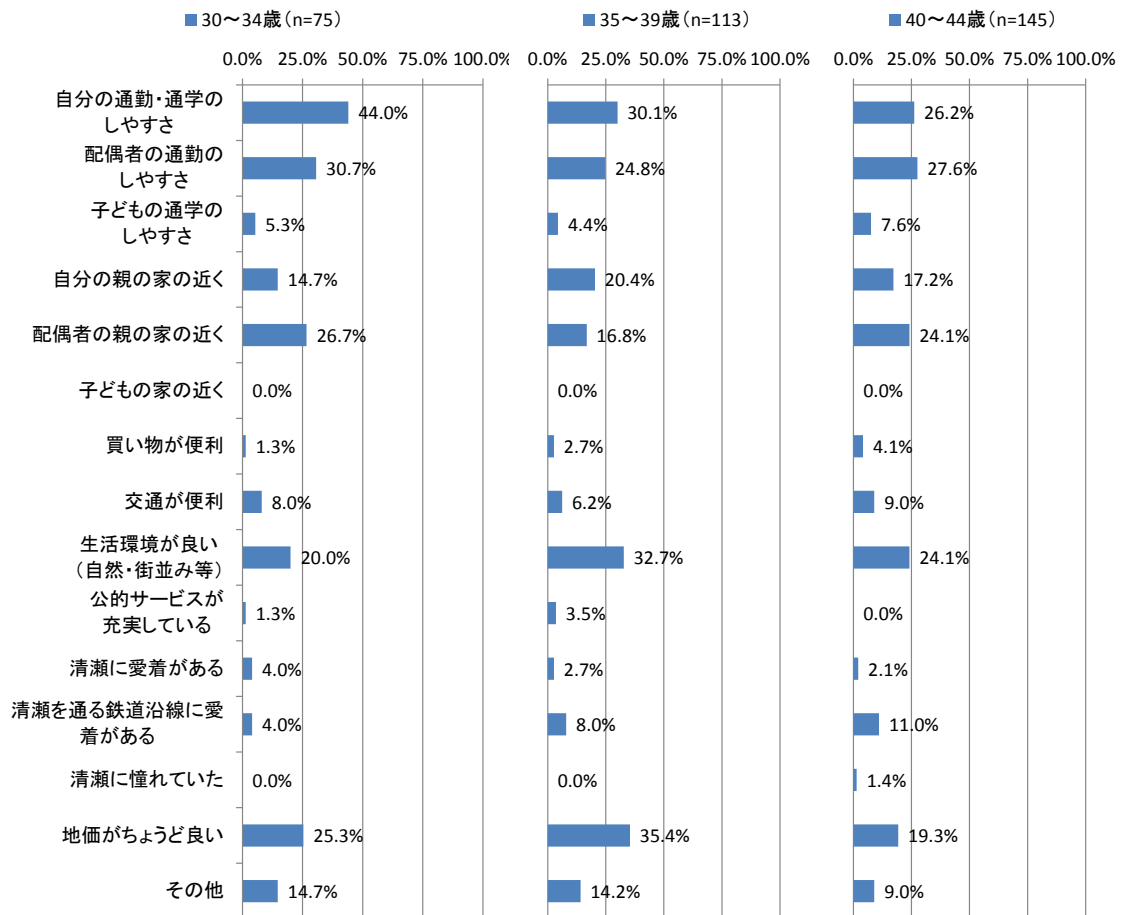


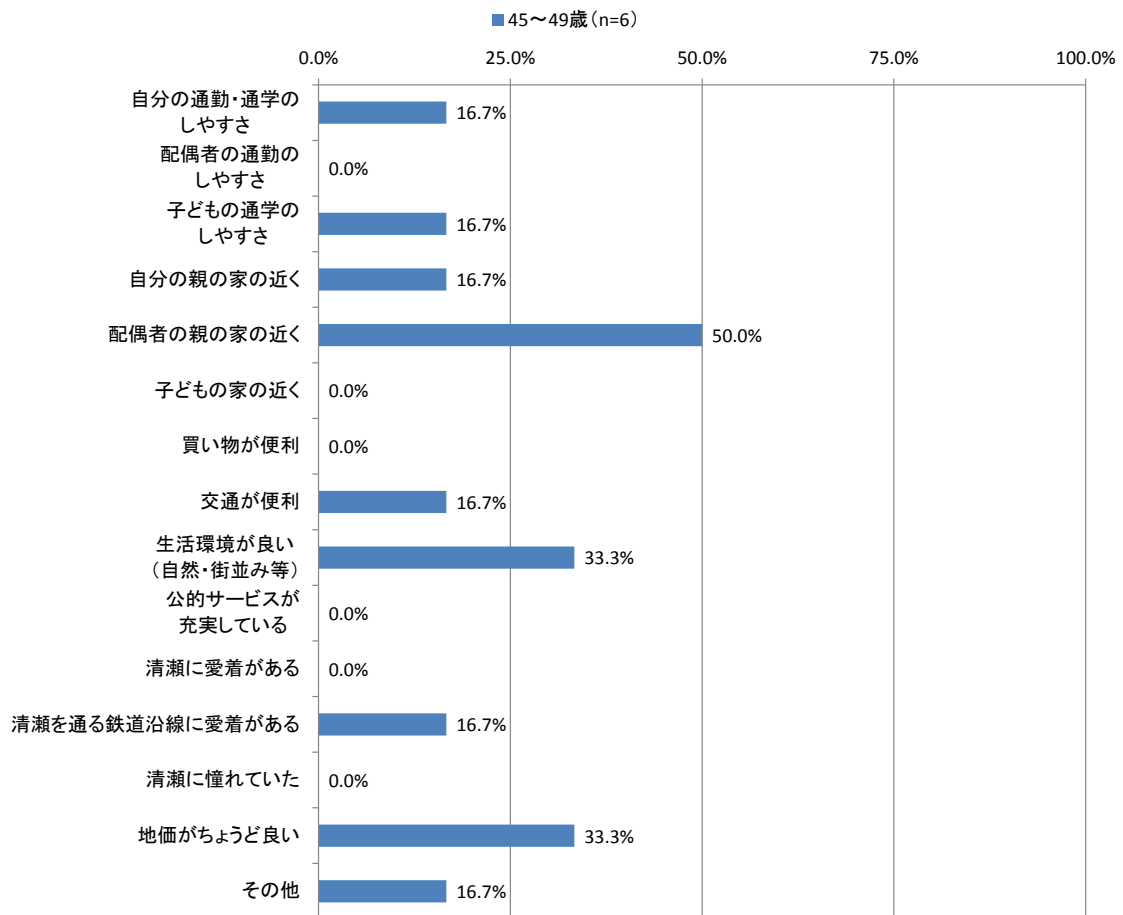
(ロ) 年代別

20～24 歳では、「交通が便利」と回答した方の割合が全体より 27.5%高い結果となりました。その他の年代では、全体と比較して回答結果に大きな相違はありませんでした。

学生が比較的多い 20 代前半の世代では、交通の利便性が清瀬市の魅力であると感じている方が多いことがわかります。







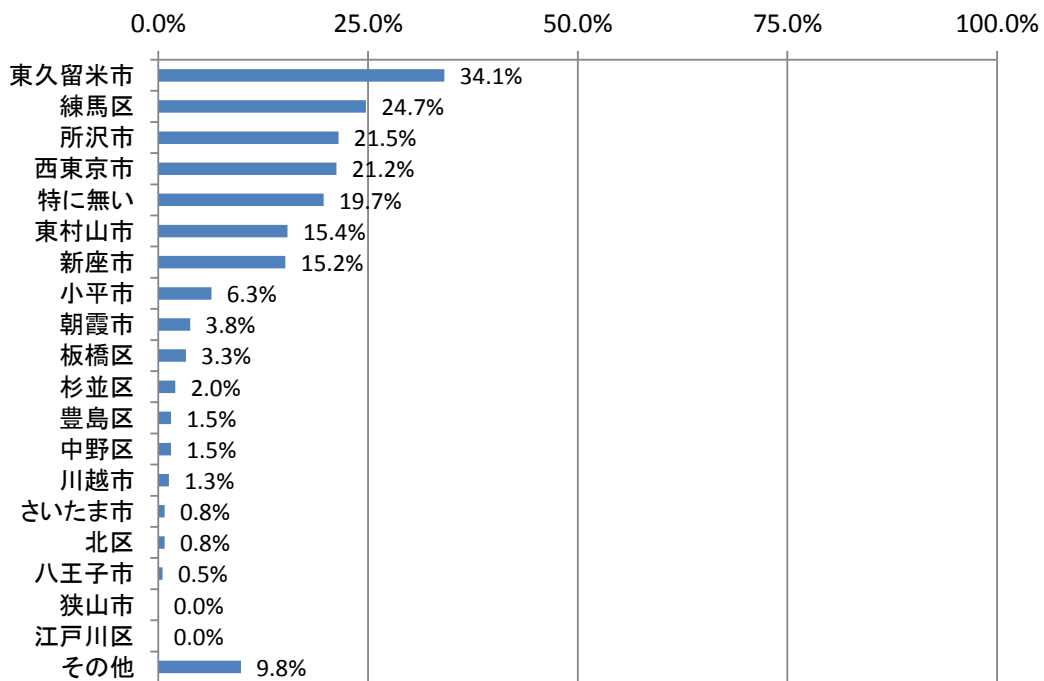
「問1で、「生まれてからずっと住んでいる」及び「親の都合」以外を選択した方にお伺いします。」

問3 清瀬市に決めるまで、清瀬市以外に検討した市町村があれば教えてください。

(3つまで選択)

①全体集計

「東久留米市」と回答した方が34.1%と最も多く、次いで「練馬区」が24.7%と続いています。西武線沿線で都心へのアクセスの容易な地域で検討されている方が多いことがわかります。



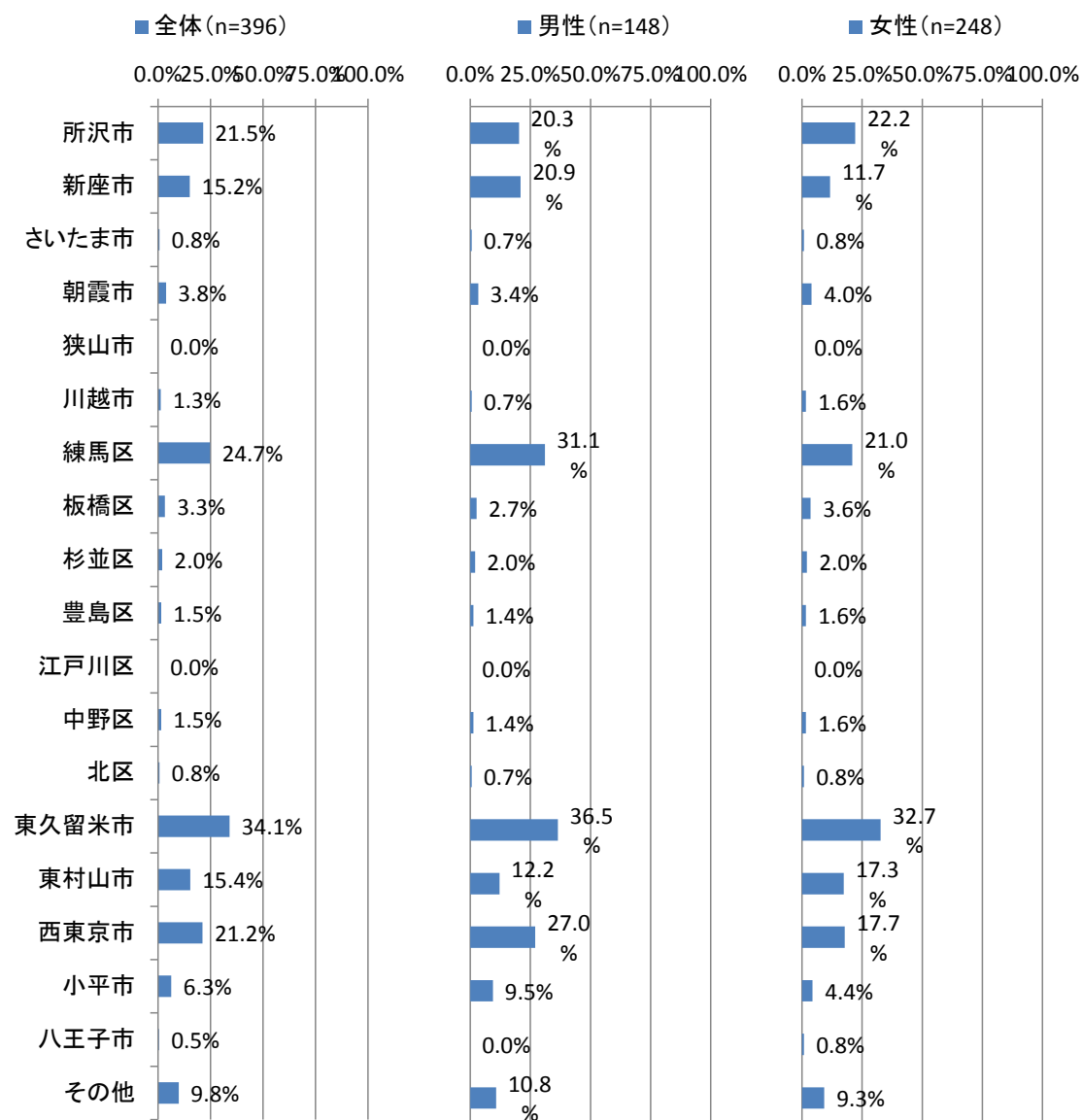
	人数	割合
所沢市	85	21.5%
新座市	60	15.2%
さいたま市	3	0.8%
朝霞市	15	3.8%
狭山市	0	0.0%
川越市	5	1.3%
練馬区	98	24.7%
板橋区	13	3.3%
杉並区	8	2.0%
豊島区	6	1.5%

	人数	割合
江戸川区	0	0.0%
中野区	6	1.5%
北区	3	0.8%
東久留米市	135	34.1%
東村山市	61	15.4%
西東京市	84	21.2%
小平市	25	6.3%
八王子市	2	0.5%
その他	39	9.8%
特に無い (清瀬市以外検討していない)	78	19.7%
有効回答数	396	

②属性別集計

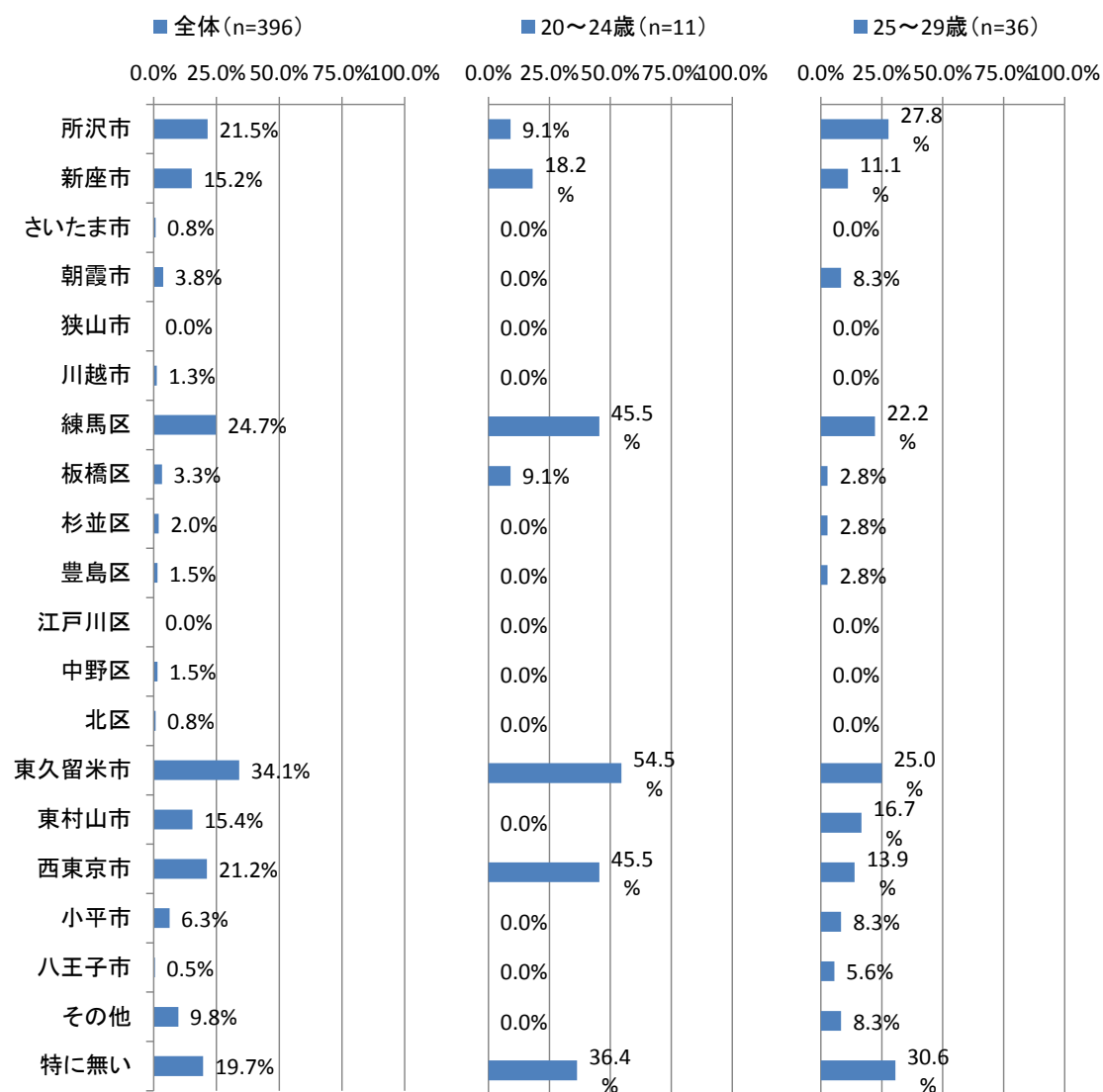
(イ) 性別

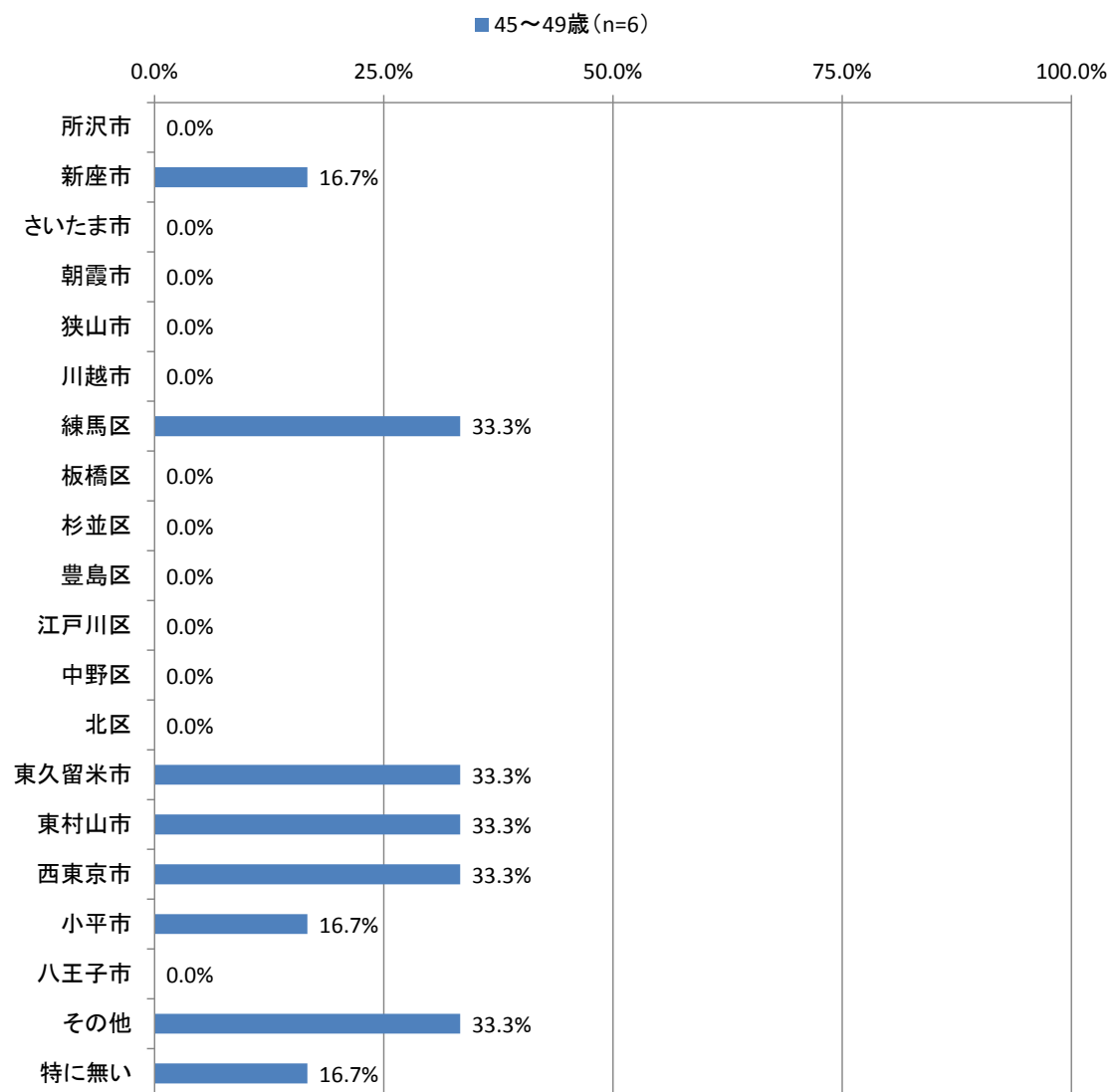
性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。



(ロ) 年代別

20～24 歳では、「西東京市」と回答した方の割合が全体より 24.2%高い結果となりました。それ以外の年代では、全体と比べて回答結果の傾向に大きな相違はありません。



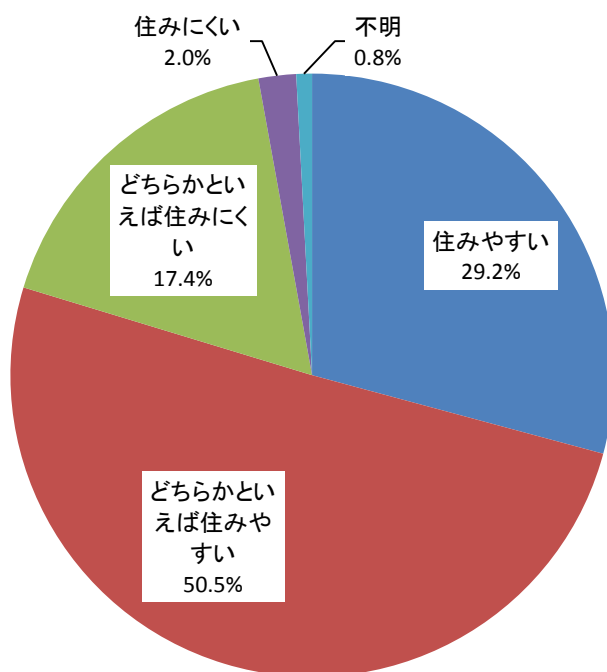


問4 清瀬市の住みやすさについてどう思われますか？（1つを選択）

①全体集計

「どちらかといえば住みやすい」と回答した方が 50.5%と最も多く、次いで「住みやすい」が 29.2%と続いています。

「住みやすい」（29.2%）と「どちらかといえば住みやすい」（50.5%）を合わせると、8割弱の方が住みやすいと感じていることがわかります。

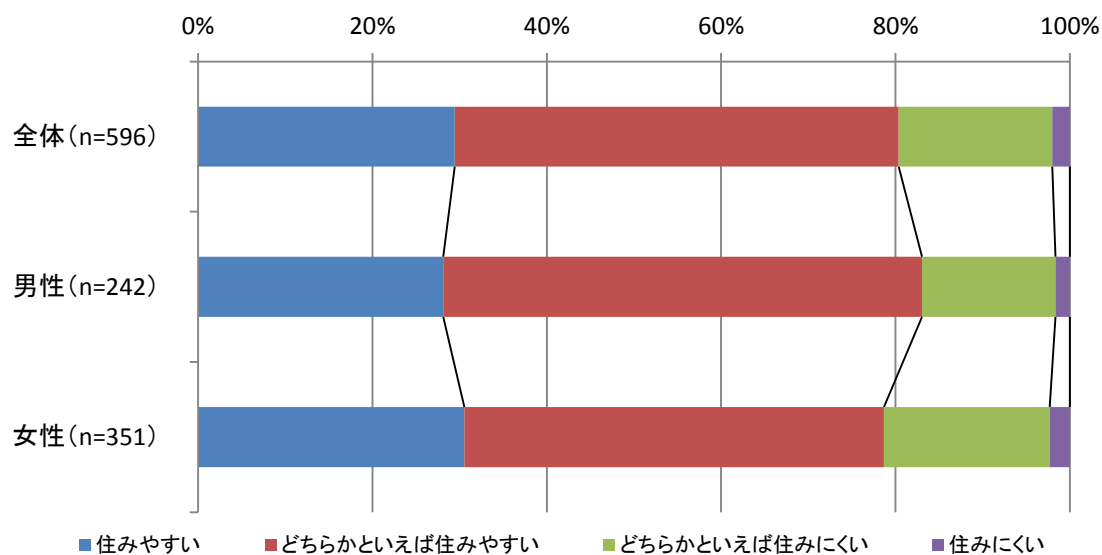


	人数	割合
住みやすい	174	29.2%
どちらかといえば住みやすい	301	50.5%
どちらかといえば住みにくい	104	17.4%
住みにくい	12	2.0%
不明	5	0.8%
合計	596	100.0%

②属性別集計

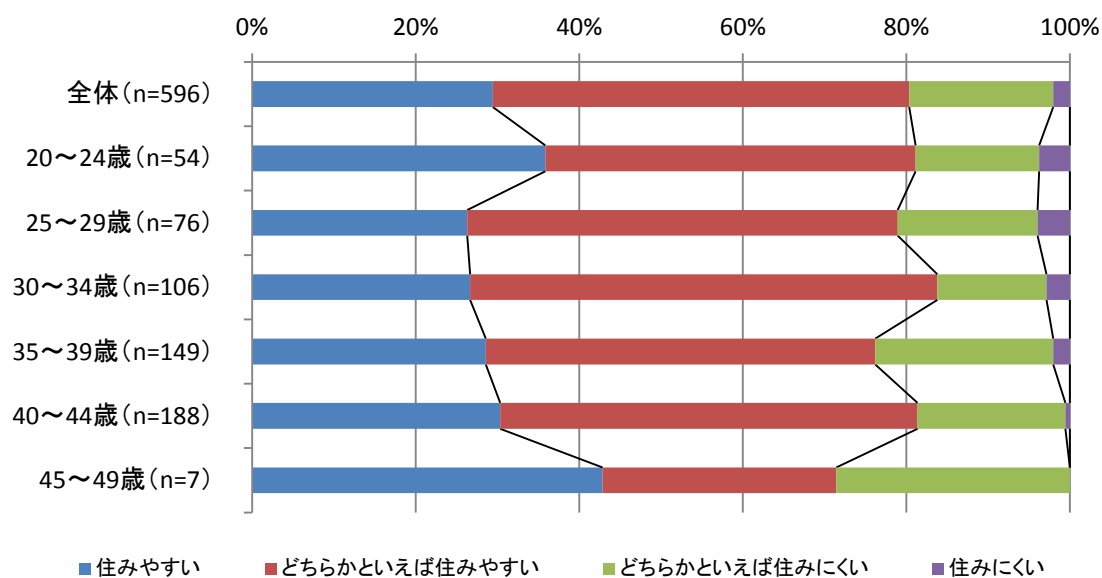
(イ) 性別

性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。



(ロ) 年代別

20～24歳および45～49歳では、「住みやすい」と回答した方が他の年代より多くなっています。それ以外については、年代による回答結果の傾向に大きな相違はありません。



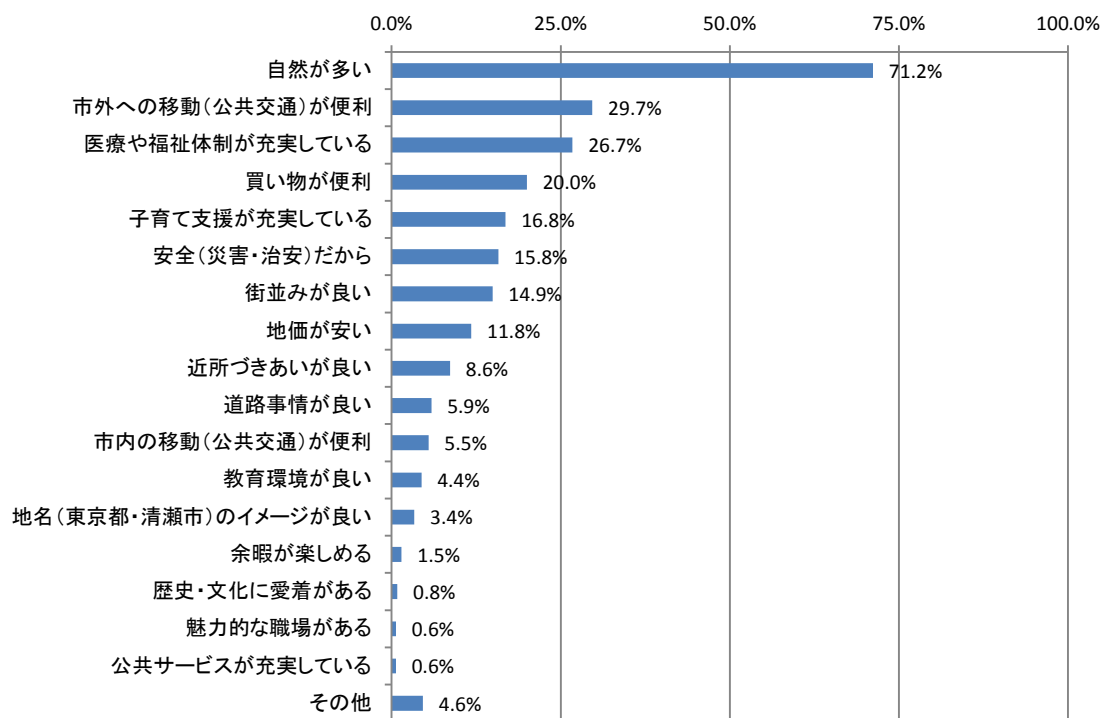
《問4で、「住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」を選択した方にお伺いします。》

問5-1 「清瀬市が住みよい」と感じる理由は何ですか？（3つまで選択）

①全体集計

「自然が多い」と回答した方が **71.2%**で最も多く、次いで「市外への移動（公共交通）が便利」が **29.7%**と続いています。

清瀬市の豊かな自然環境は、市民にとっても魅力であると感じていることがわかります。



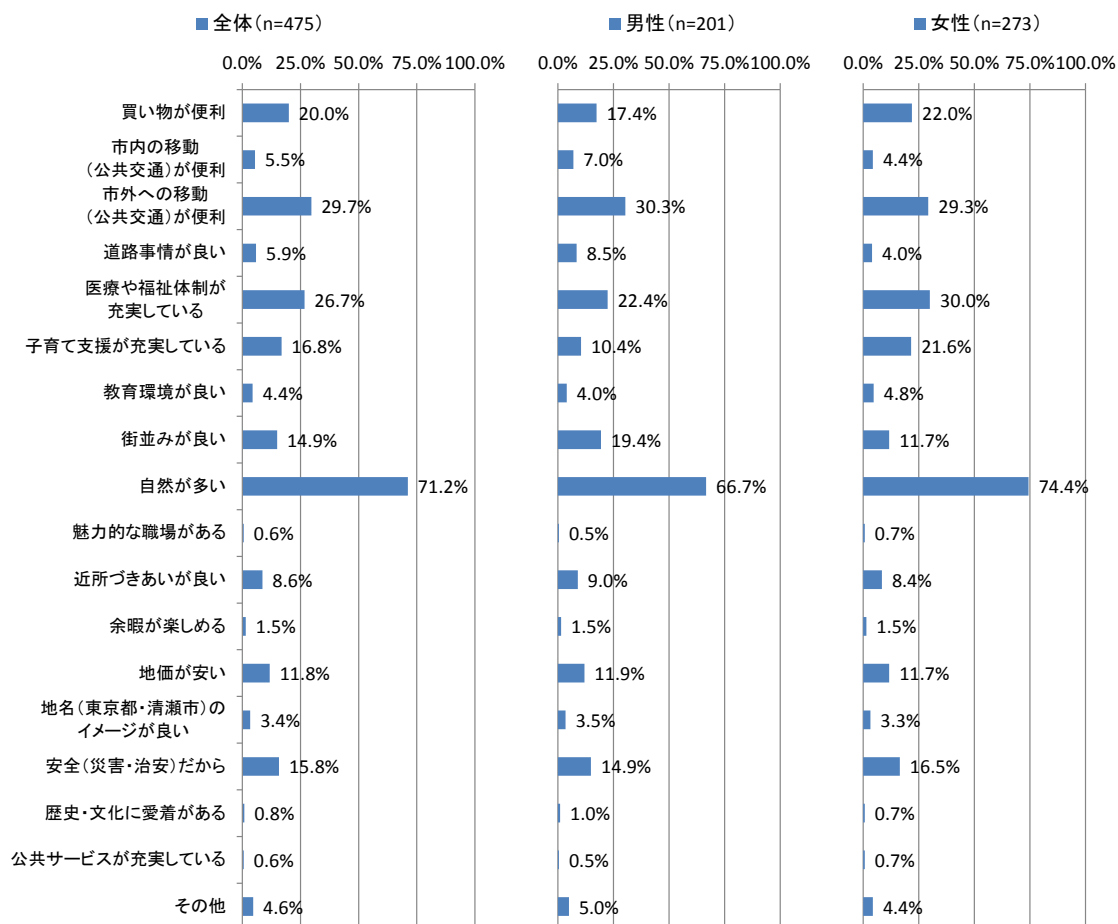
	人数	割合
買い物が便利	95	20.0%
市内の移動（公共交通）が便利	26	5.5%
市外への移動（公共交通）が便利	141	29.7%
道路事情が良い	28	5.9%
医療や福祉体制が充実している	127	26.7%
子育て支援が充実している	80	16.8%
教育環境が良い	21	4.4%
街並みが良い	71	14.9%
自然が多い	338	71.2%

	人数	割合
魅力的な職場がある	3	0.6%
近所づきあいが良い	41	8.6%
余暇が楽しめる	7	1.5%
地価が安い	56	11.8%
地名（東京都・清瀬市）のイメージが良い	16	3.4%
安全（災害・治安）だから	75	15.8%
歴史・文化に愛着がある	4	0.8%
公共サービスが充実している	3	0.6%
その他	22	4.6%
有効回答数	475	

②属性別集計

(イ) 性別

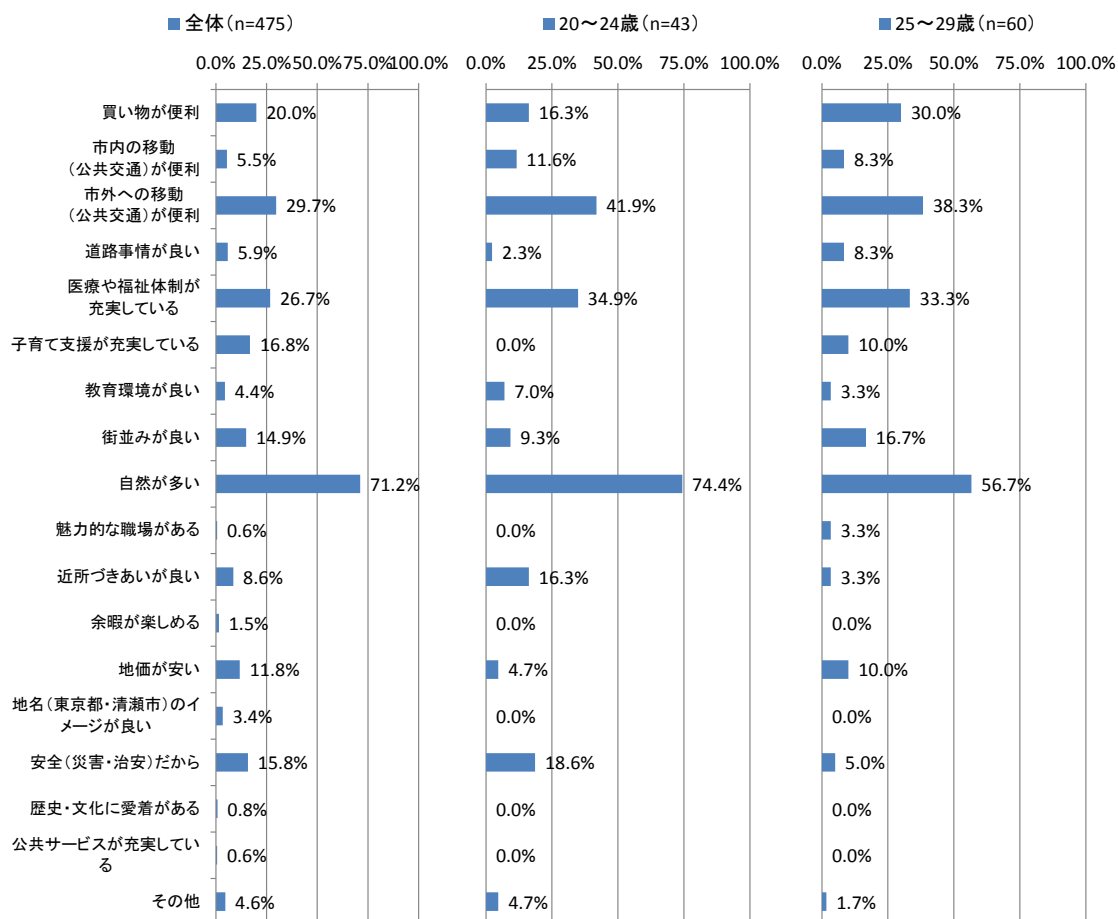
性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。

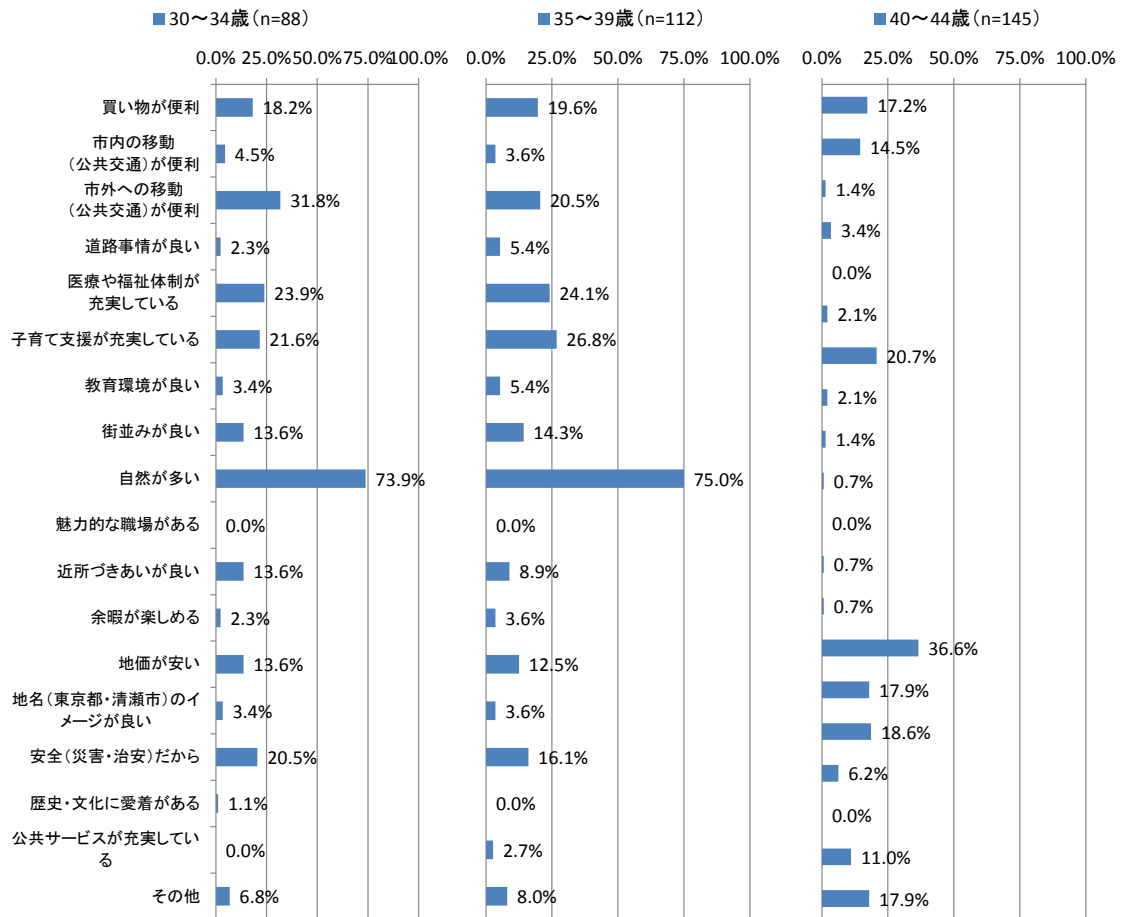


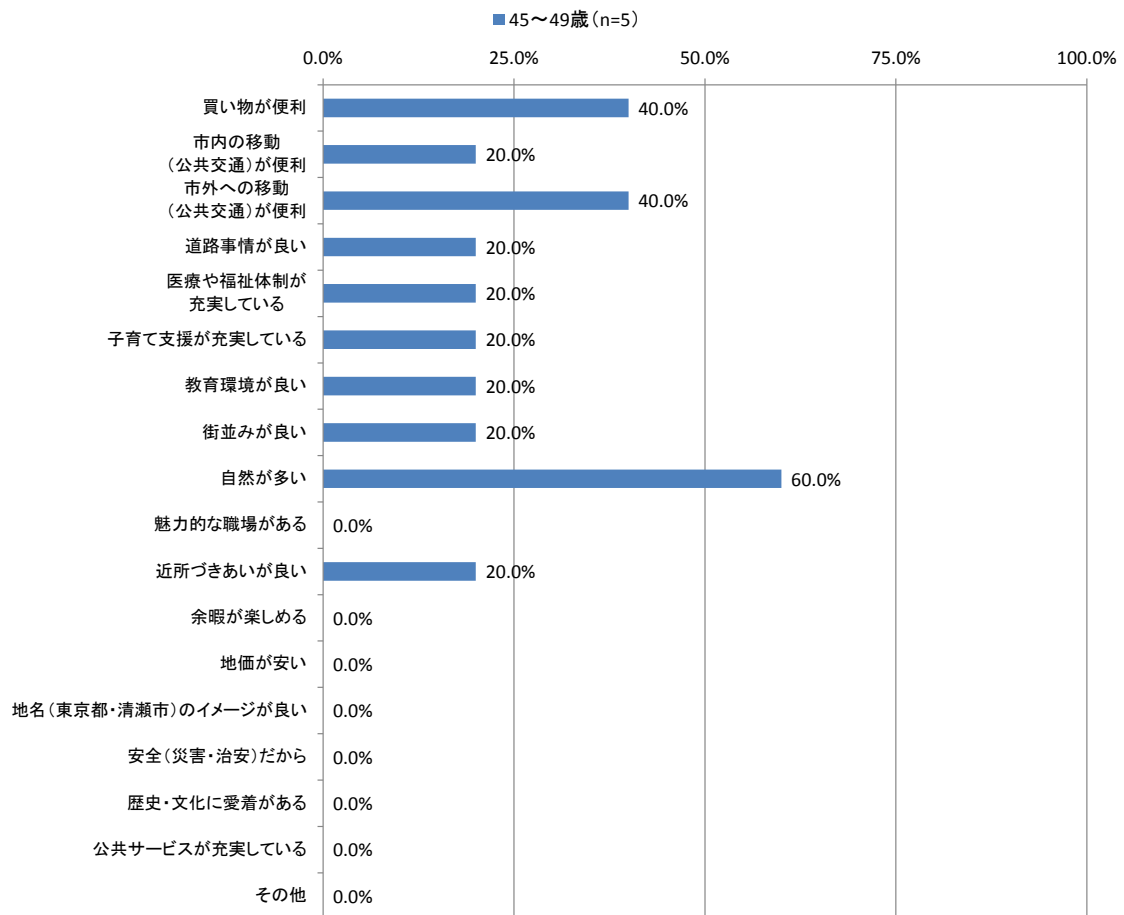
(ロ) 年代別

20～24歳では、「子育て支援が充実している」と回答した方の割合が全体より16.8%低い結果となりました。それ以外では、全体と比べて回答結果に大きな相違はありません。

どの年代でも、豊かな自然環境が清瀬市の魅力であると感じている方が多くなっています。







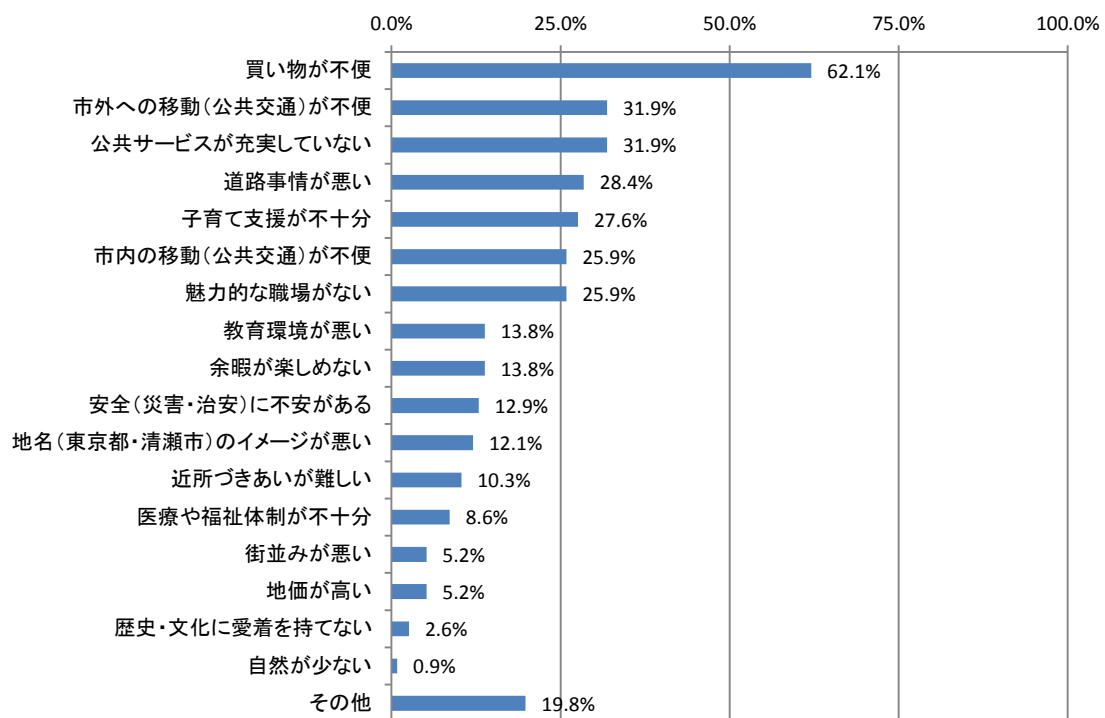
《問4で、「どちらかといえば住みにくい」または「住みにくい」を選択した方にお伺いします。》

問5-2 「清瀬市が住みにくい」と感じる理由は何ですか？（3つまで選択）

①全体集計

「買い物が不便」と回答した方が62.1%と最も多く、次いで「市外への移動（公共交通）が不便」、「公共サービスが充実していない」が31.9%と続いています。

買い物への利便性、通勤アクセスについて課題があるといえます。



	人数	割合
買い物が不便	72	62.1%
市内の移動（公共交通）が不便	30	25.9%
市外への移動（公共交通）が不便	37	31.9%
道路事情が悪い	33	28.4%
医療や福祉体制が不十分	10	8.6%
子育て支援が不十分	32	27.6%
教育環境が悪い	16	13.8%
街並みが悪い	6	5.2%
自然が少ない	1	0.9%

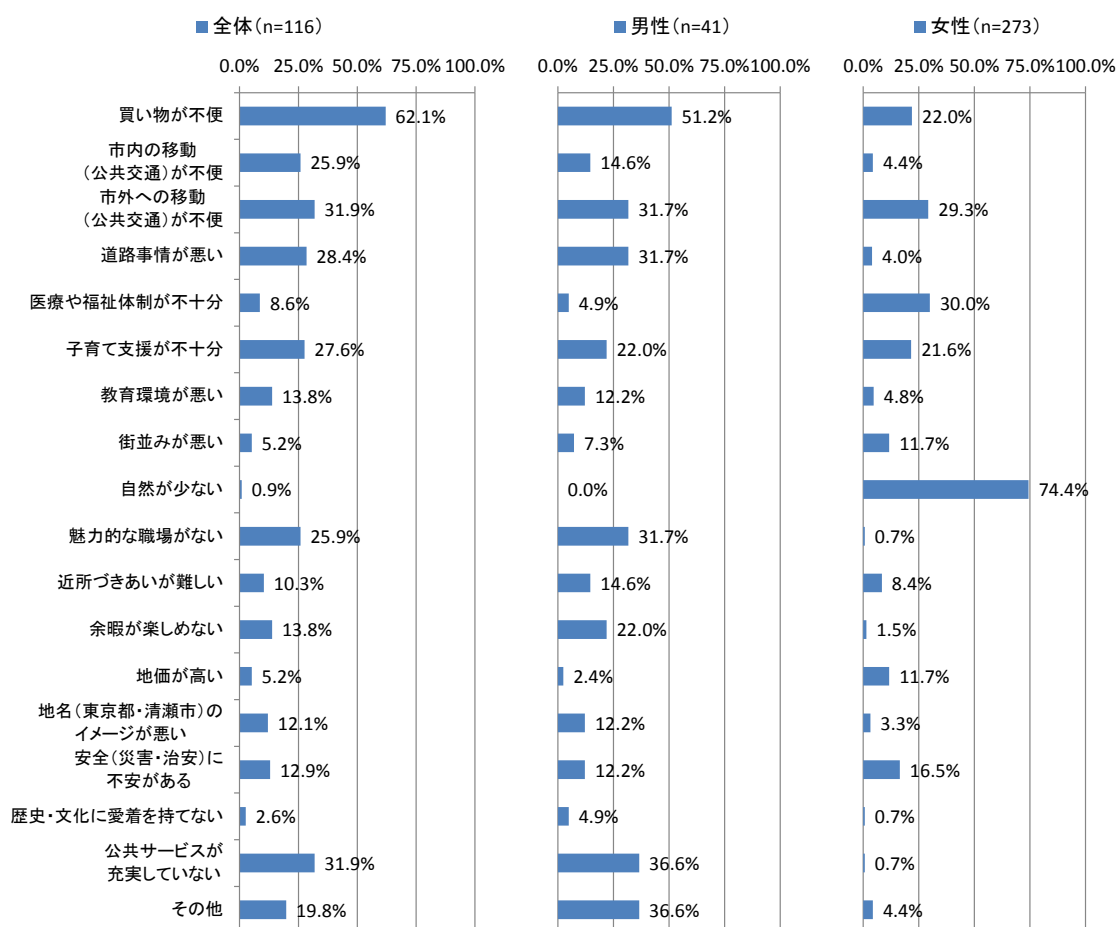
	人数	割合
魅力的な職場がない	30	25.9%
近所づきあいが難しい	12	10.3%
余暇が楽しめない	16	13.8%
地価が高い	6	5.2%
地名（東京都・清瀬市）のイメージが悪い	14	12.1%
安全（災害・治安）に不安がある	15	12.9%
歴史・文化に愛着を持ってない	3	2.6%
公共サービスが充実していない	37	31.9%
その他	23	19.8%
有効回答数	116	

②属性別集計

(イ) 性別

男性では、「市内の移動（公共交通）が不便」と回答した方の割合が全体より 11.2%低い結果となりました。また、「買い物が不便」と回答した方の割合が全体より 10.8%低い結果となりました。一方、女性は、全体と比べて回答結果の傾向に大きな相違はありません。

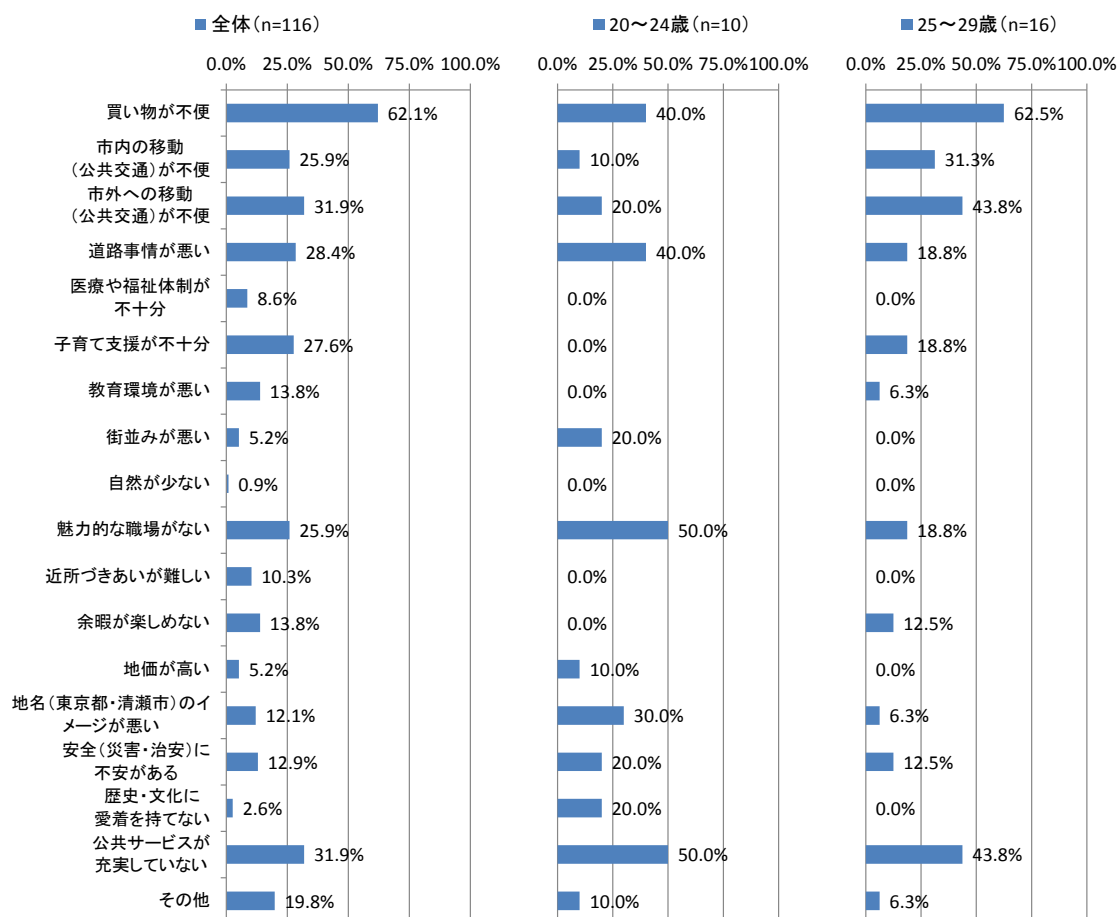
買い物や交通アクセスに不満を感じているのは、女性の方が比較的多いことがわかります。

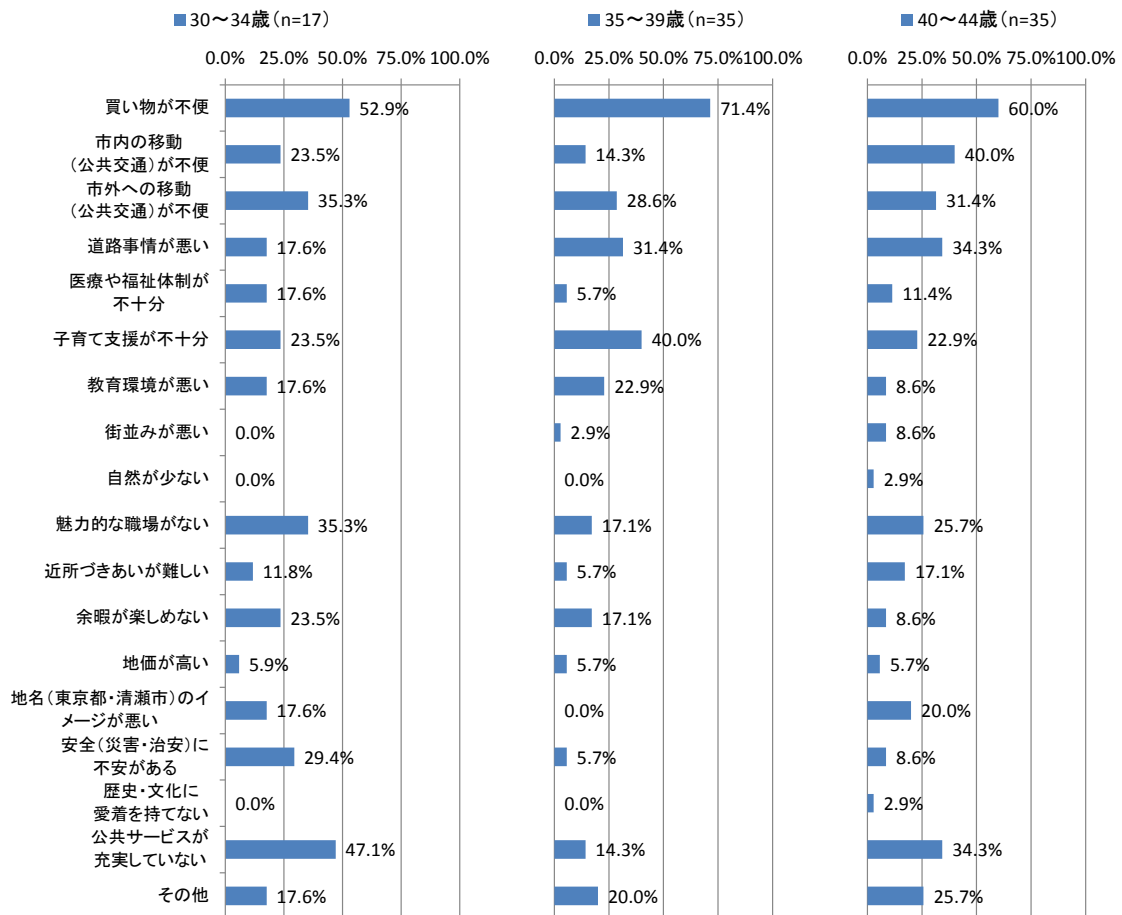


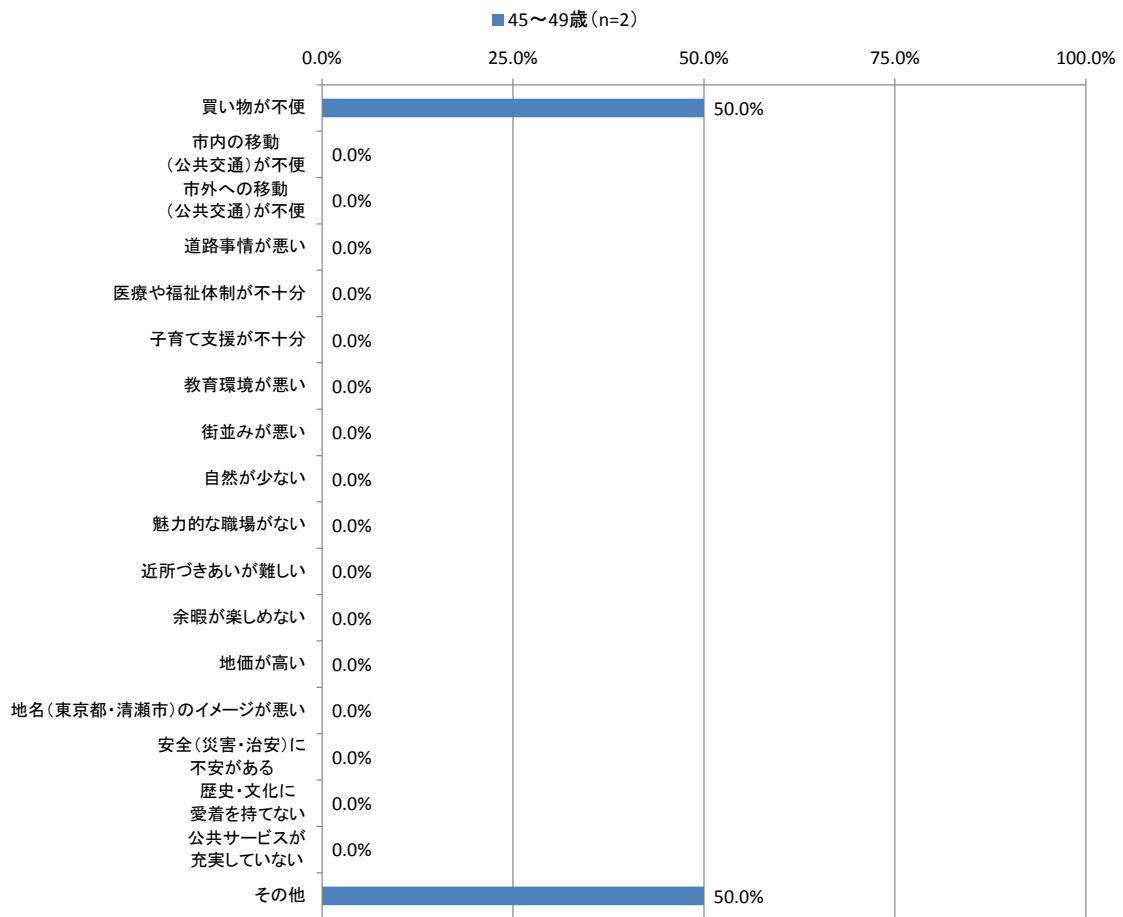
(ロ) 年代別

20～24 歳では、「子育て支援が不十分」と回答した方の割合が全体より 27.6%低い結果となりました。一方で、「魅力的な職場がない」と回答した方の割合が全体より 24.1%高い結果となりました。

若い世代にとっては、雇用環境の改善も課題となっていることがわかります。



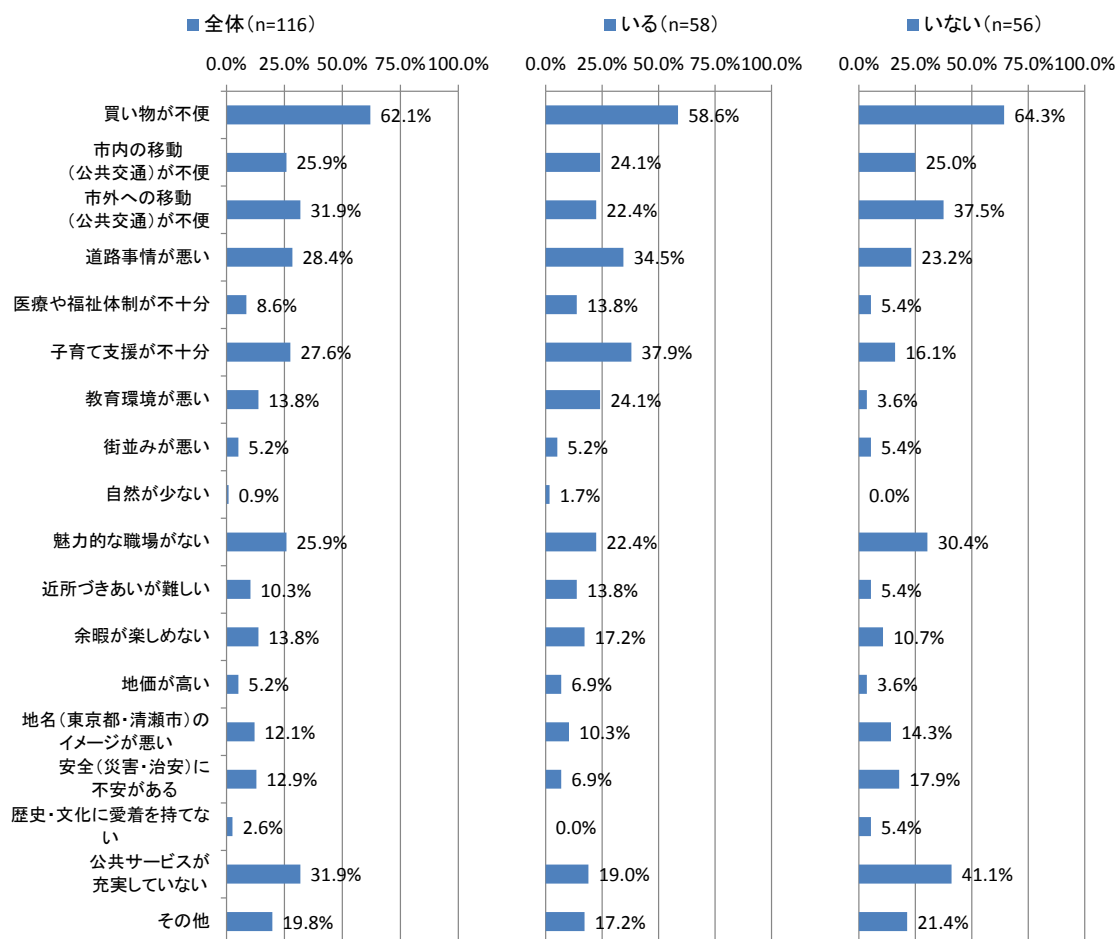




(ハ) 養育中の子どもの有無

養育中の子どもがいる世帯では、「子育て支援が不十分」と回答した方の割合が全体より 10.3%高い結果となり、「教育環境が悪い」と回答した方の割合が全体より 10.3%高い結果となりました。一方、養育中の子どもがいない世帯では、「子育て支援が不十分」と回答した方の割合が全体より 11.5%低い結果となり、「教育環境が悪い」と回答した方の割合が全体より 10.2%低い結果となりました。

子どもを持つ家庭とそうでない家庭とでは、子育て支援や教育環境への問題意識に差があり、特に子どもがいる世帯では子育て支援に不満を持っている方が多いことがわかります。

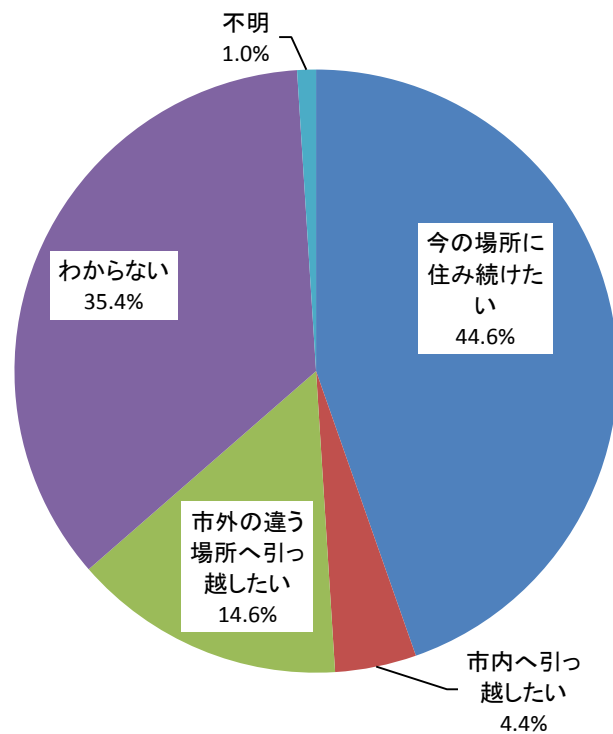


問6 これからも今の場所に住み続けたいと思いますか？（1つを選択）

①全体集計

「今の場所に住み続けたい」と回答した方が 44.6%と最も多く、次いで「わからない」が 35.4%で続いています。

「わからない」と回答している方の定住意向を高めることが課題といえます。

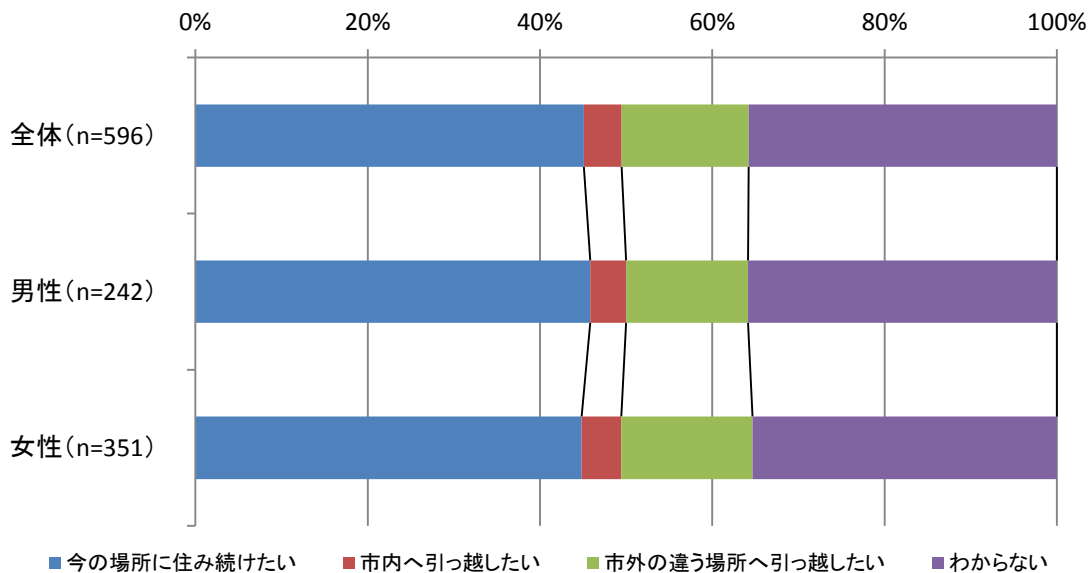


	人数	割合
今の場所に住み続けたい	266	44.6%
市内へ引っ越したい	26	4.4%
市外の違う場所へ引っ越したい	87	14.6%
わからない	211	35.4%
不明	6	1.0%
合計	596	100.0%

②属性別集計

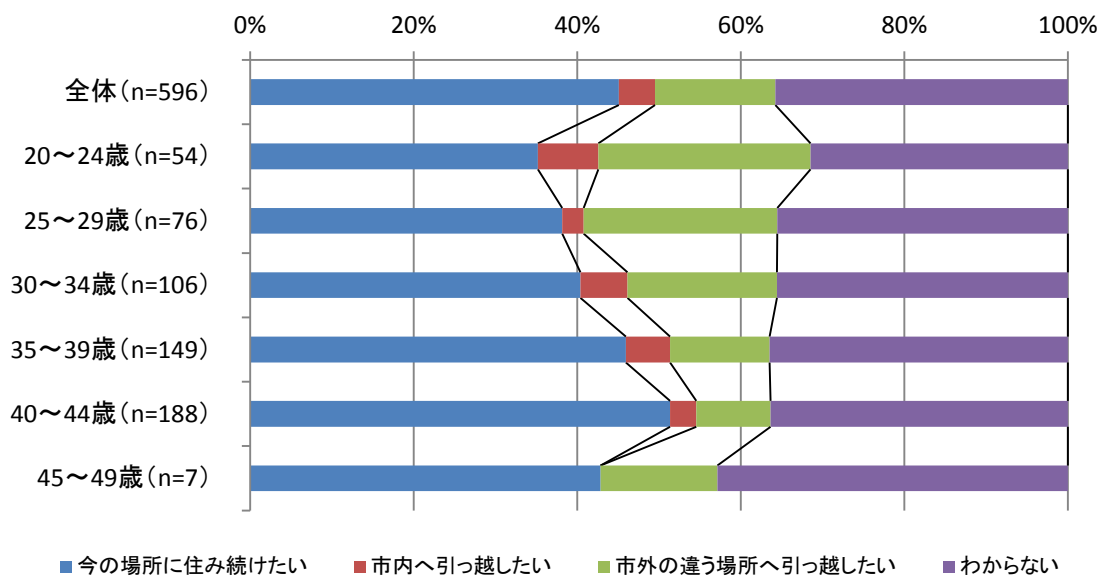
(イ) 性別

性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。



(ロ) 年代別

年代の若い方ほど、「今の場所に住み続けたい」と回答した方の割合が低く、定住意向が低くなっています。



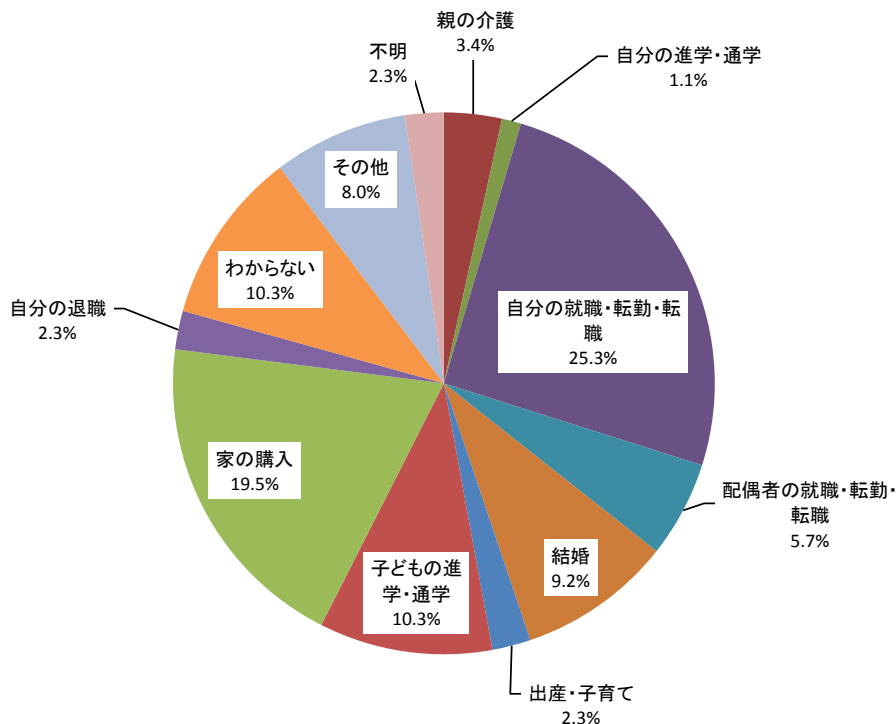
《問6で、「市外の違う場所へ引っ越したい」を選択した方にお伺いします。》

問7 市外へ引っ越す場合、最も考えられるタイミングを教えてください。(1つを選択)

①全体集計

「自分の就職・転勤・転職」と回答した方が 25.3%と最も多く、次いで「家の購入」が 19.5%で続いています。

転入したきっかけと同様に、就職や転職、家の購入が引っ越しをするきっかけであると考えている方が多いことがわかります。

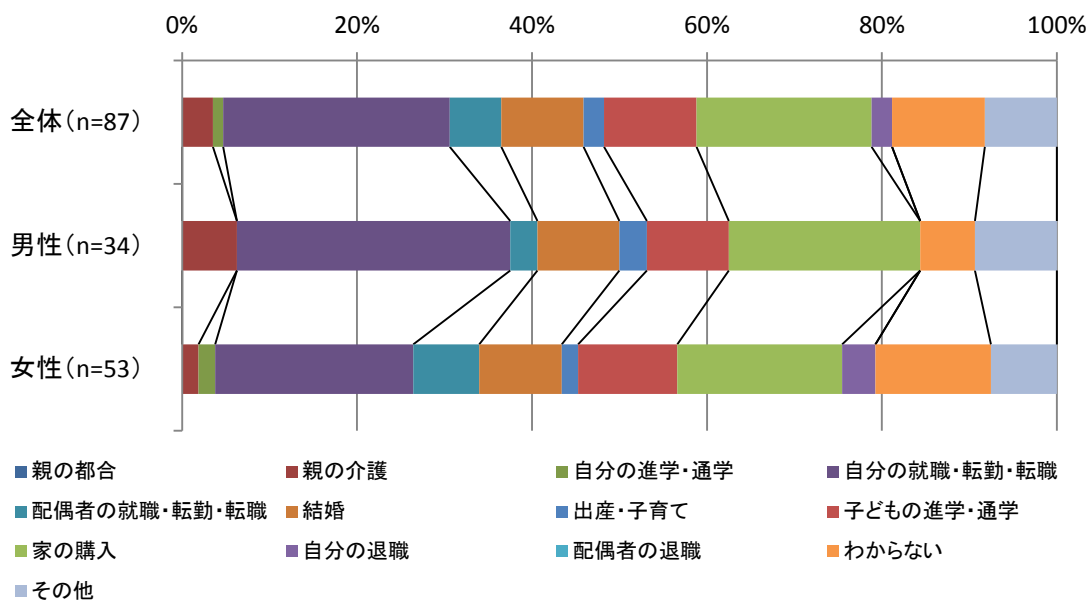


	人数	割合
親の都合	0	0.0%
親の介護	3	3.4%
自分の進学・通学	1	1.1%
自分の就職・転勤・転職	22	25.3%
配偶者の就職・転勤・転職	5	5.7%
結婚	8	9.2%
出産・子育て	2	2.3%
子どもの進学・通学	9	10.3%
家の購入	17	19.5%
自分の退職	2	2.3%
配偶者の退職	0	0.0%
わからない	9	10.3%
その他	7	8.0%
不明	2	2.3%
合計	87	100.0%

②属性別集計

(イ) 性別

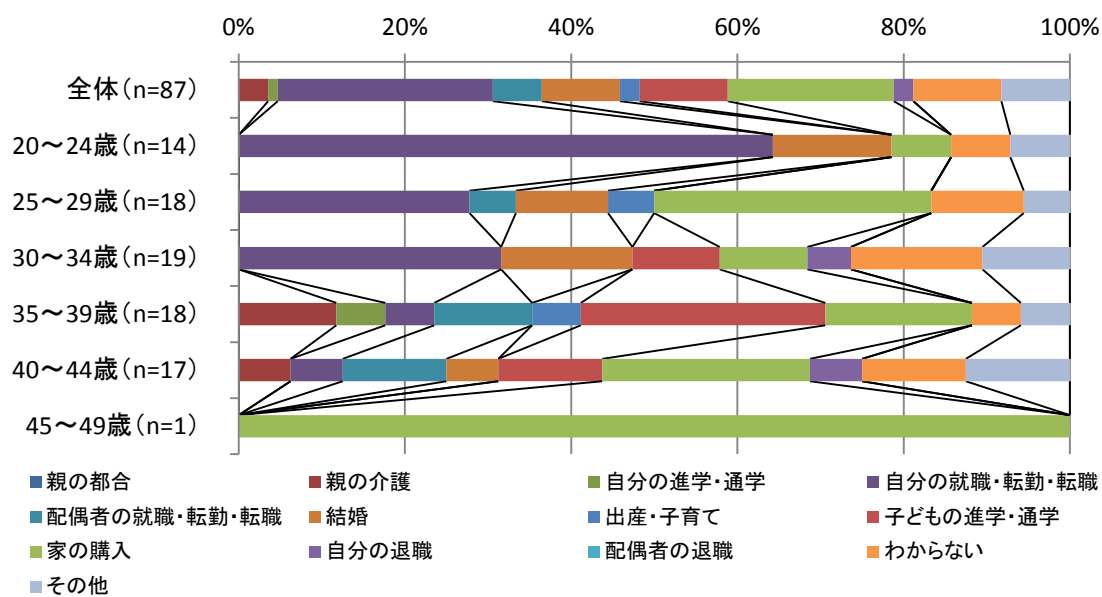
男性の方が「自分の就職・転勤・転職」(29.4%)と回答した方の割合が全体より多くなっています。女性は、全体と比べて回答結果の傾向に大きな相違はありません。



(ロ) 年代別

20～24歳では、「自分の就職・転勤・転職」と回答した方の割合が全体より39.0%高い結果となりました。一方、35～39歳では、「子どもの進学・通学」と回答した方の割合が全体より17.4%高い結果となりました。

年代が若い方は就職や転職が引越しのきっかけと考えているのに対し、子育て世代にとっては子どもの進学・通学もきっかけの一つとしてあげられていることがわかります。



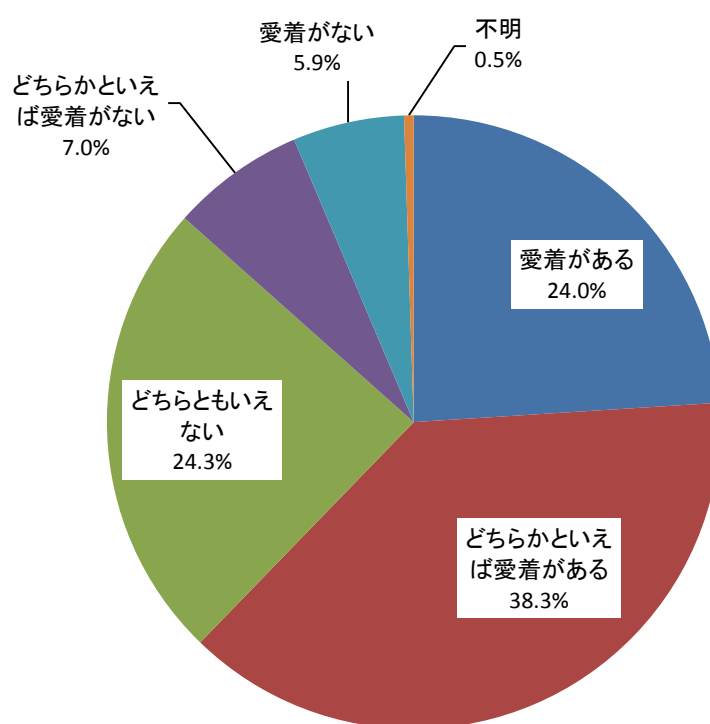
(2)「清瀬市の愛着」について

問8 清瀬市に愛着をもっていますか？（1つを選択）

①全体集計

「どちらかといえば愛着がある」と回答した方が 38.3%と最も多く、次いで「どちらともいえない」が 24.3%と続いています。

「愛着がある」(24.0%)と「どちらかといえば愛着がある」(38.3%)を合わせると、約6割の方が清瀬市に愛着を感じていることがわかります。

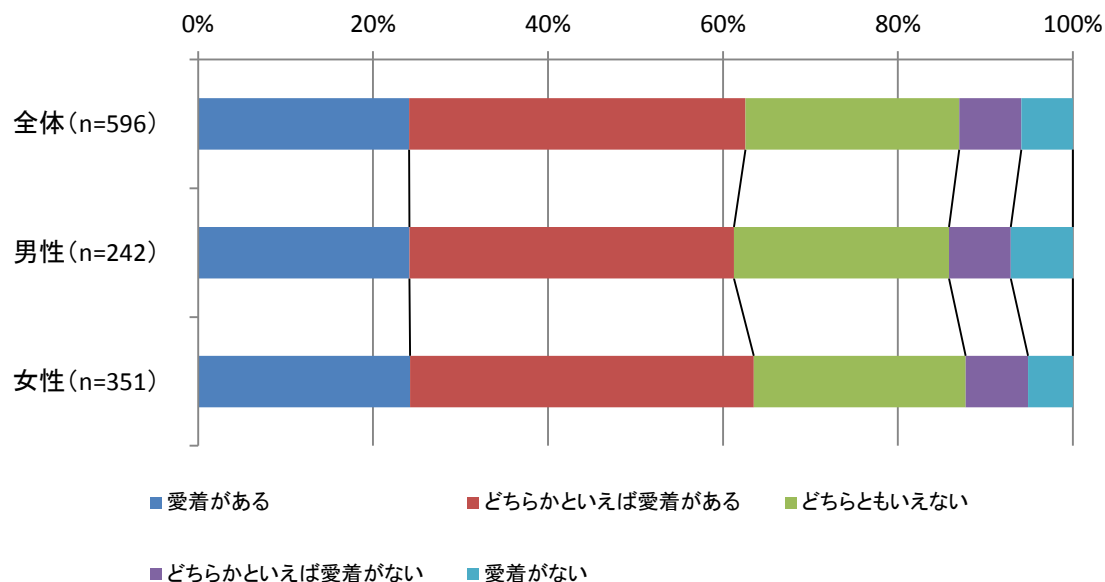


	人数	割合
愛着がある	143	24.0%
どちらかといえば愛着がある	228	38.3%
どちらともいえない	145	24.3%
どちらかといえば愛着がない	42	7.0%
愛着がない	35	5.9%
不明	3	0.5%
合計	596	100.0%

②属性別集計

(イ) 性別

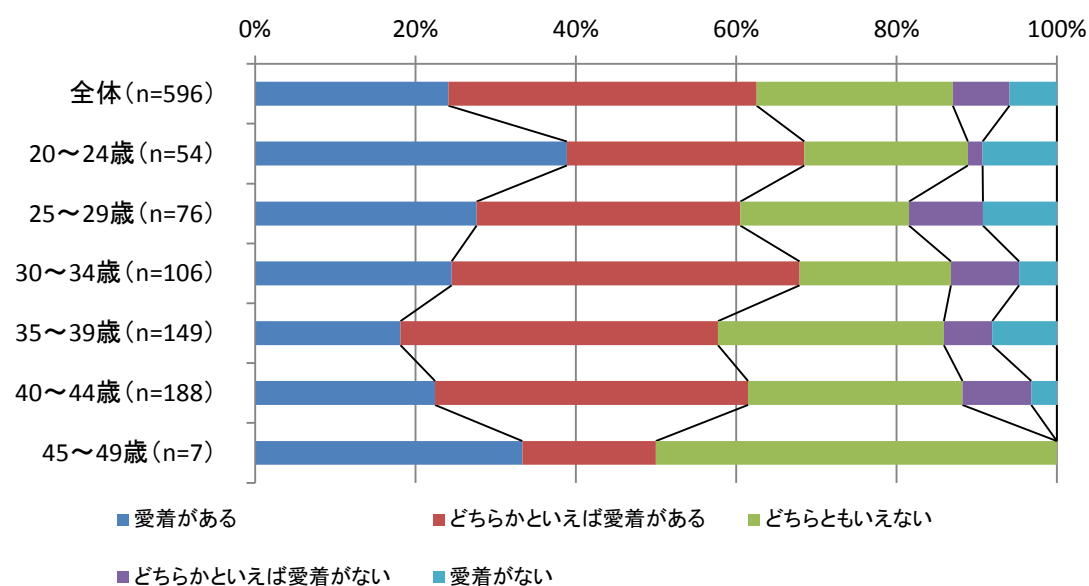
性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。



(ロ) 年代別

20～24歳では、「愛着がある」と回答した方の割合が全体より14.9%高い結果となりました。

年代が若い方ほど愛着がある方が多く、年代が上がるにつれてその割合が減少傾向にあります。

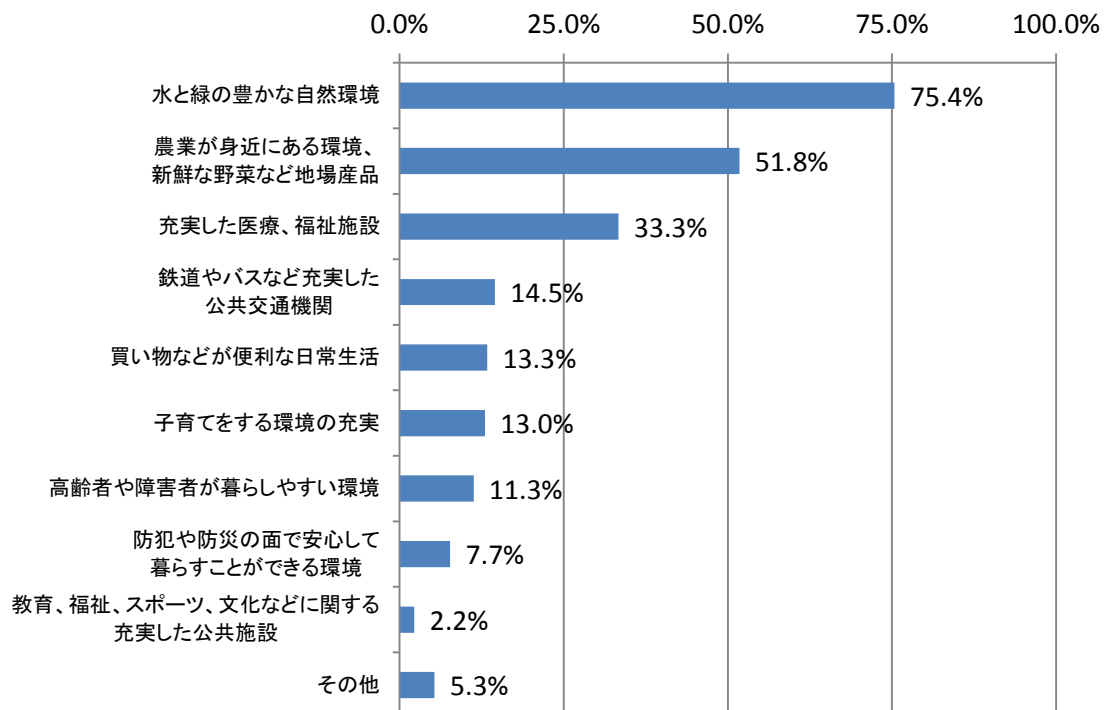


問9 清瀬市にどのような良いイメージをもっていますか？（3つまで選択）

①全体集計

「水と緑の豊かな自然環境」と回答した方が 75.4%と最も多く、次いで「農業が身近にある環境、新鮮な野菜など地場産品」が 51.8%と続いています。

自然環境や豊かな農業を清瀬市の魅力と感じている方が多く、それが問5－1の住みやすさの要因となっていることがわかります。

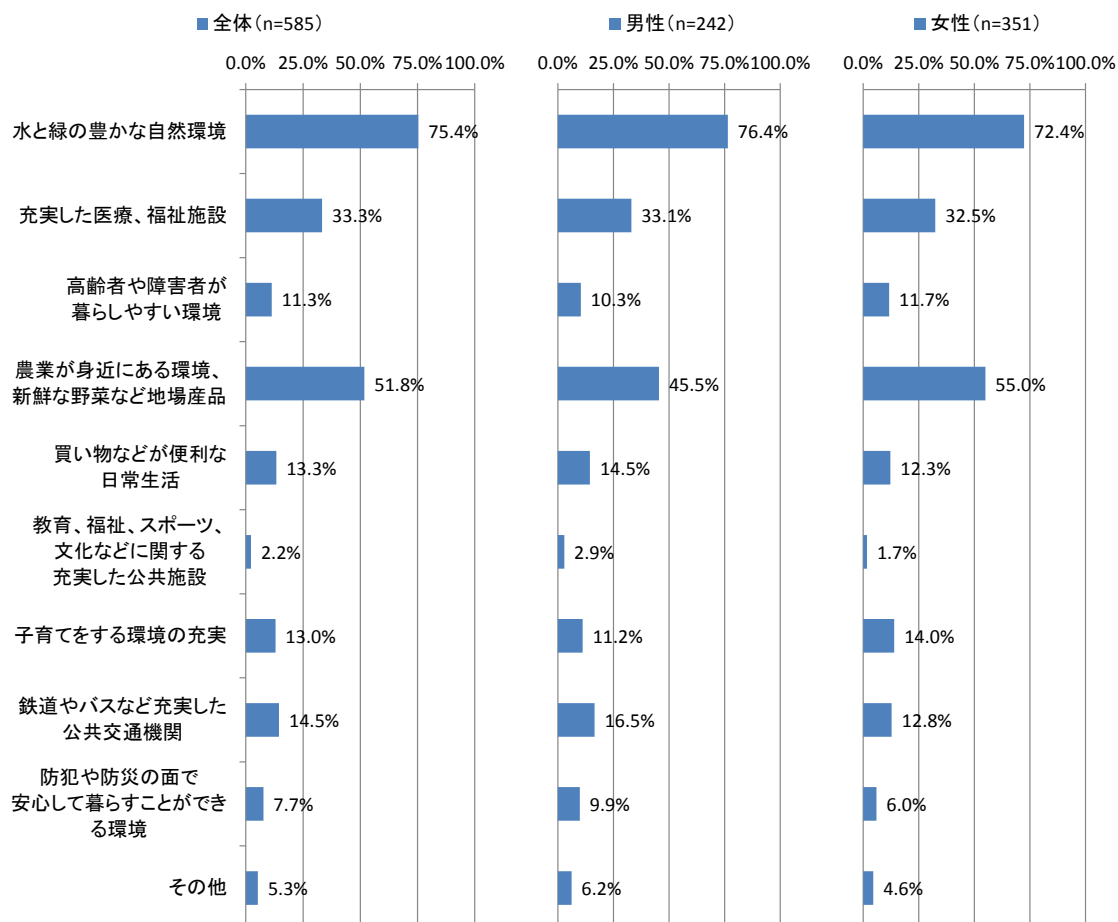


	人数	割合
水と緑の豊かな自然環境	441	75.4%
充実した医療、福祉施設	195	33.3%
高齢者や障害者が暮らしやすい環境	66	11.3%
農業が身近にある環境、新鮮な野菜など地場産品	303	51.8%
買い物などが便利な日常生活	78	13.3%
教育、福祉、スポーツ、文化などに関する充実した公共施設	13	2.2%
子育てをする環境の充実	76	13.0%
鉄道やバスなど充実した公共交通機関	85	14.5%
防犯や防災の面で安心して暮らすことができる環境	45	7.7%
その他	31	5.3%
有効回答数	585	

②属性別集計

(イ) 性別

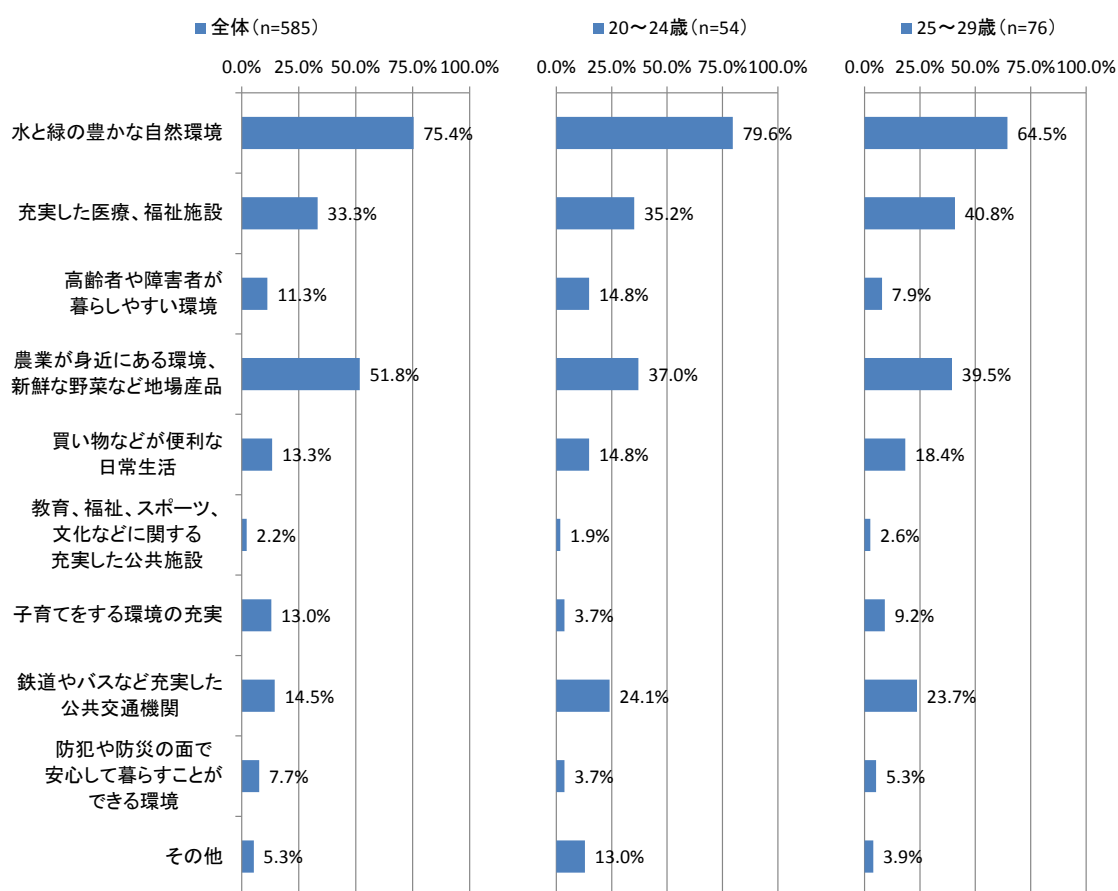
性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。

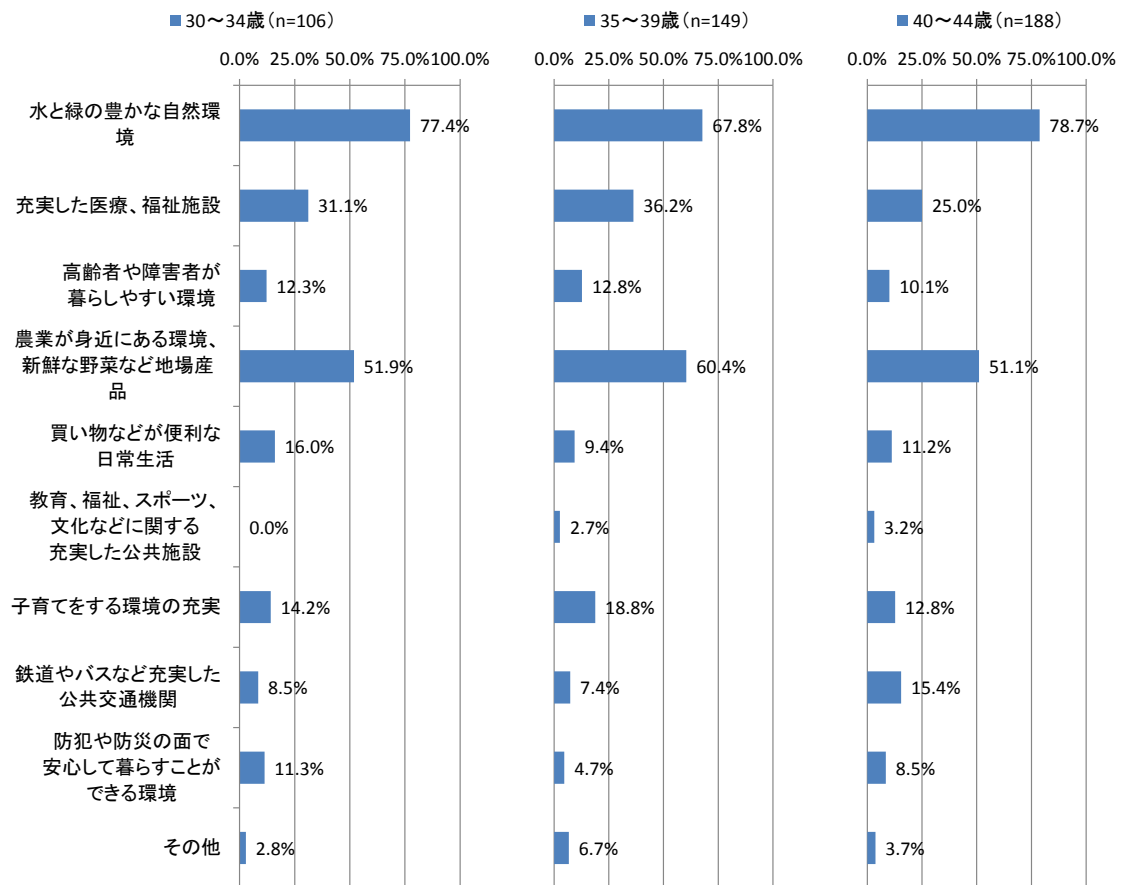


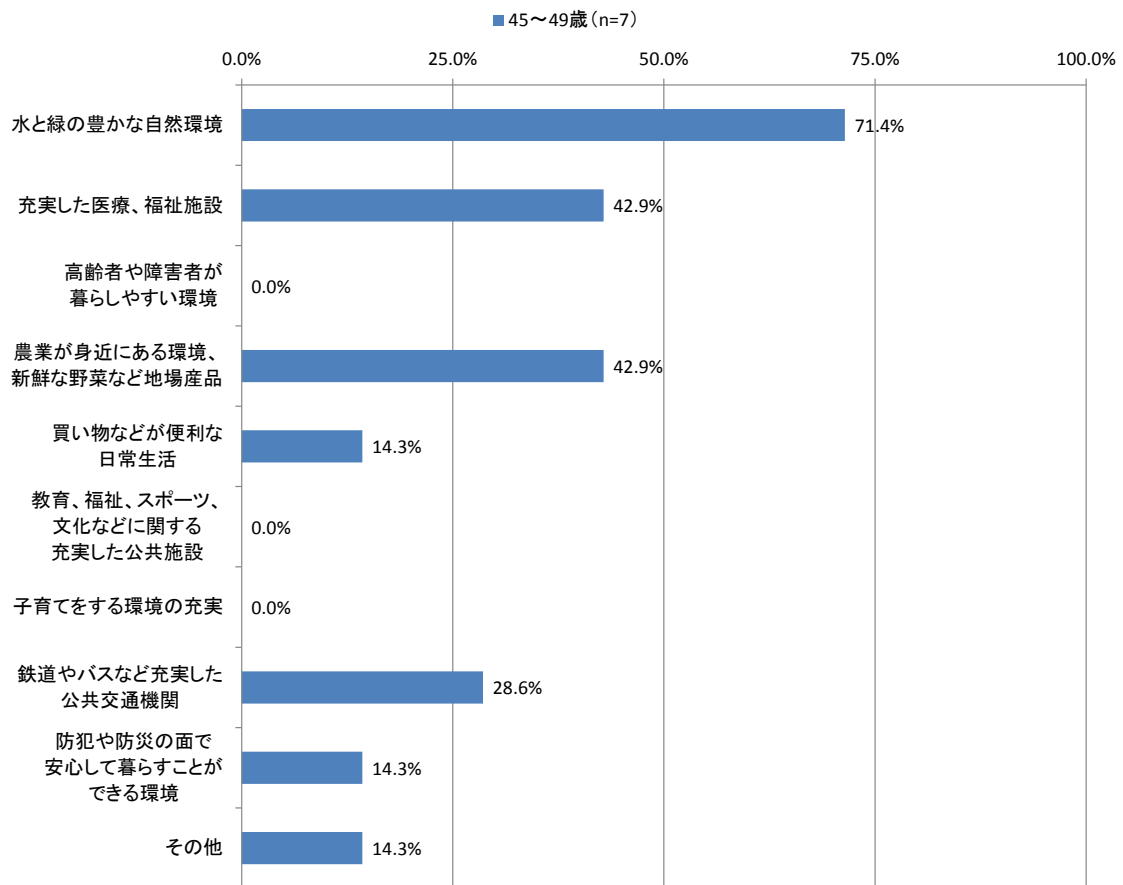
(ロ) 年代別

20～24 歳では、「農業が身近にある環境、新鮮な野菜など地場産品」と回答した方の割合が全体より 14.8%低い結果となりました。また、25～29 歳では、「水と緑の豊かな自然環境」と回答した方の割合が全体より 10.9%低い結果となりました。

年代が若い方は、自然環境よりも、公共交通機関が充実しているイメージを持っている方が多いことがわかります。







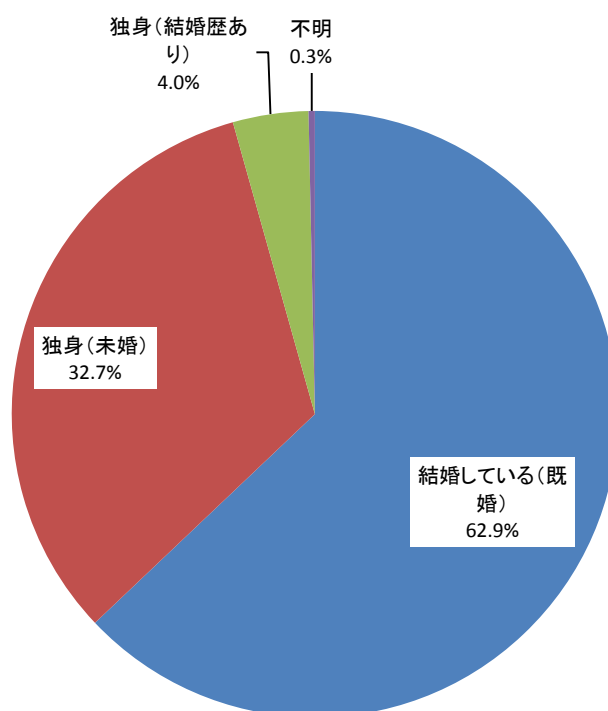
(3)「結婚・子育てに対する考え方」について

問10 あなたは、現在結婚していますか？（1つを選択）

①全体集計

「結婚している（既婚）」が 62.9%で最も多く、次いで「独身（未婚）」が 32.7%が続いています。

回答者の4割弱の方が未婚となっています。

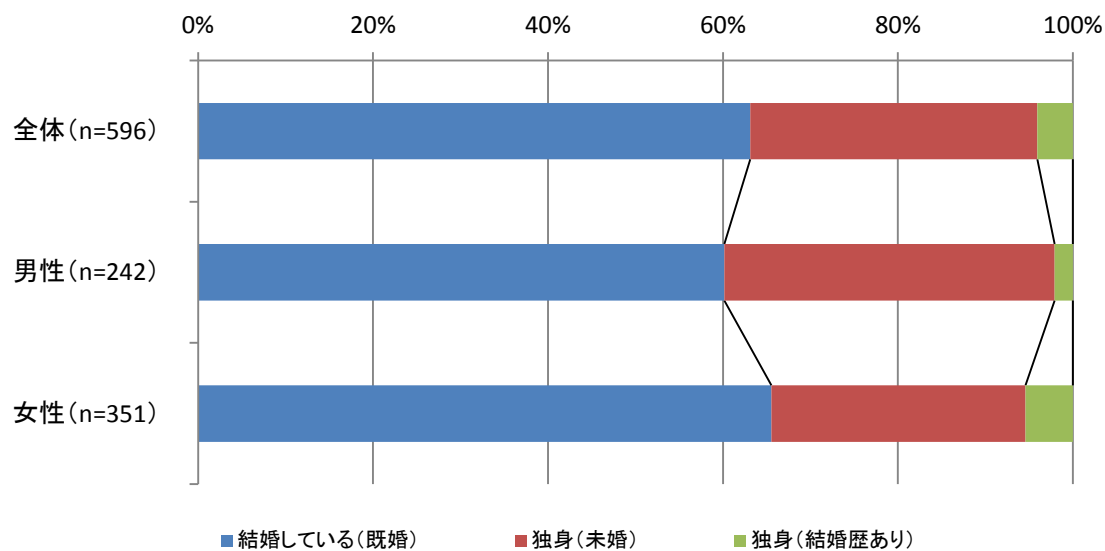


	人数	割合
結婚している(既婚)	375	62.9%
独身(未婚)	195	32.7%
独身(結婚歴あり)	24	4.0%
不明	2	0.3%
合計	596	100.0%

②属性別集計

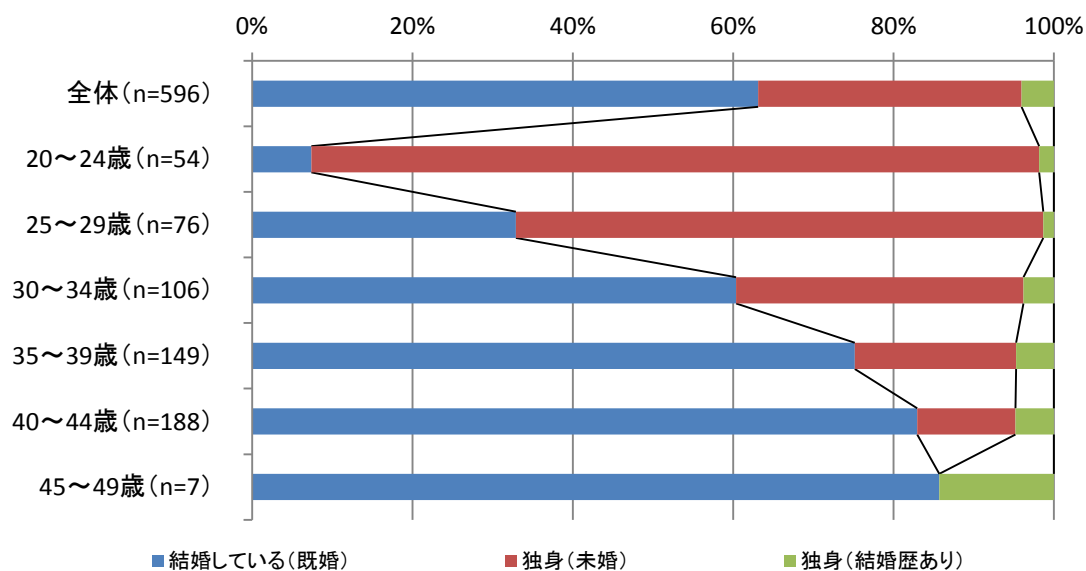
(イ) 性別

回答結果に大きな相違はありませんが、女性より男性の方が未婚の割合が高くなっています。



(ロ) 年代別

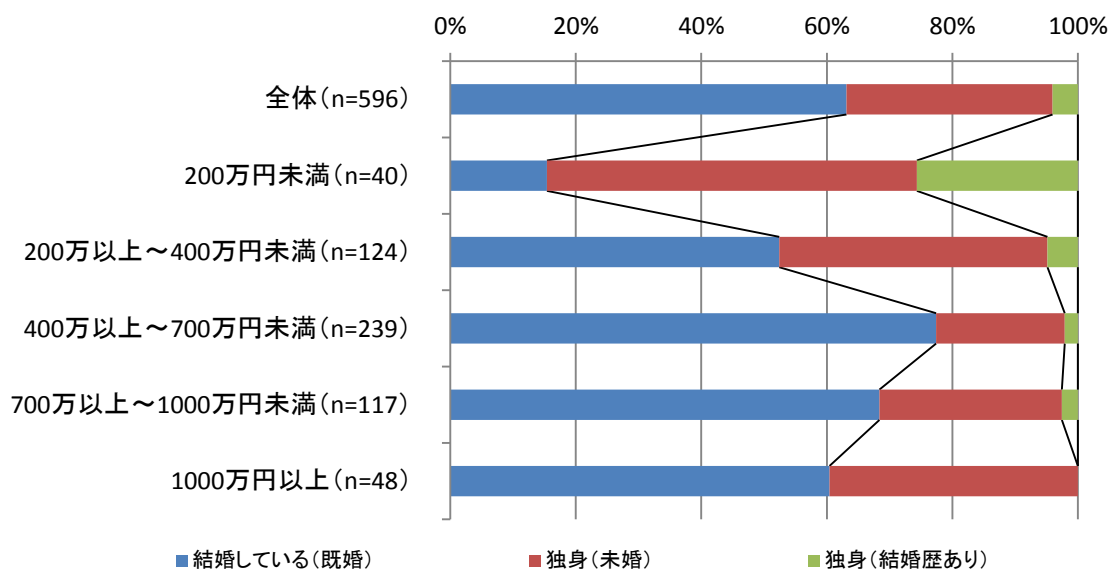
「独身(未婚)」の方の割合は、20～24歳で90.7%、25～29歳で65.8%となっており、年代の若い方の大半が未婚となっています。



(ハ) 世帯年収別

「独身（未婚）」の方の割合は世帯年収が 200 万円未満の方で 57.5%となっており、全体の割合より 24.8%高い結果となりました。

傾向としては、世帯年収が上がるほど結婚している方の割合が高くなることがわかります。



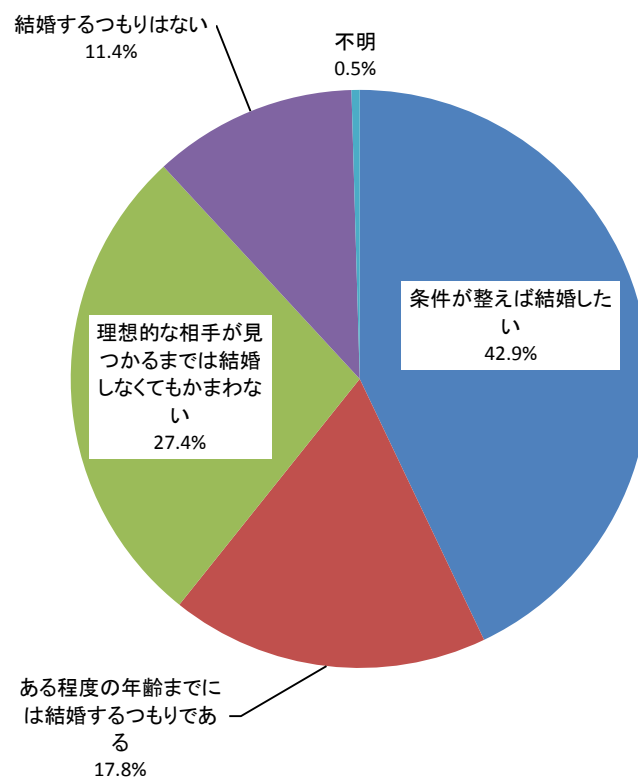
「問10で、「独身（未婚）」または「独身（結婚歴あり）」を選択した方にお伺いします。」

問11 結婚に関するあなたのお考えに近いものはどれですか？（1つを選択）

①全体集計

「条件が整えば結婚したい」と回答した方が42.9%と最も多く、次いで「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」が27.4%で続いています。

「結婚するつもりはない」（11.4%）と回答した方以外では、9割弱の方が結婚に対して意欲的であることがわかります。

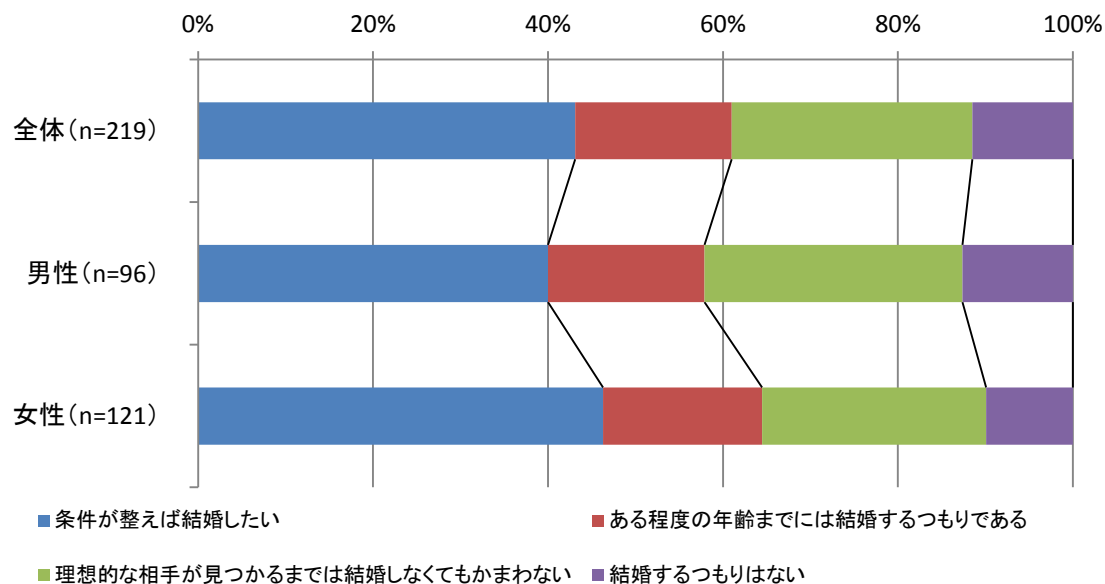


	人数	割合
条件が整えば結婚したい	94	42.9%
ある程度の年齢までには結婚するつもりである	39	17.8%
理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない	60	27.4%
結婚するつもりはない	25	11.4%
不明	1	0.5%
合計	219	100.0%

②属性別集計

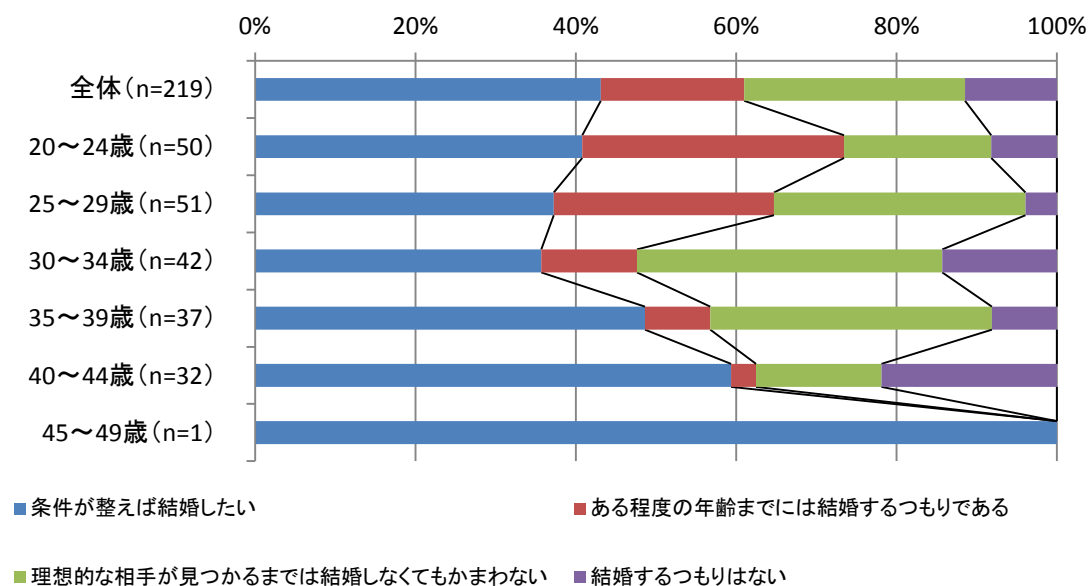
(イ) 性別

性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。



(ロ) 年代別

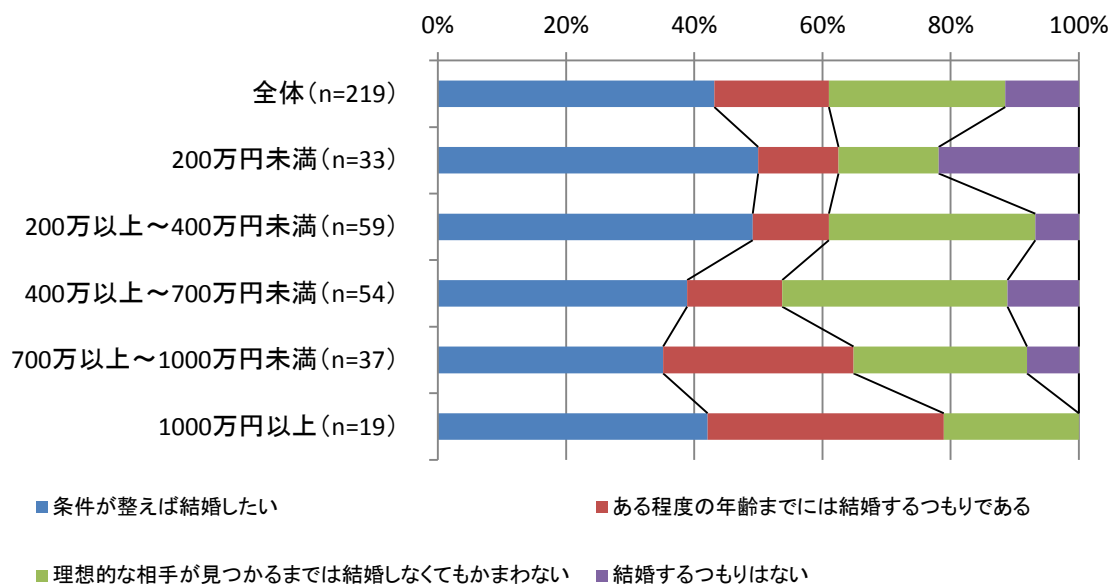
年代が高くなるほど「条件が整えば結婚したい」と回答している方が多くなり、年代の若い方は「ある程度の年齢までには結婚するつもりである」と回答した方が多くなっています。



(ハ) 世帯年収別

世帯年収が200万円未満の方は、「結婚するつもりはない」と回答した方が21.2%となり、全体よりも9.8%高い結果となりました。

世帯年収が低い方ほど、結婚への意欲が少ないことがわかります。



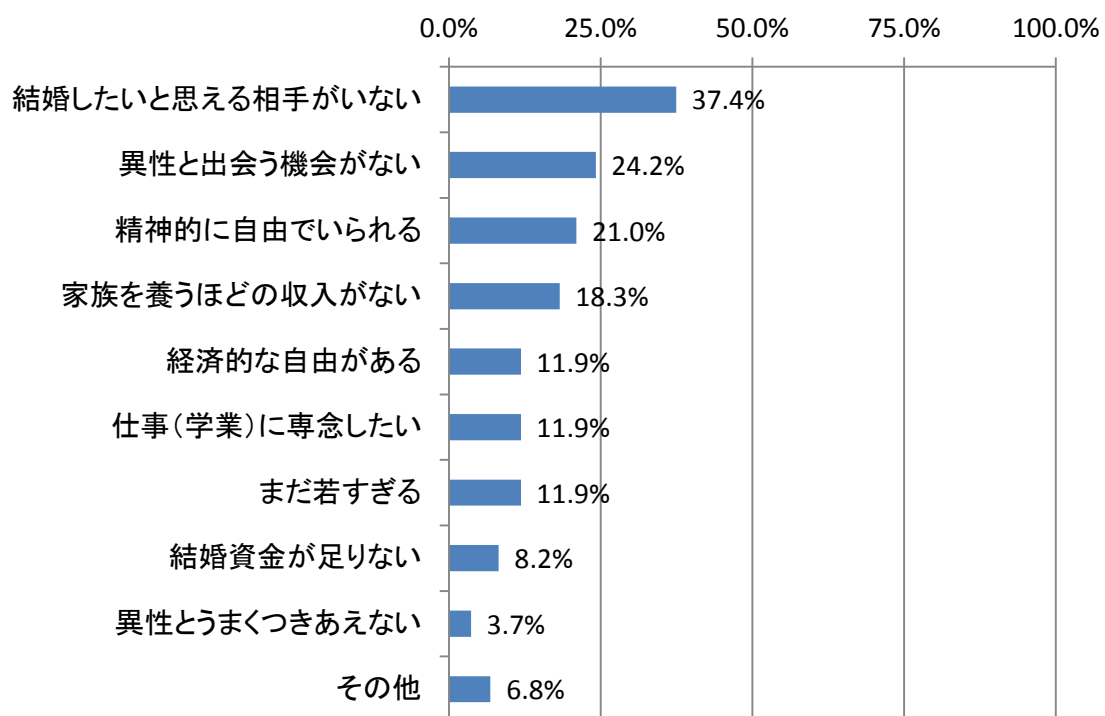
「問10で、「独身（未婚）」または「独身（結婚歴あり）」を選択した方にお伺いします。」

問12 結婚しない理由はなんですか？（3つまで選択）

①全体集計

「結婚したいと思える相手がいない」と回答した方が37.4%で最も多く、次いで「異性と出会う機会がない」が24.2%が続いています。

結婚相手との出会う機会がないと感じている方が多いことが、結婚の促進に向けた課題であるといえます。

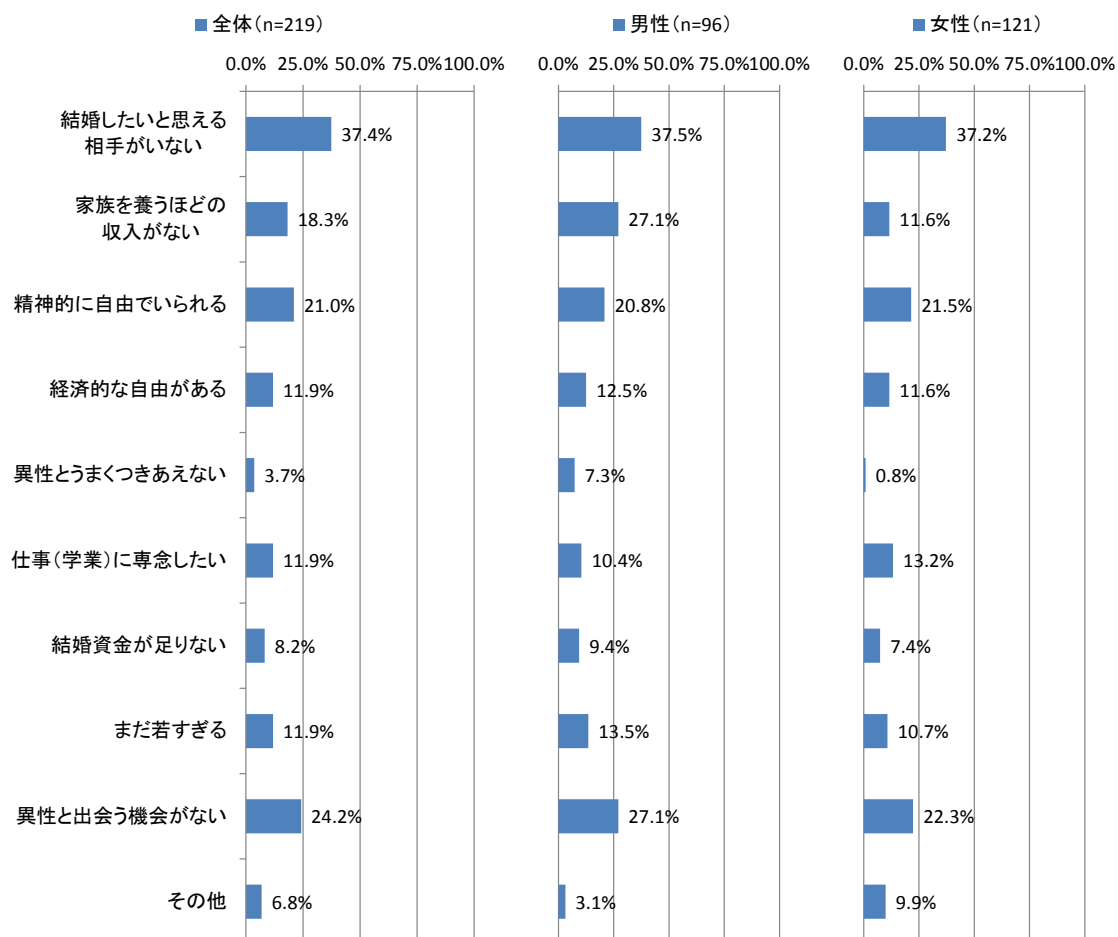


	人数	割合
結婚したいと思える相手がいない	82	37.4%
家族を養うほどの収入がない	40	18.3%
精神的に自由でいられる	46	21.0%
経済的な自由がある	26	11.9%
異性とうまくつきあえない	8	3.7%
仕事（学業）に専念したい	26	11.9%
結婚資金が足りない	18	8.2%
まだ若すぎる	26	11.9%
異性と出会う機会がない	53	24.2%
その他	15	6.8%
有効回答数	219	

②属性別集計

(イ) 性別

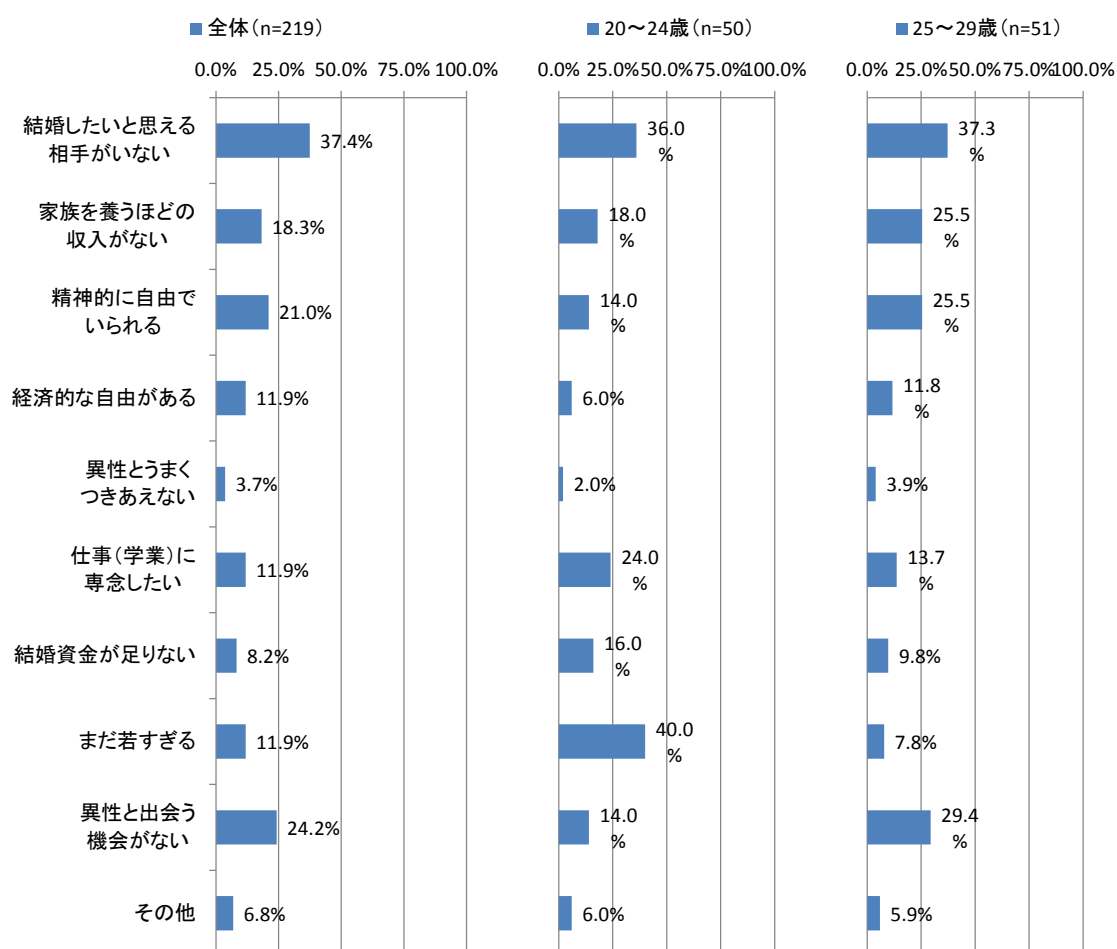
性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。

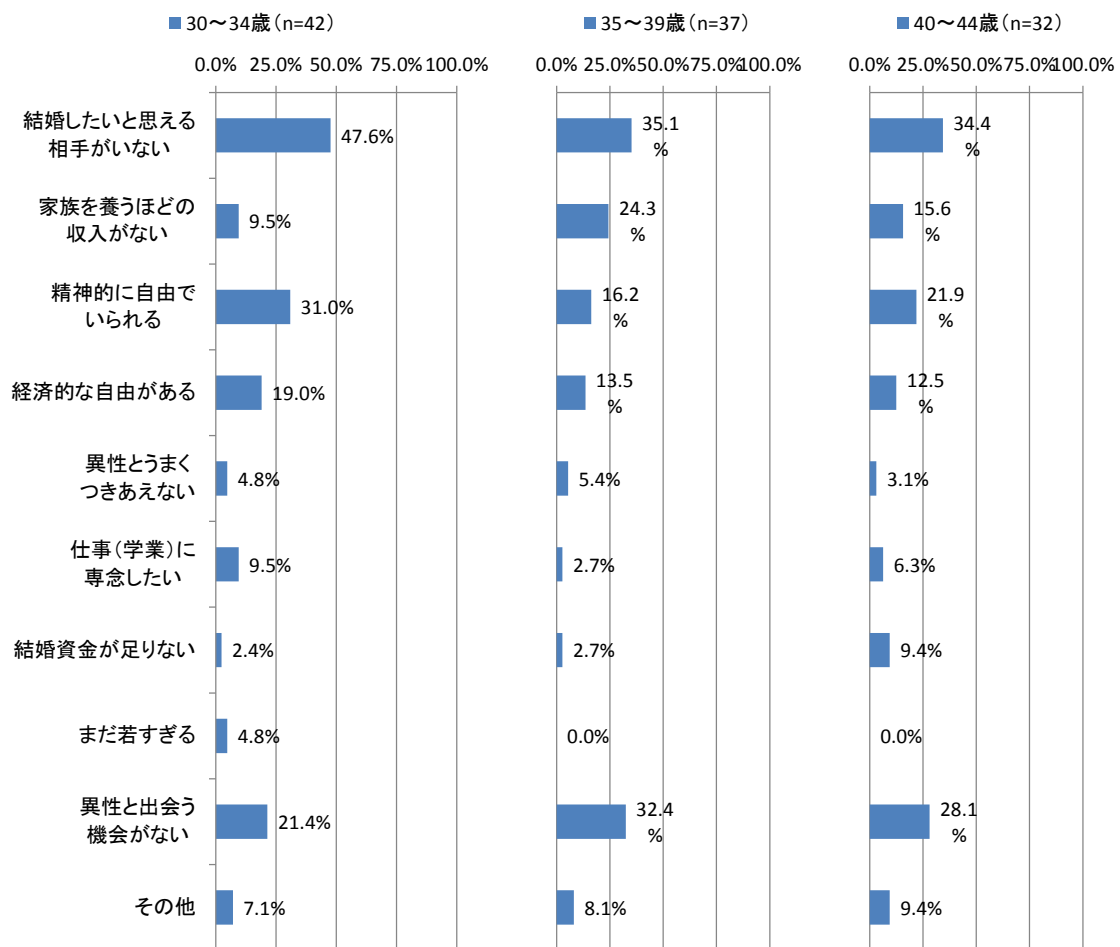


(ロ) 年代別

20～24歳では、「まだ若すぎる」と回答した方の割合が全体より 28.1%高い結果となりました。また、「仕事（学業）に専念したい」と回答した方の割合が全体より 12.1%高い結果となりました。

年代の若い方は、仕事や学業に専念し、結婚はまだ早いと感じている方が多いことがわかります。



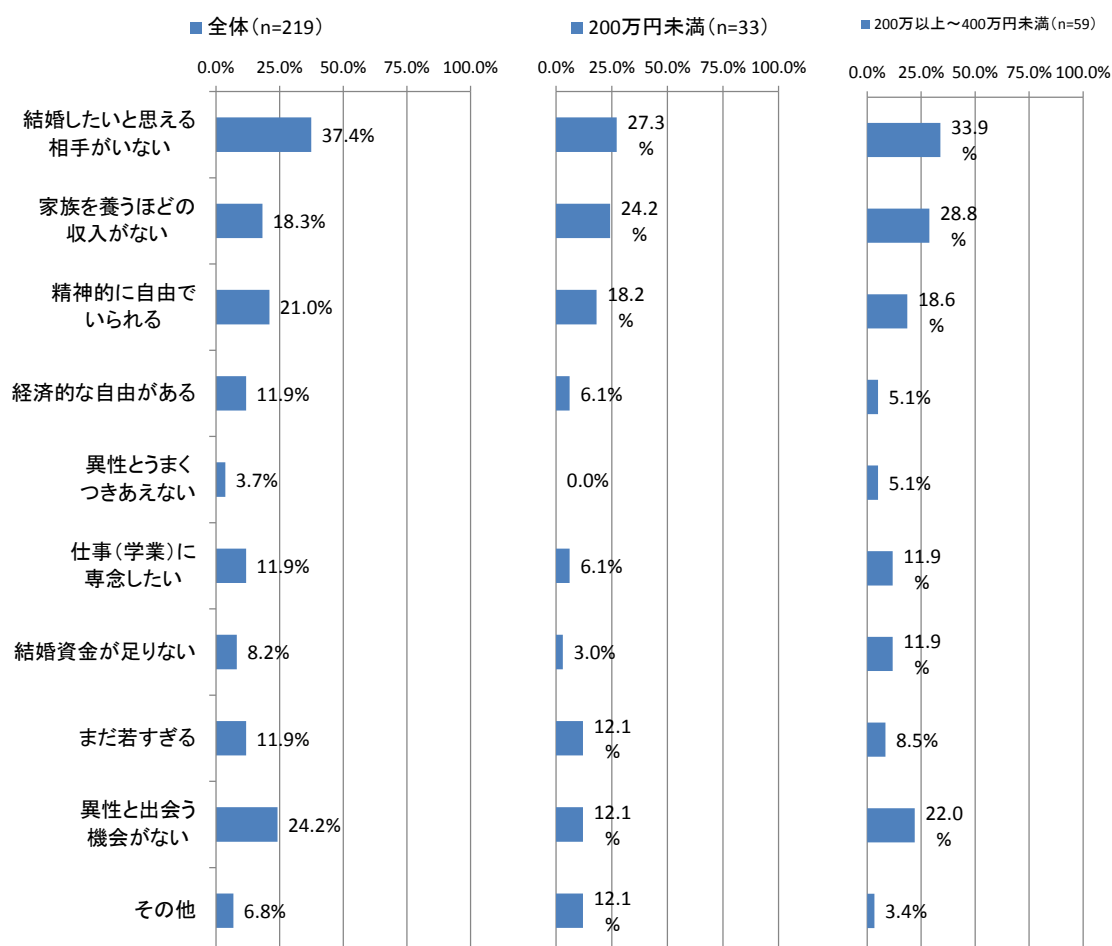


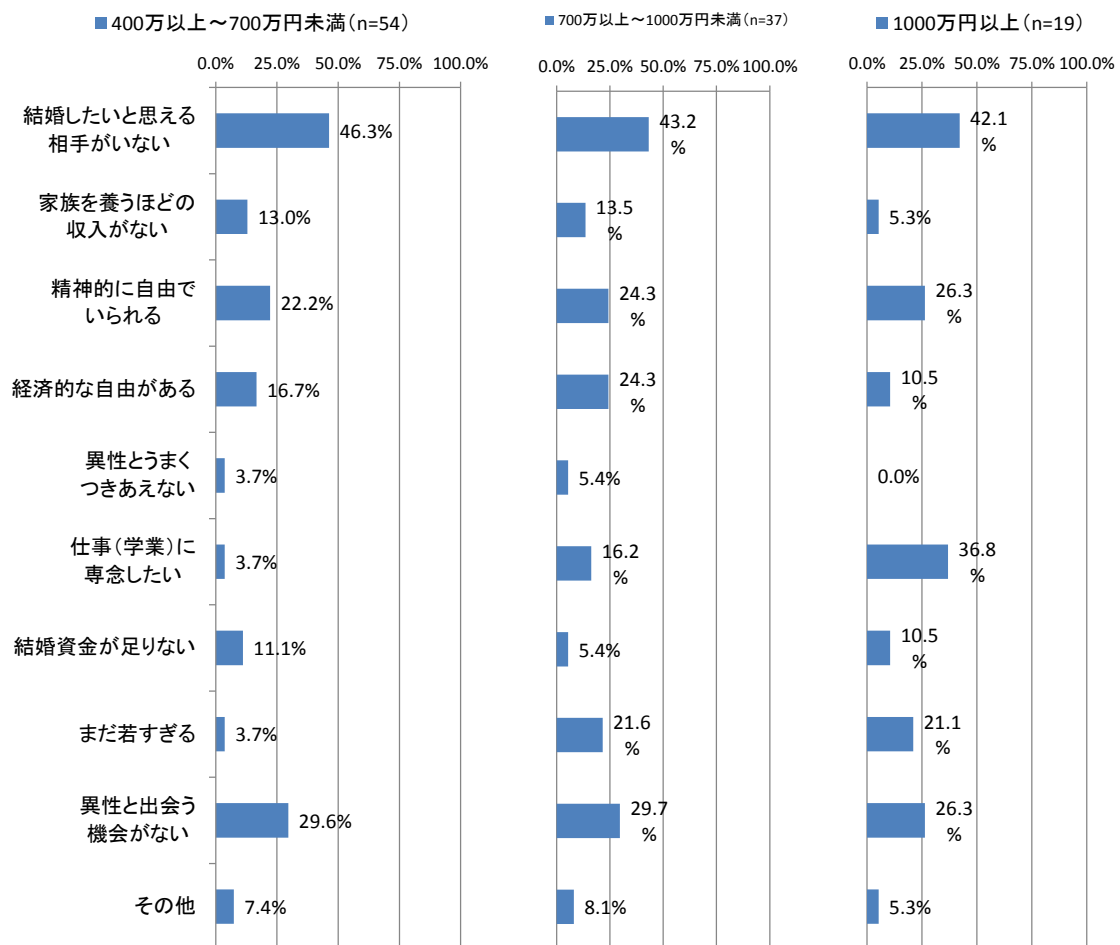
(45～49 歳は該当者なし。)

(ハ) 世帯年収別

世帯年収が 200 万以上～400 万円未満は、「家族を養うほどの収入がない」と回答した方の割合が全体より 10.5%高い結果となりました。また、世帯年収が 1000 万円以上の方は「仕事（学業）に専念したい」と回答した方の割合が全体より 25.0%高い結果となりました。

世帯年収が低くなるほど、経済的な不安から結婚していない方が多いことがわかります。



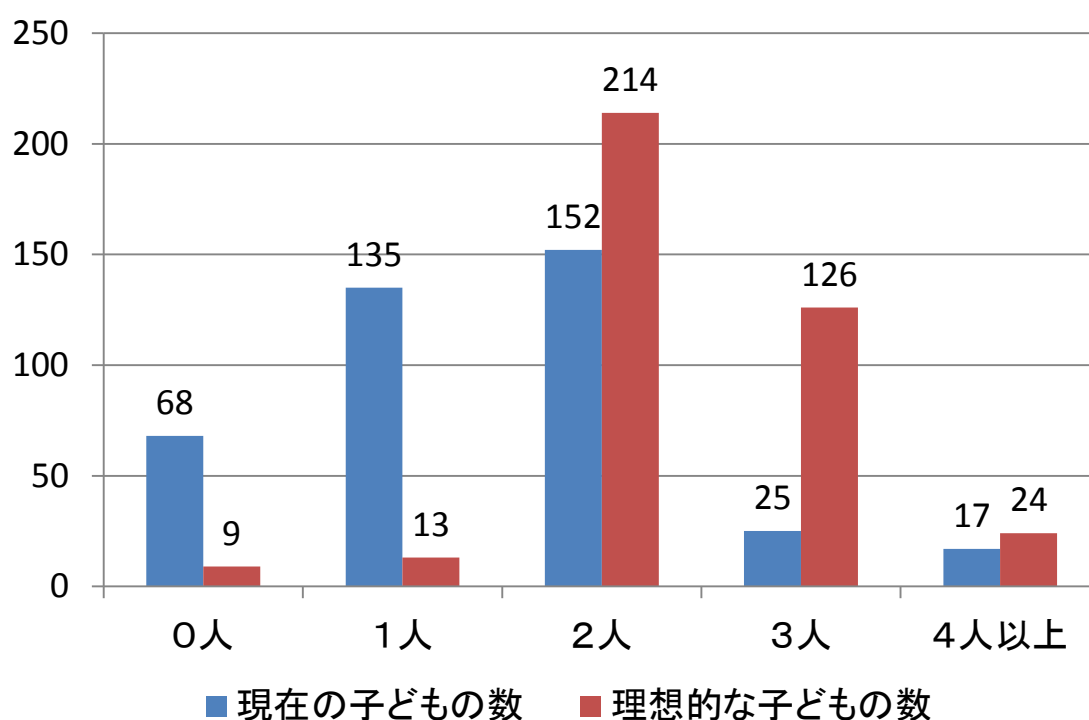


《問10で、「結婚している（既婚）」または「独身（結婚歴あり）」を選択した方にお伺いします。》

問13 あなたにとって、「現在のお子さんの数」、「理想的な子どもの数」は何人ですか？
（1つを選択）

①全体集計

「理想的な子どもの数」は「2人」と回答した方が最も多くなっていますが、「現在の子どもの数」は「1人」という方も多く、理想的な子どもの数とギャップがあることがわかります。

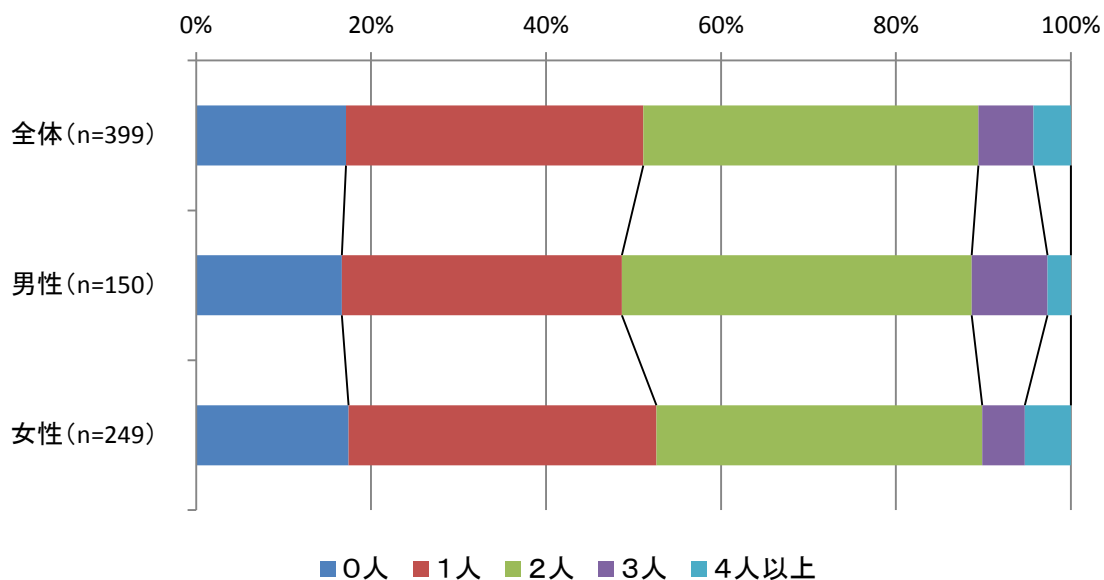


	現在の子どもの数	理想的な子どもの数
0人	68	9
1人	135	13
2人	152	214
3人	25	126
4人以上	17	24
不明	2	13
合計	399	399

②属性別集計

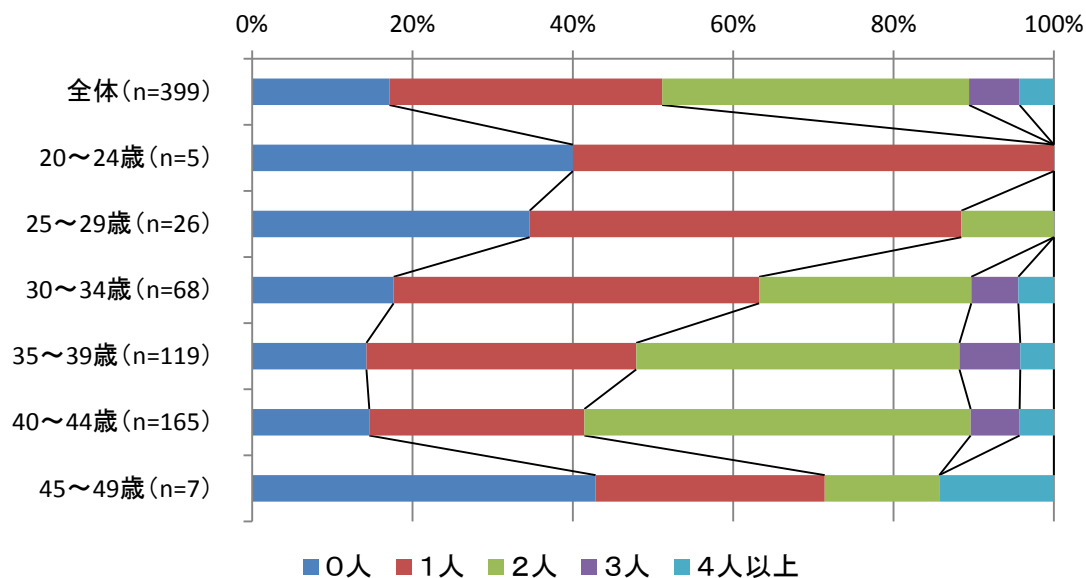
(イ) 性別

性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。



(ロ) 年代別

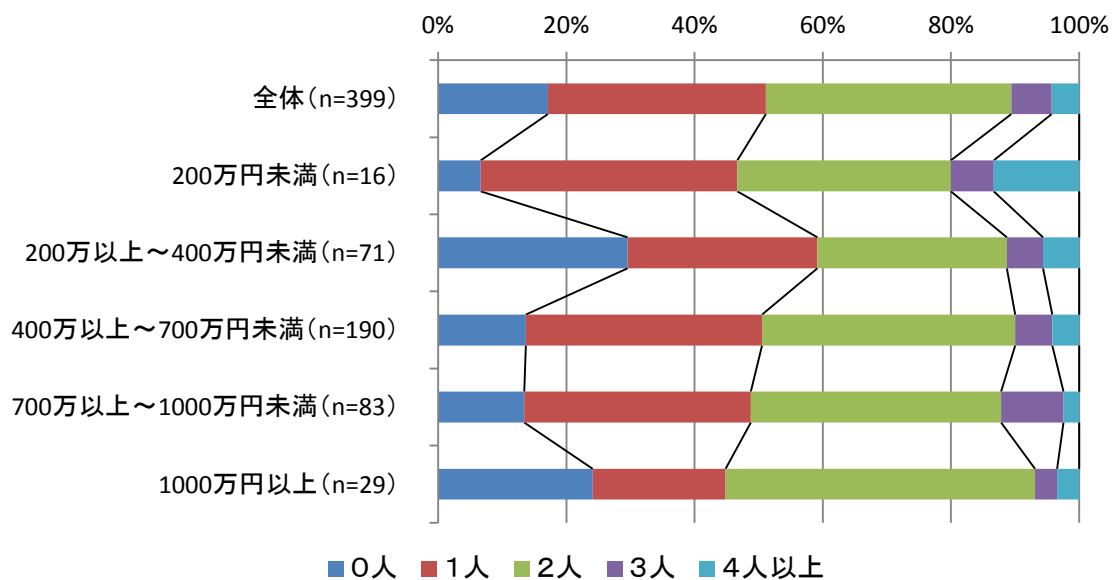
20～24歳では、「2人」と回答した方の割合が全体より38.1%低い結果となりました。
年代の若い方は、子どもの数が少なくなっています。



(ハ) 世帯年収別

世帯年収が 1000 万円以上の方は「2 人」と回答した方の割合が全体より 10.2%高い結果となりました。

世帯年収の高い方が、子どもの数が比較的多くなる傾向にあることがわかります。



《問１３で「現在の子どもの数」が、「理想的な子どもの数」より少ない方に伺います。》

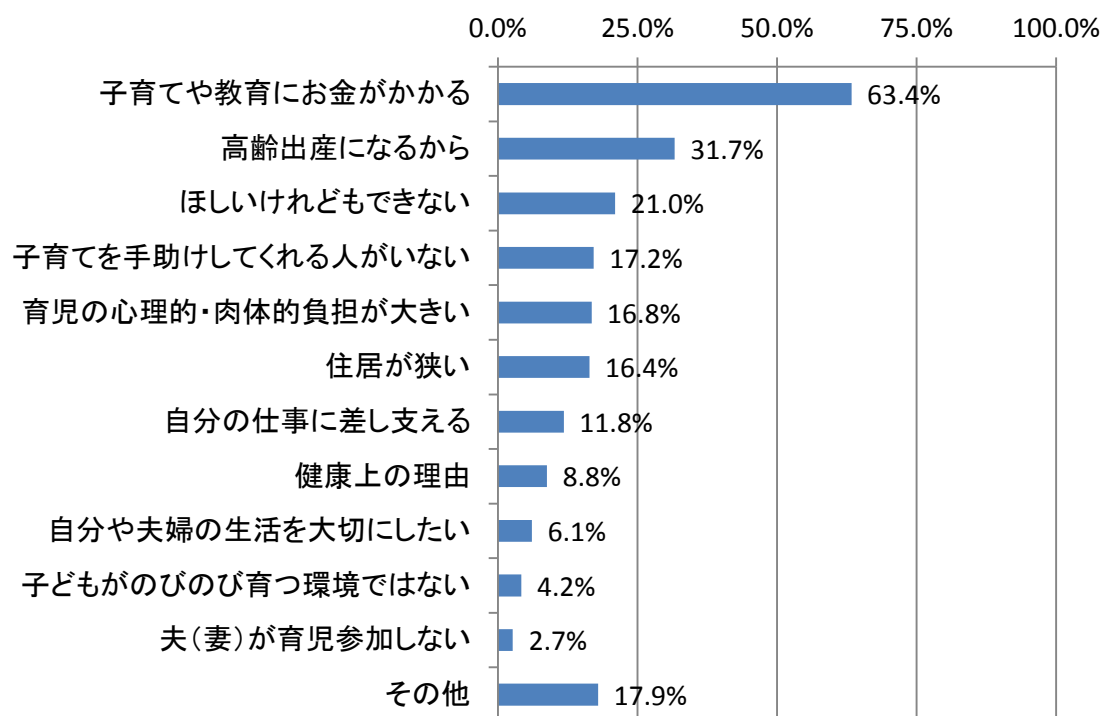
問１４ 「現在の子どもの数」が、「理想的な子どもの数」より少ない理由はなんですか？

(３つまで選択)

①全体集計

「子育てや教育にお金がかかる」と回答した方が 63.4%と最も多く、次いで「高齢出産になるから」が 31.7%で続いています。

子育てに伴う経済的不安が、子どもの数が少ない主要因であることがわかります。



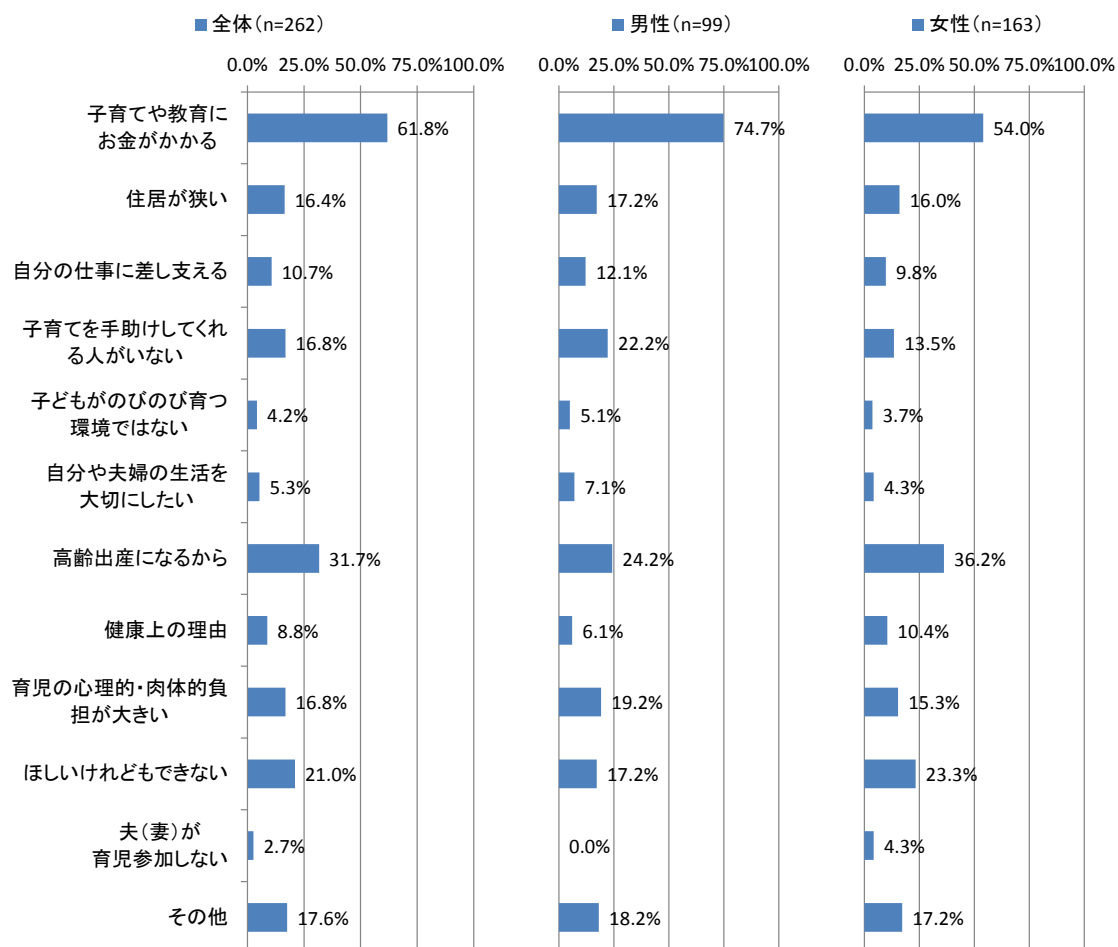
	人数	割合
子育てや教育にお金がかかる	166	63.4%
住居が狭い	43	16.4%
自分の仕事に差し支える	31	11.8%
子育てを手助けしてくれる人がいない	45	17.2%
子どもがのびのび育つ環境ではない	11	4.2%
自分や夫婦の生活を大切にしたい	16	6.1%
高齢出産になるから	83	31.7%
健康上の理由	23	8.8%
育児の心理的・肉体的負担が大きい	44	16.8%
ほしいけれどもできない	55	21.0%
夫(妻)が育児参加しない	7	2.7%
その他	47	17.9%
有効回答数	262	

②属性別集計

(イ) 性別

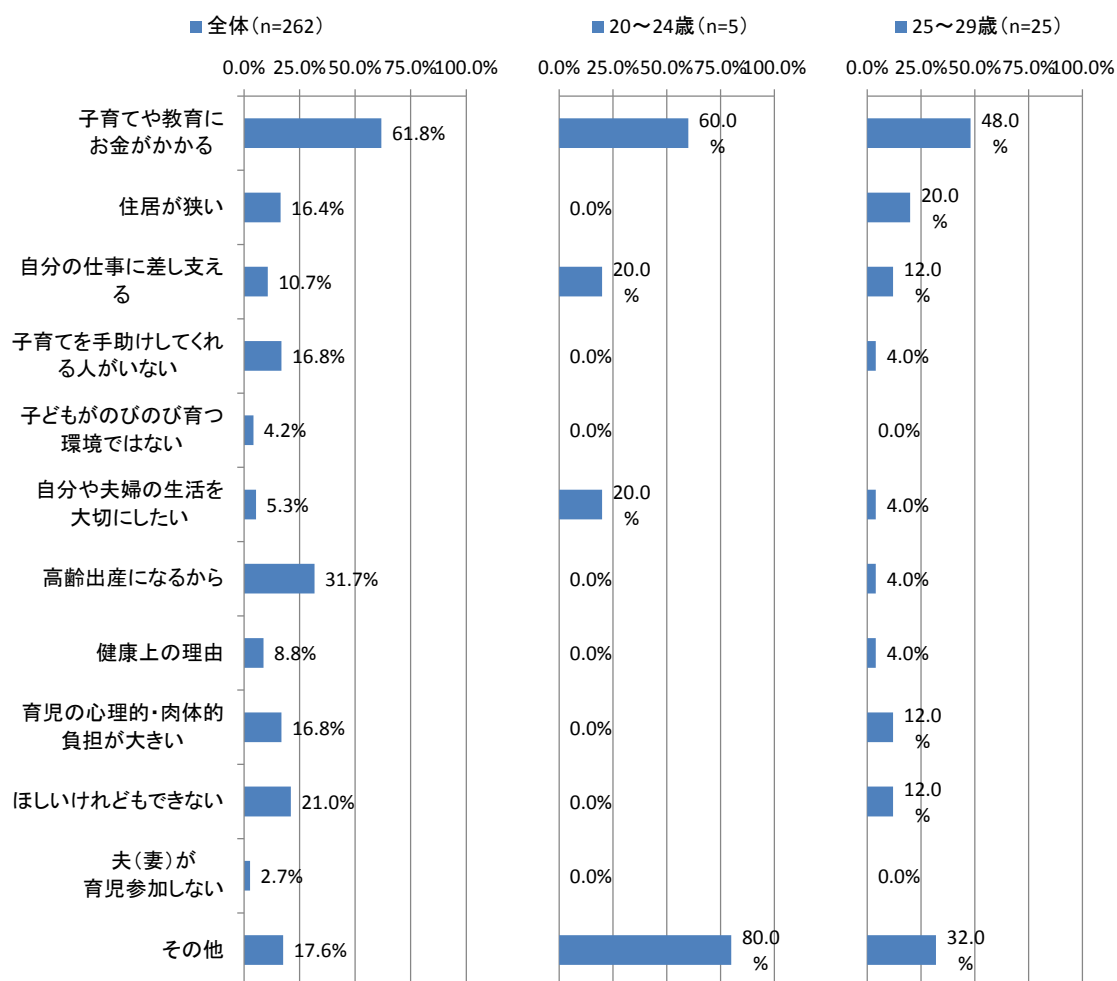
男性では、「子育てや教育にお金がかかる」と回答した方の割合が全体より 12.9%高い結果となりました。

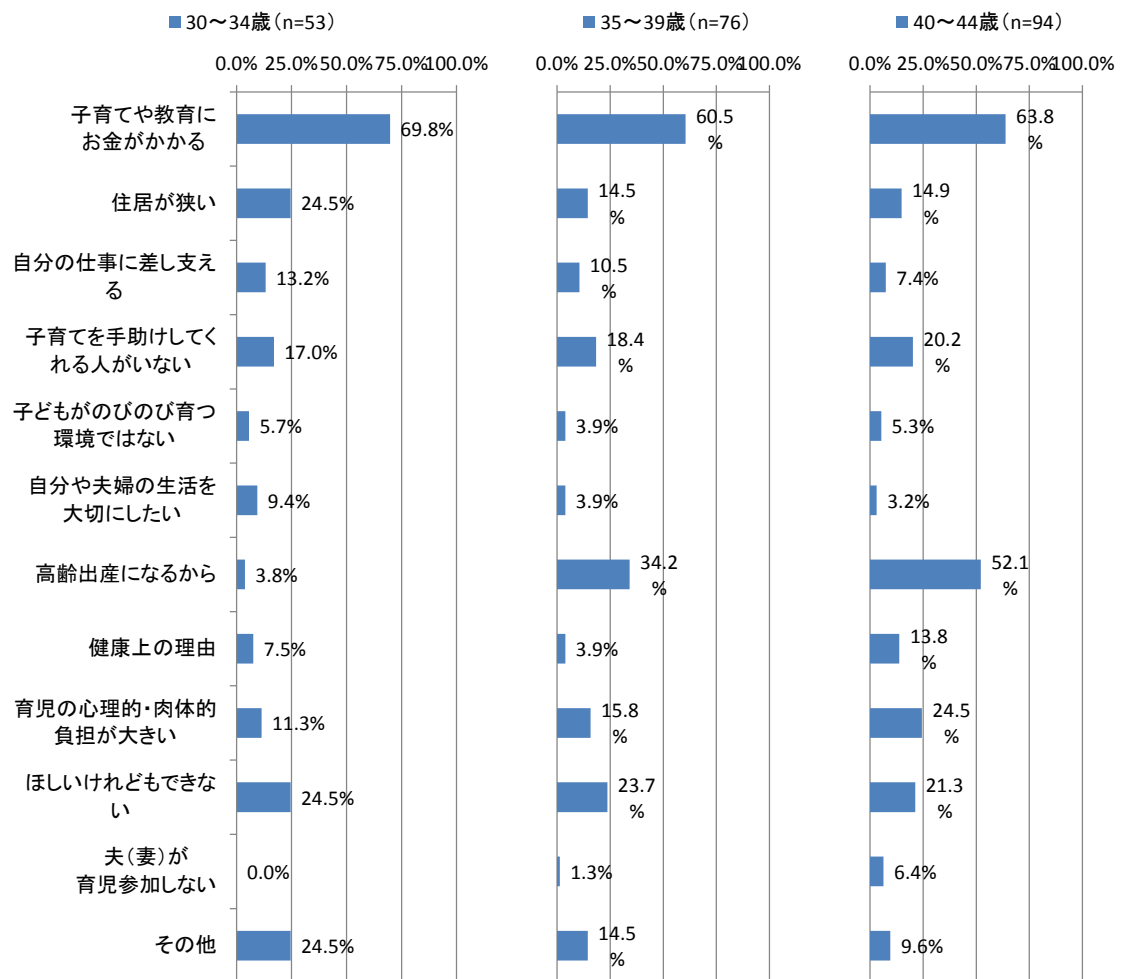
子育てに伴う経済的な不安は、女性よりも男性の方が多く感じていることがわかります。

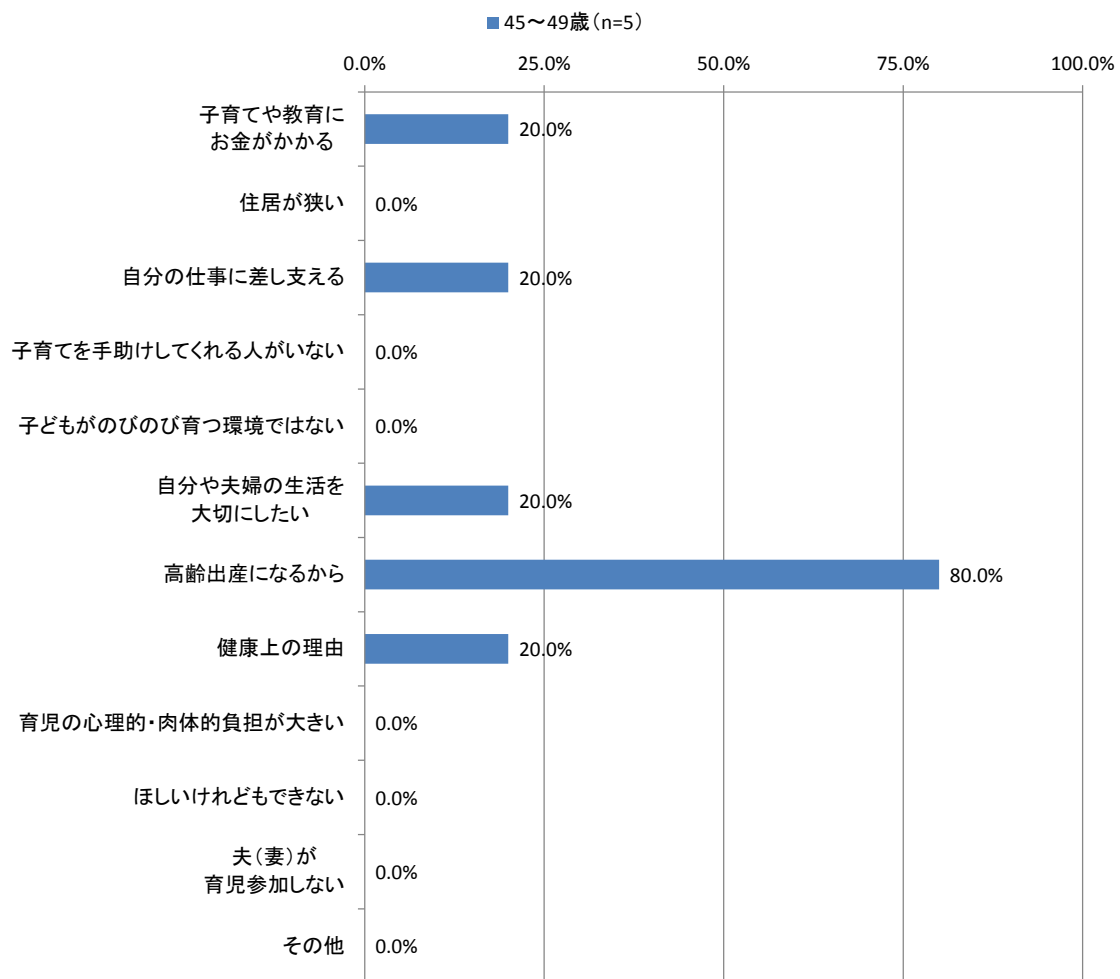


(ロ) 年代別

40～44 歳では、「高齢出産になるから」と回答した方の割合が全体より 20.4%高い結果となりました。一方、年代の若い方は、「その他」として、「結婚したばかりだから」、「保育園の空きがないから」といった回答がみられました。





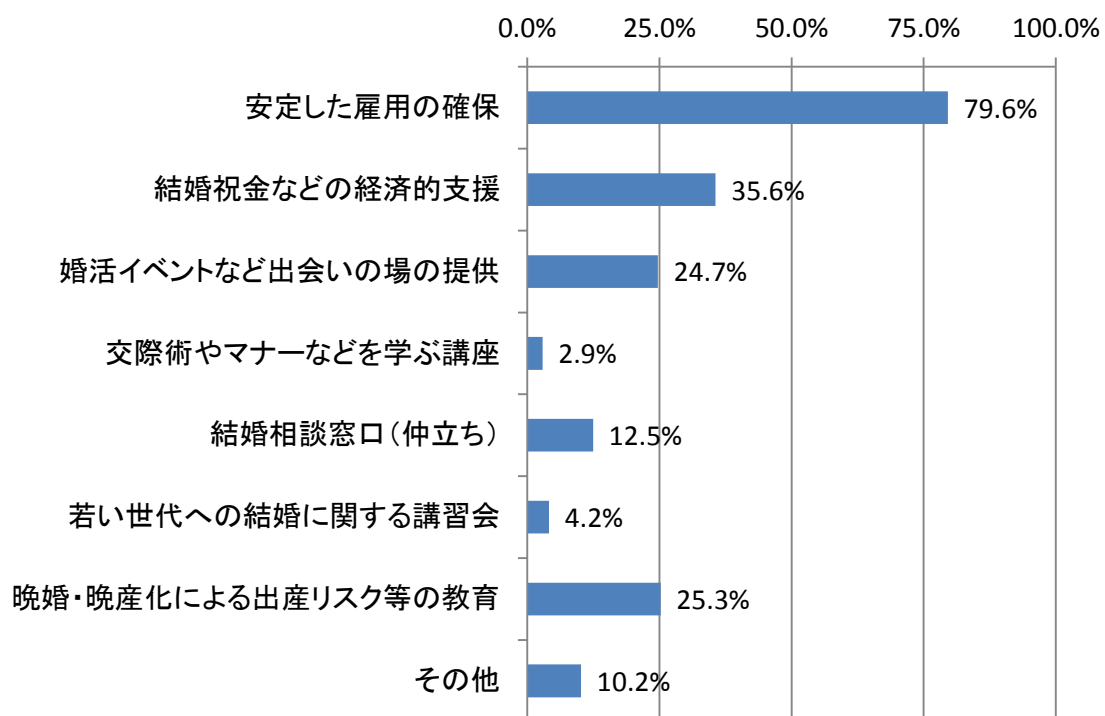


問 1 5 結婚を支援するために、行政（市、県、国）が取り組むべき事業は何だと思えますか？（3 つまで選択）

①全体集計

「安定した雇用の確保」と回答した方が 79.6%で最も多く、次いで「結婚祝金などの経済的支援」が 35.6%と続いています。

雇用環境の改善等の経済的な基盤の整備が出走率向上のために必要であると考えている方が多いことがわかります。

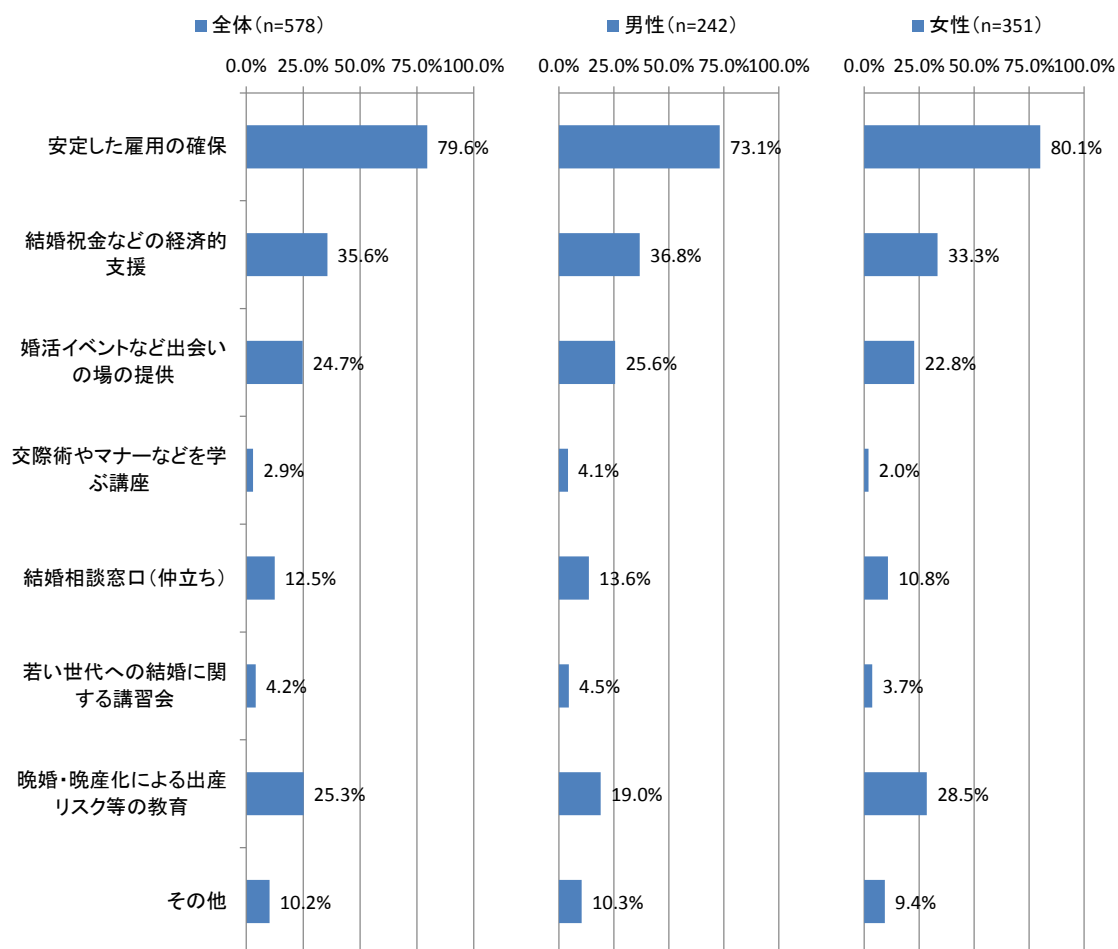


	人数	割合
安定した雇用の確保	460	79.6%
結婚祝金などの経済的支援	206	35.6%
婚活イベントなど出会いの場の提供	143	24.7%
交際術やマナーなどを学ぶ講座	17	2.9%
結婚相談窓口（仲立ち）	72	12.5%
若い世代への結婚に関する講習会	24	4.2%
晩婚・晩産化による出産リスク等の教育	146	25.3%
その他	59	10.2%
有効回答数	578	

②属性別集計

(イ) 性別

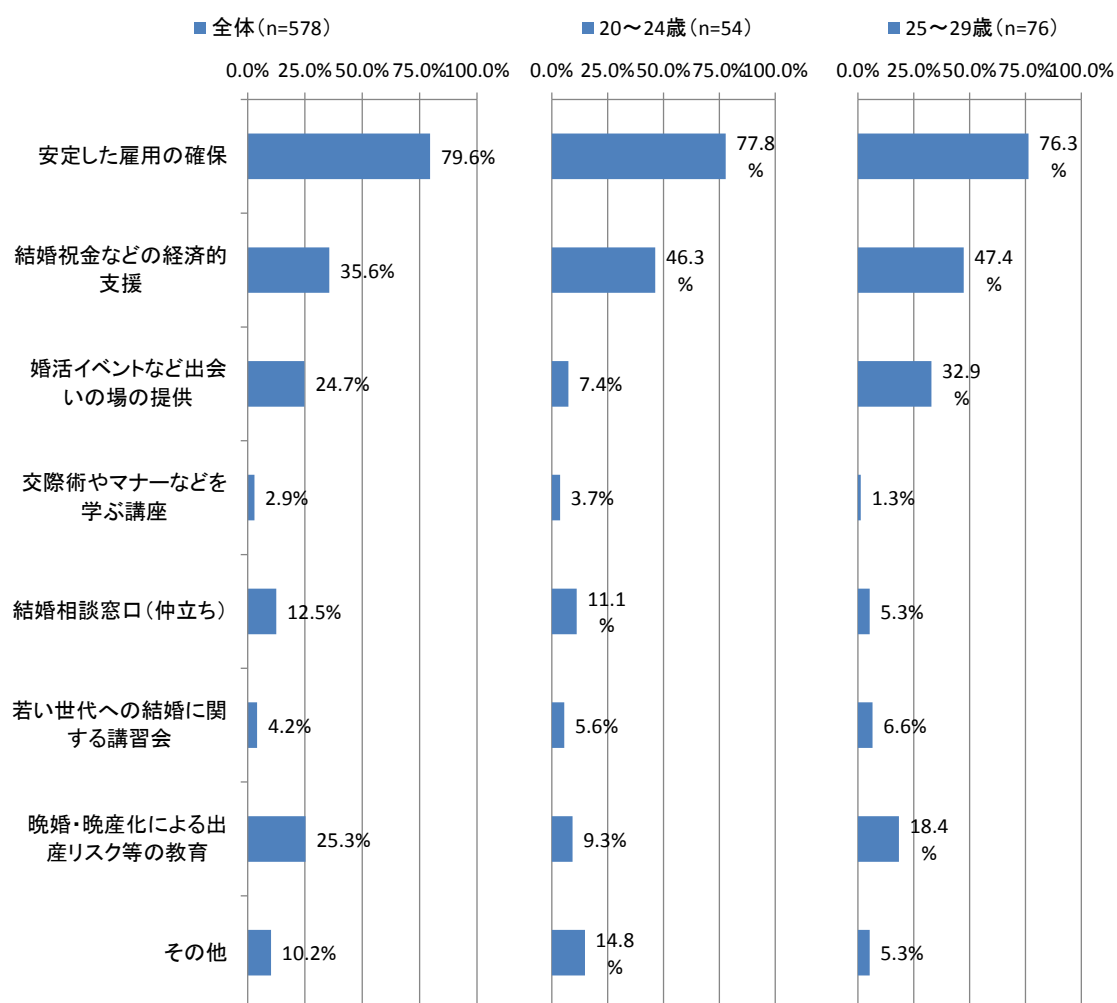
性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。

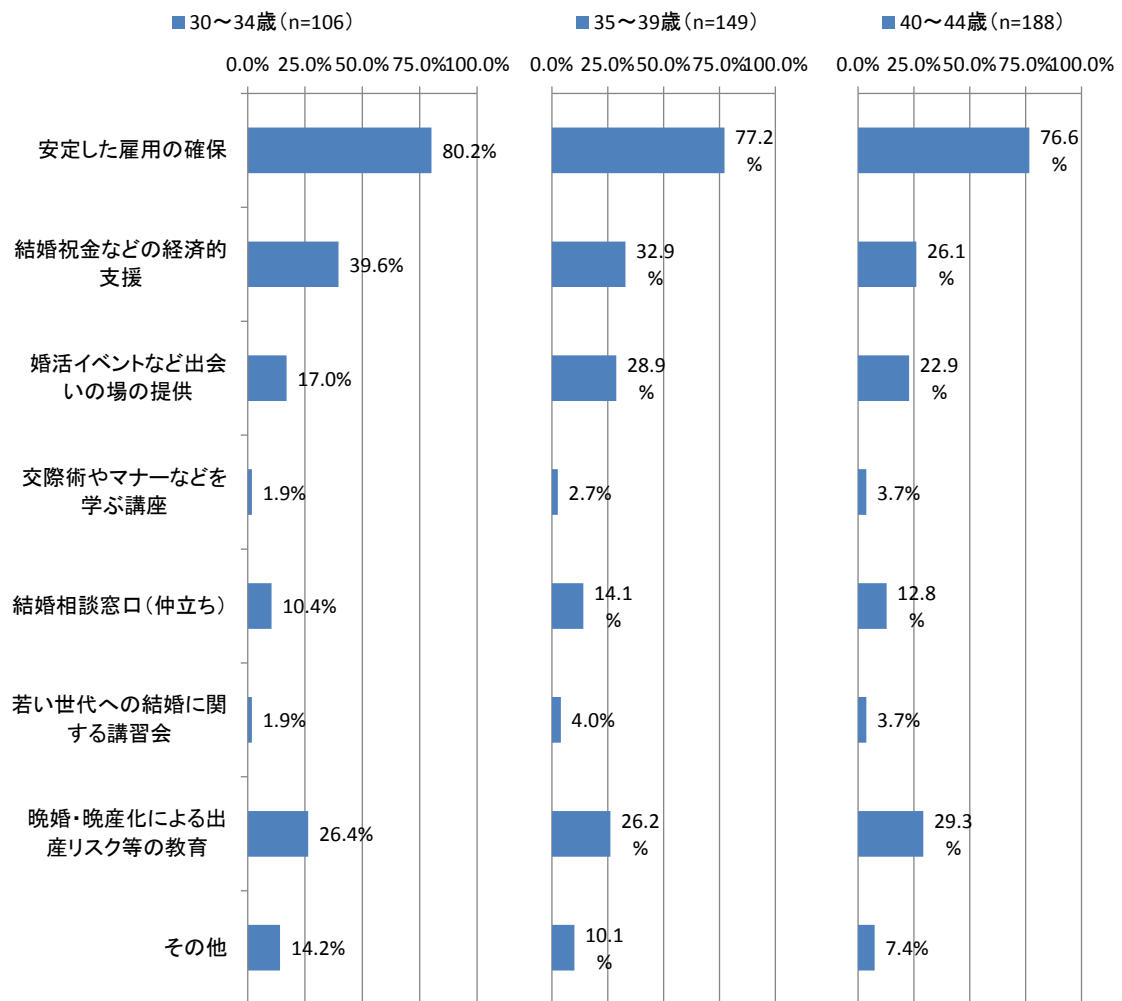


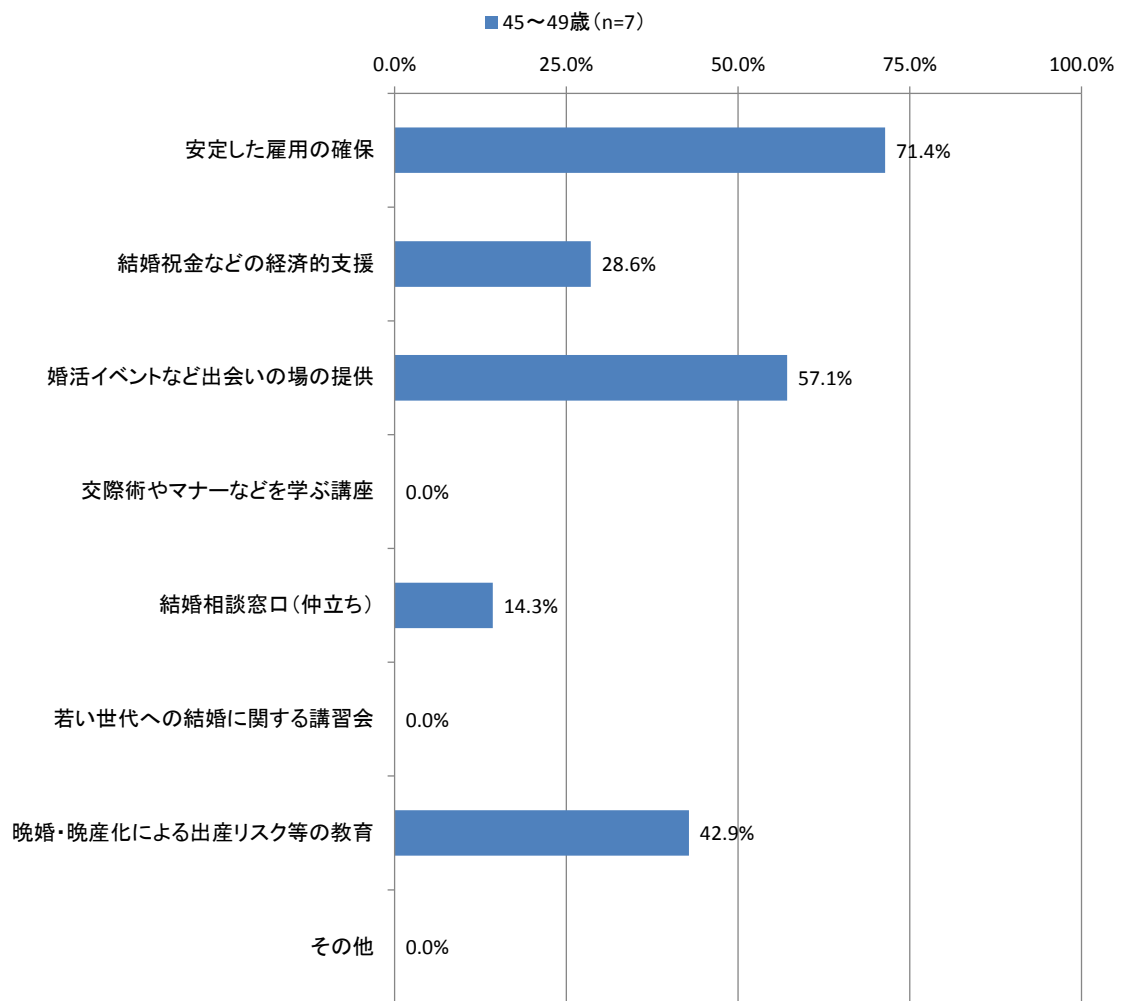
(ロ) 年代別

20～24 歳では、「婚活イベントなど出会いの場の提供」と回答した方の割合が全体より 17.3%低い結果となりました。一方で、「結婚祝金などの経済的支援」と回答した方の割合が全体より 10.7%高い結果となりました。

年代の若い方は、結婚のための出会いの場の確保よりも、経済的支援の方が重要であると考えている方が多いことがわかります。





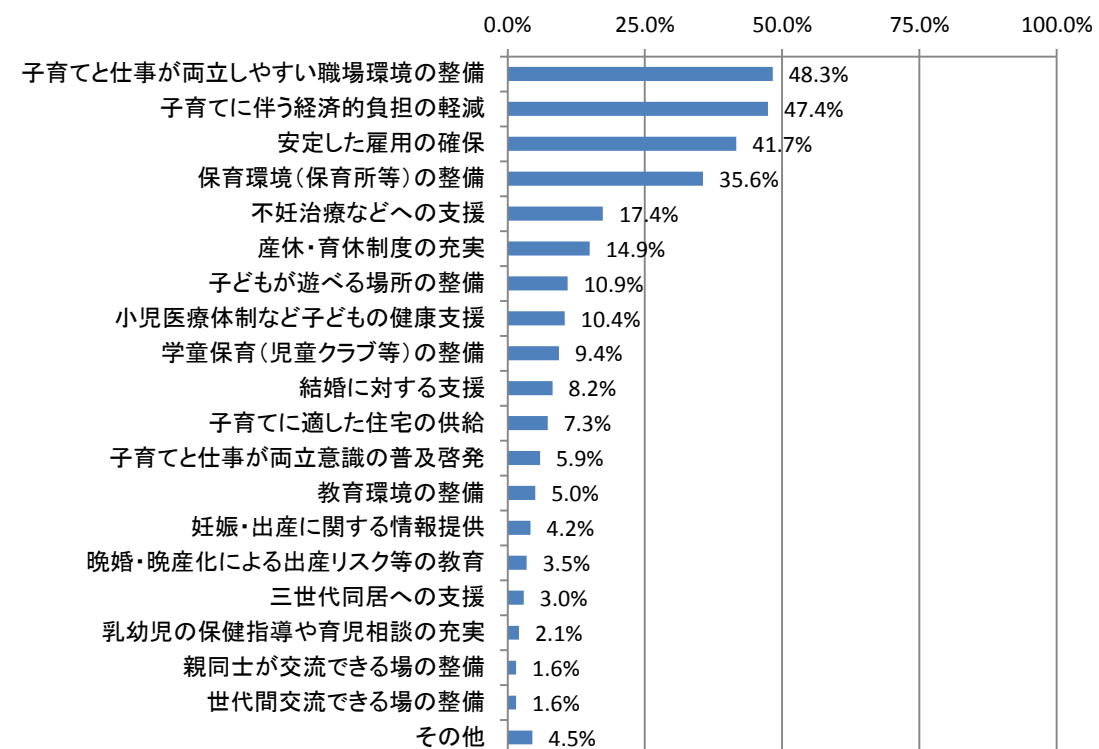


問16 あなたは、どのような支援・対策を行えば、子どもの数が増えると思いますか
(3つまで選択)

①全体集計

「子育てと仕事が両立しやすい職場環境の整備」と回答した方が48.3%と最も多く、次いで「子育てに伴う経済的負担の軽減」が47.4%で続いています。

結婚の促進と同様に、出生率の向上についても経済的な支援が課題であると考えている方が多いことがわかります。



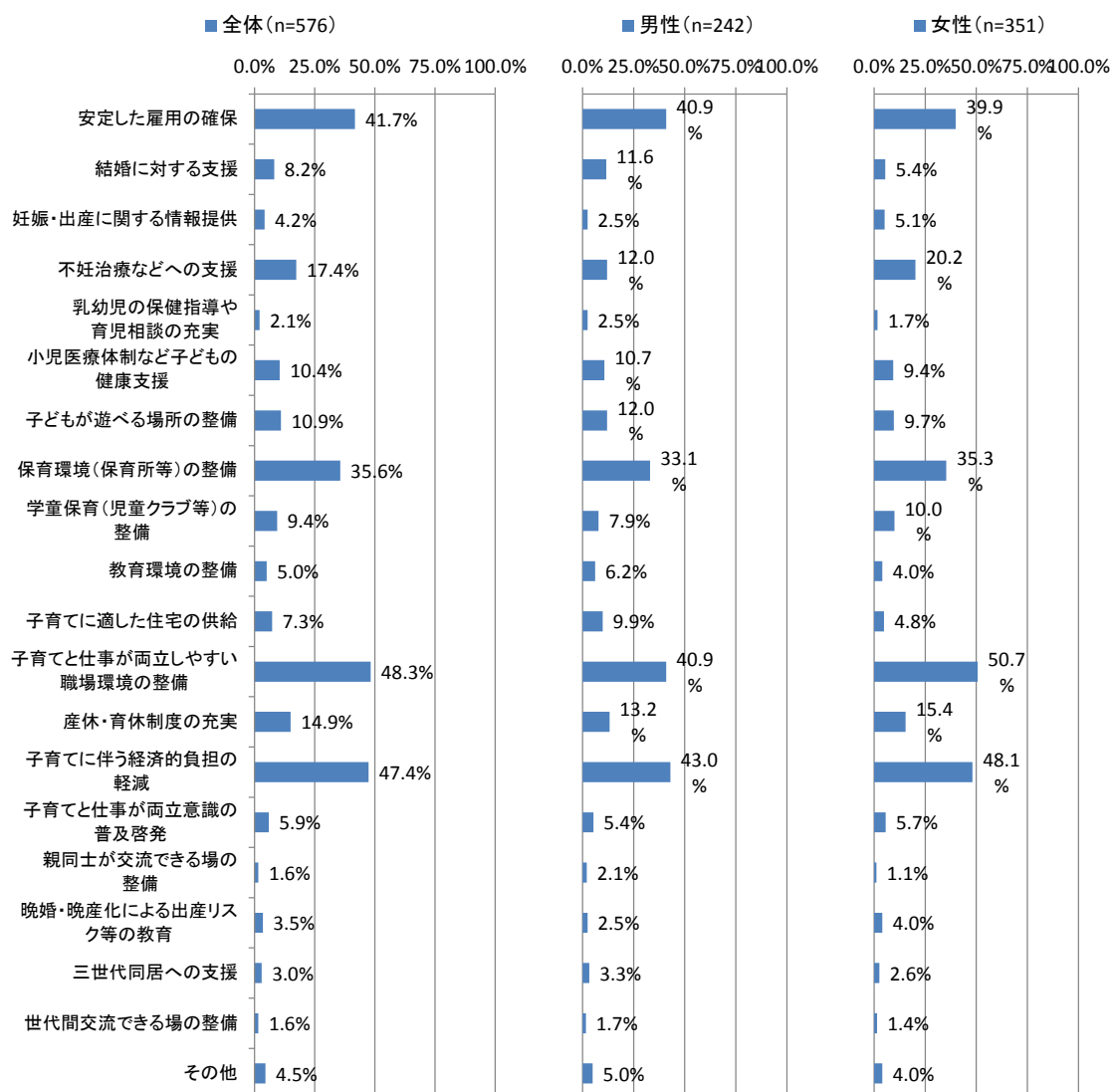
	人数	割合
安定した雇用の確保	240	41.7%
結婚に対する支援	47	8.2%
妊娠・出産に関する情報提供	24	4.2%
不妊治療などへの支援	100	17.4%
乳幼児の保健指導や育児相談の充実	12	2.1%
小児医療体制など子どもの健康支援	60	10.4%
子どもが遊べる場所の整備	63	10.9%
保育環境（保育所等）の整備	205	35.6%
学童保育（児童クラブ等）の整備	54	9.4%
教育環境の整備	29	5.0%

	人数	割合
子育てに適した住宅の供給	42	7.3%
子育てと仕事が両立しやすい職場環境の整備	278	48.3%
産休・育休制度の充実	86	14.9%
子育てに伴う経済的負担の軽減	273	47.4%
子育てと仕事が両立意識の普及啓発	34	5.9%
親同士が交流できる場の整備	9	1.6%
晩婚・晩産化による出産リスク等の教育	20	3.5%
三世同居への支援	17	3.0%
世代間交流できる場の整備	9	1.6%
その他	26	4.5%
有効回答数	576	

②属性別集計

(イ) 性別

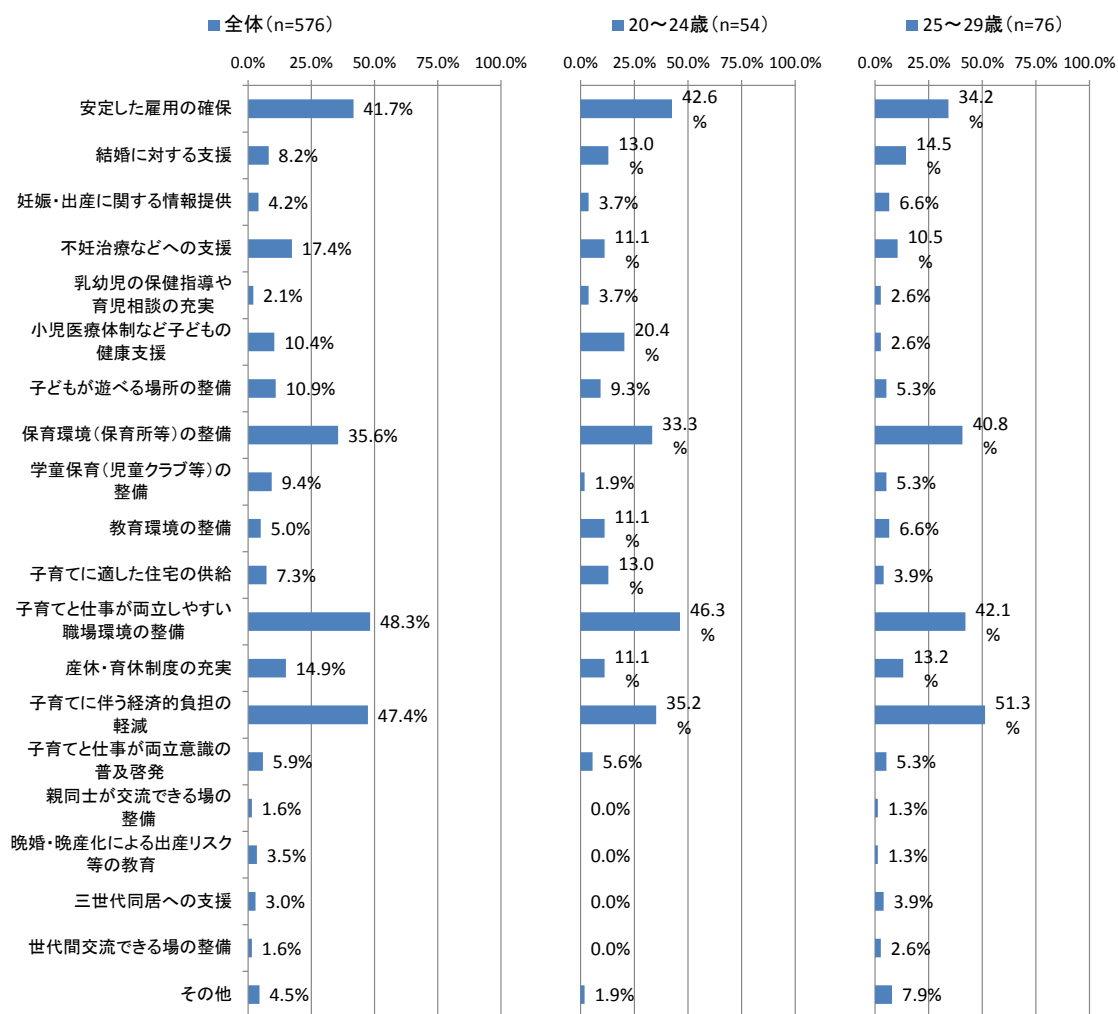
性別による回答結果の傾向に大きな相違はありません。

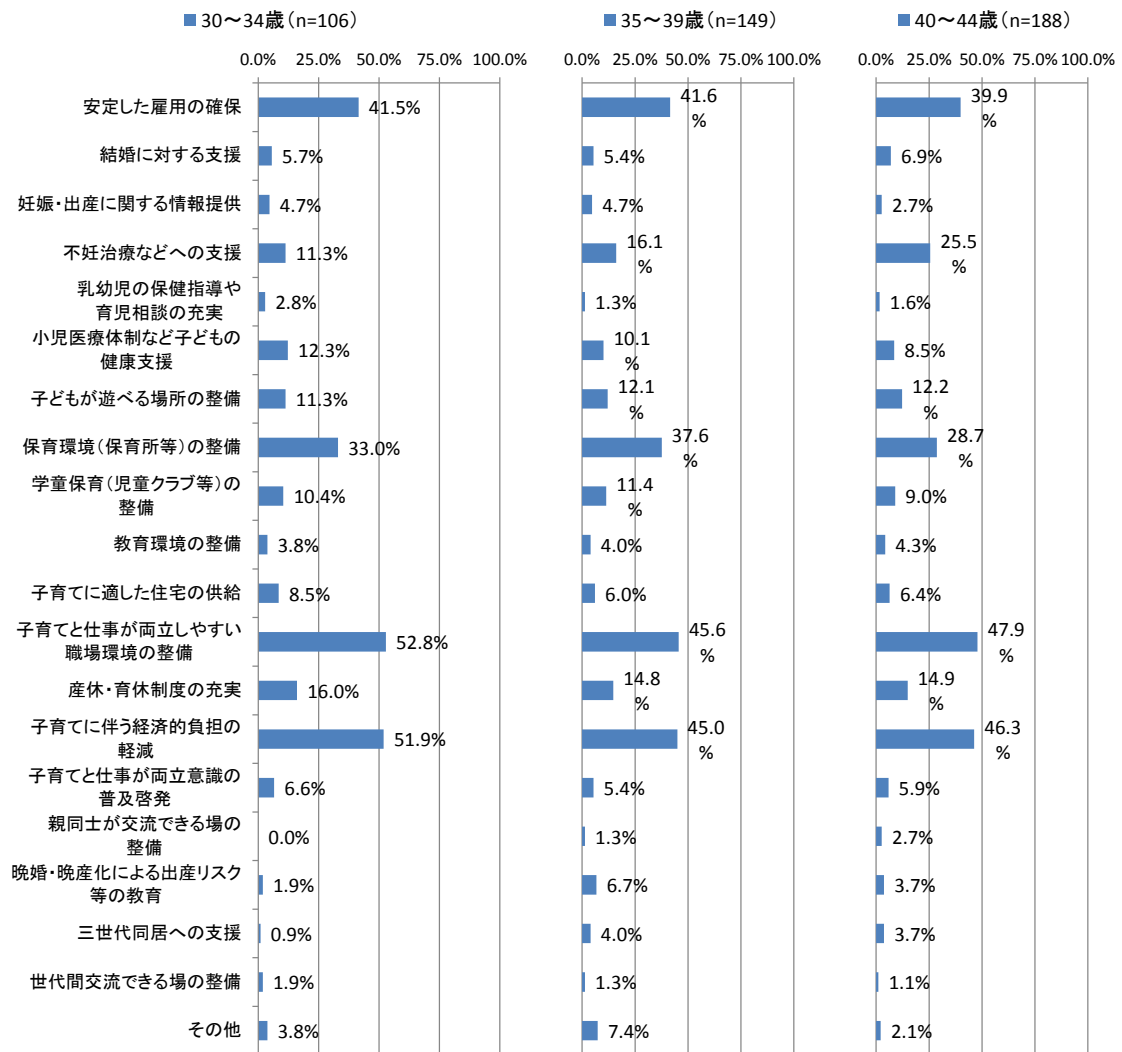


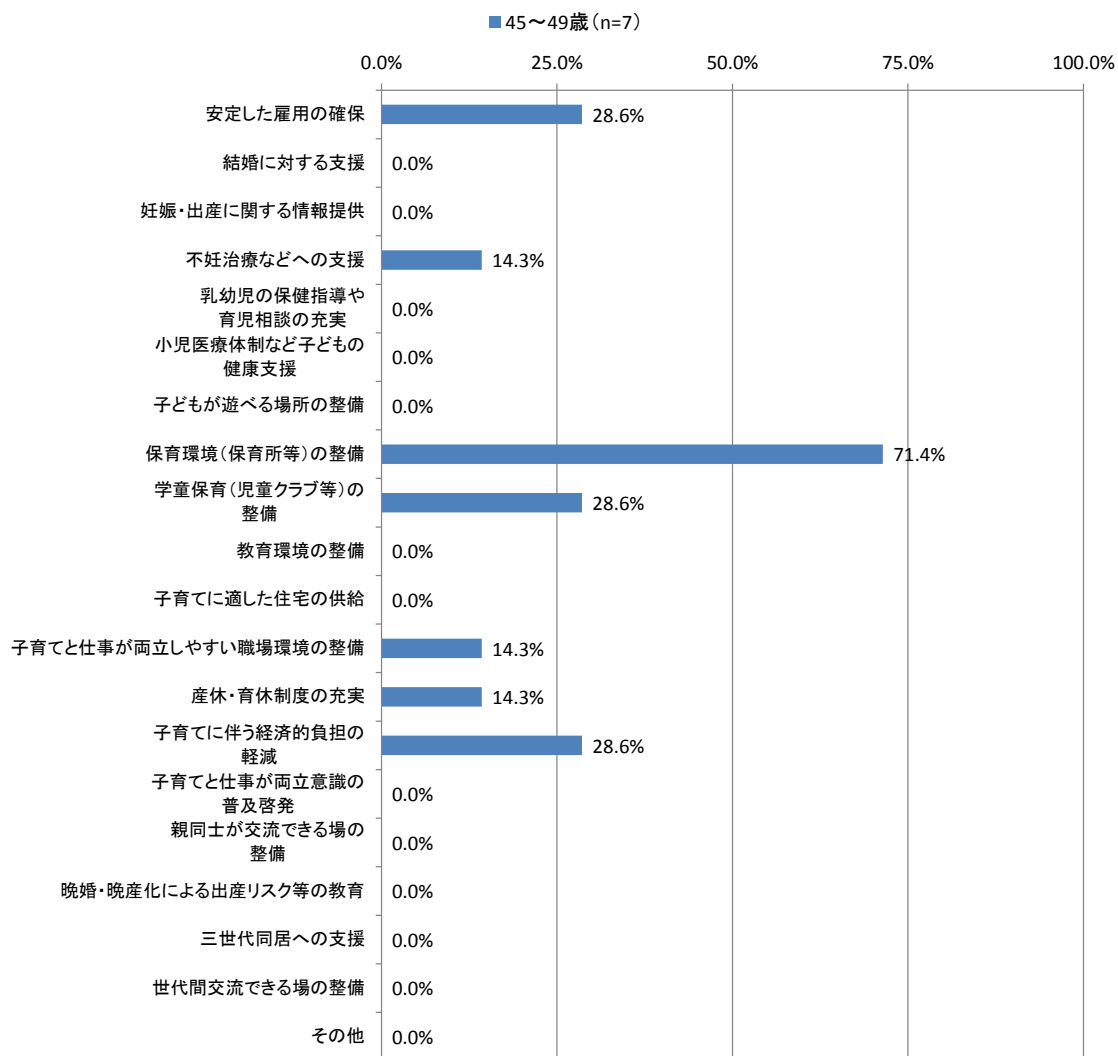
(ロ) 年代別

20～24 歳では、「子育てに伴う経済的負担の軽減」と回答した方の割合が全体より 12.2% 低い結果となりました。

上記以外の年代は、全体と比較して回答結果の傾向い大きな相違はありません。

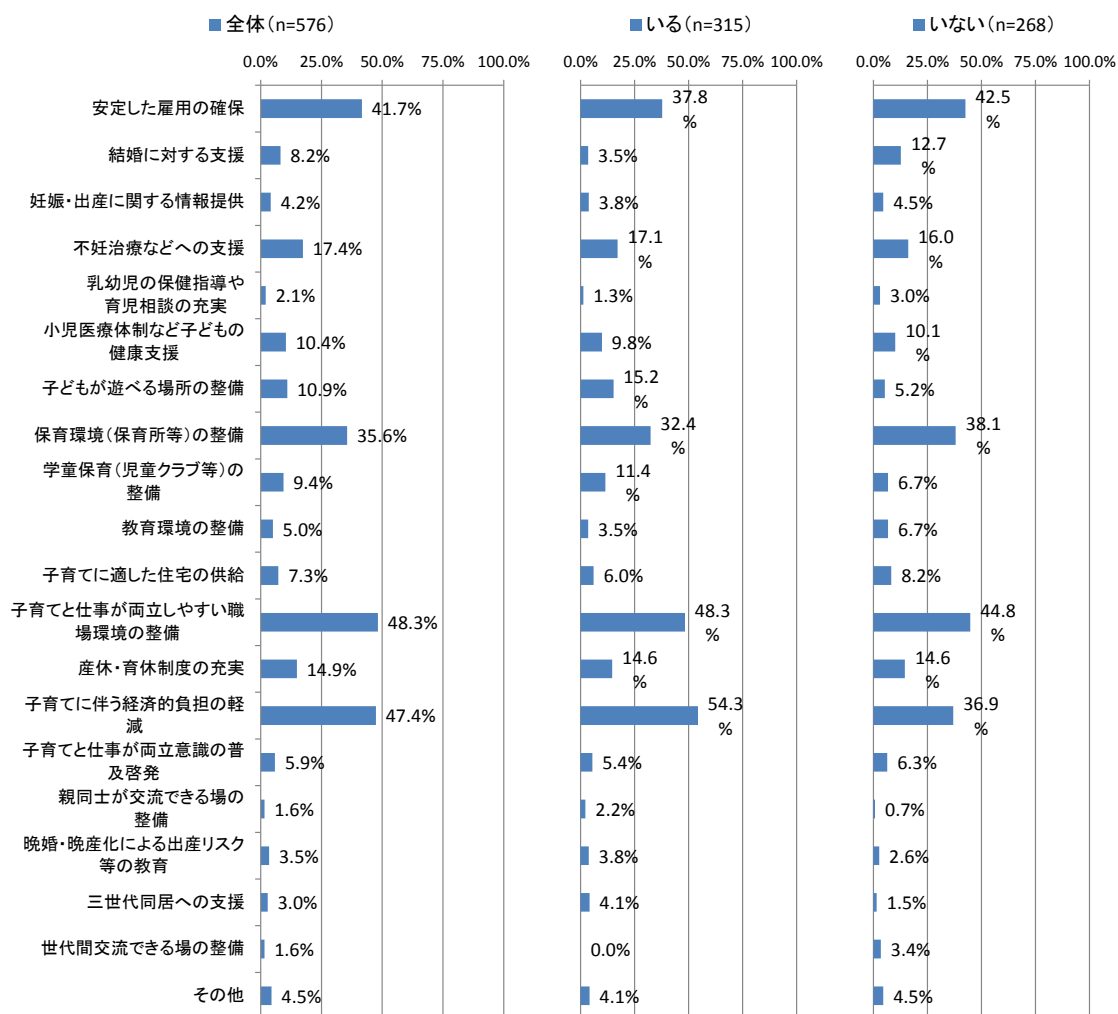






(ハ) 養育中の子どもの有無

養育中の子どもがいない世帯では、「子育てに伴う経済的負担の軽減」と回答した方の割合が全体より 10.5%低い結果となりました。一方、養育中の子どもがいる世帯では、「子育てに伴う経済的負担の軽減」(54.3%) が最も多く、次いで「子育てと仕事が両立しやすい職場環境の整備」(48.3%) が続いています。



以上